日本医療大学年報

第　5　号

2019年

日本医療大学

目　　次

１．使命・目的等…… 1

２．学生…… 8

３．教育課程…… 29

４．教員・職員…… 35

５．経営・管理と財務…… 38

６．内部質保証…… 53

７．大学が独自に設定した基準による自己評価…… 56

８．社会貢献…… 67

９．委員会等活動報告…… 69

10．教員の自己点検・評価…… 86

編集後記…… 134

１．使命・目的等

１－１．使命・目的及び教育目的の設定

１－１－①　意味・内容の具体性と明確性

「学校法人日本医療大学寄附行為」第３条に法人の目的を「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする」と規定している。さらに、「日本医療大学学則」第１条（目的）に本学の目的を「日本医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授及び研究し、人間尊重を基盤とした医療人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康及び生活の向上に貢献することを目的とする」と規定している。

同学則第６条第２項には、学部及び学科の教育上の目的として「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的及び論理的な実践力で、地域医療に貢献する医療人を育成する」と規定しており、使命・目的は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針)、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針)、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）に反映するとともに、建学の精神、基本理念、教育理念を学生及び教職員に分かり易く理解できるように次のとおり具体的に説明している。

○建学の精神

共生社会の実現～病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、その尊厳が重んぜられ暮らせる社会の実現を目指す～

○基本理念

「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」

医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、学生が、高度な専門知識と技術の修得にとどまらず、医療・福祉の現場と一体になったキャンパスで、高齢の方や障がいを持った方々と日々ふれあいながら学修することで、人のこころの痛みや思いがわかり自らも成長していく人材を養成します。

○教育理念

１　「職業人になる自覚をもとう」実践的教育を通して職業人としての自覚や誇りを育む。
２　「自律した人間になろう」己に厳しく、自ら考え、自ら行動する。
３　「確かな専門知識・技術を修得しよう」社会や時代の要請に応え、専門的な知識と技術を体系的に修得する。
４　「社会に貢献できる専門職になろう」医療・福祉に携わる人として、社会からの信頼を得る。
５　「問題解決能力を身に付けよう」自ら課題を発見し、活動し、振り返ることによって問題を解決する

三つのポリシー

○看護学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

看護学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1　人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
2　高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3　対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
4　科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力
5　科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1　人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
2　保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
3　科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
4　高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する
5　将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

看護学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1　看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
2　思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
3　人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
4　人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
5　知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
6　基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

○リハビリテーション学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1　人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質

2　高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力

3　対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力

4－1　対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力（理学療法学専攻）

4－2　対象者の主体的な生活を支援するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な作業療法を提供できる能力（作業療法学専攻）

5　科学的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1　人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる資質を育成するために、基礎教育科目を配置する

2　保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する

3　科学的根拠に基づいた理学療法･作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する

4－1　対象者の運動機能の改善を目的とした､高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（理学療法学専攻）

4－2　対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（作業療法学専攻）

5　豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

リハビリテーション学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲のある人材を求める。

1　理学療法士・作業療法士を志している人
2　理学療法学・作業療法学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3　基礎的コミュニケーション能力を有している人
4　他者を思いやる心がある人
5　何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやりとげる人
6　基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人
7－1　人の運動や動作のメカニズムに関心を持っている人（理学療法学専攻）
7－2　人の生活を専門的な視点から支援し、社会に貢献したいと思っている人（作業療法学専攻）

○診療放射線学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

1　人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質
2　高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
3　対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
4　科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
5　科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

診療放射線学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

1　人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
2　保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する
3　科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する
4　高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する
5　豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

1　診療放射線技師を志している人
2　診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人
3　基礎的コミュニケーション能力を有している人
4　思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
5　知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
6　基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

1－1－②　簡潔な文章化

使命・目的及び教育目的は、次のとおり簡潔に文章化している。

医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」という基本理念のもと、この理念を実現するために５つの教育理念「職業人になる自覚をもとう」、「自律した人間になろう」、「確かな専門知識・技術を修得しよう」、「社会に貢献できる専門職になろう」、「問題解決能力を身につけよう」を掲げ、病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、その尊厳が重んぜられ暮らせる社会の実現を目指し、社会に必要とされる医療・福祉の人材を養成します。

1－1－③　個性・特色の明示

本学の歩みは、昭和59（1984）年に札幌市豊平区月寒に開設した「特別養護老人ホーム幸栄の里」に始まり、デンマークから学んだノーマライゼーションを日本で実践するために、入所の方々だけでなく在宅の方々へのサービスも初めて事業化し、展開する中で、医療と福祉の高度な人材育成の必要性を痛感し、平成元（1989）年に「日本福祉学院」を開校し、これが本学の前身となった。本法人は、社会福祉法人ノテ福祉会を中心とする10法人とともに「つしま医療福祉グループ」を形成し、各種医療・福祉施設と大学施設が複合したコミュニティ「アンデルセン福祉村」をキャンパスの本拠地としている。

このような歴史を背景にして生まれた精神と理念は、全ての人々が安心して暮らすことができる「共生社会の実現」をめざし、「医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学」をキャッチフレーズとして、その使命・目的及び教育目的・目標に反映している。

1－1－④　変化への対応

大学教育改革の中の柱として『 三つのポリシーに基づく大学教育改革の実現 』において、「三つのポリシーを一貫性及び整合性あるものとして一体的に策定することにより、選抜・教育・卒業の各段階における目標を具体化し、大学教育の質的転換を図ること」として、平成29（2017）年から三つのポリシーを策定・公開することが義務付けられた。

本学では、三つのポリシーを見直すにあたり、まず始めに大学の理念や社会の要請等を踏まえた

ディプロマ･ポリシーを策定するため､平成28 (2016) 年９月に大学開設時に制定した｢建学の精神｣､｢基本理念｣ 及び｢教育理念｣ を一貫性あるものに見直した。さらに上記の見直し及び｢卒業認定･学位授与の方針｣ (ディプロマ･ポリシー)､｢教育課程編成･実施の方針｣ (カリキュラム･ポリシー) 及び｢入学者受入れの方針｣ (アドミッション･ポリシー) の策定及び運用に関するガイドライン (中央教育審議会大学分科会大学教育部会　平成28 (2016) 年３月31日) を踏まえて、平成30 (2018) 年11月、３学科 (２専攻を含む) ごとに三つのポリシーを見直した。

また、令和７ (2025) 年にはいわゆる｢団塊の世代｣ がすべて75歳以上となり、我が国における高齢化は一層進行していくものと予想されていることから、このような社会情勢を見据えた｢医療介護総合確保推進法｣ が施行され、地域における効率的かつ質の高い医療や介護の提供を総合的に確保する｢地域包括ケアシステム｣ の構築が求められている。本学では、こうした多様化する社会の要請に応えることのできる医療専門職を育成するため、平成31 (2019) 年度に教育課程・学部収容定員などに関する学則改正を行ったところであるが、今後は全ての規程等について、適宜、見直しを行うこととしている。

１－２．使命・目的及び教育目的の反映

１－２－①　役員、教職員の理解と支持

本学の建学の精神、基本理念、５つの教育理念の見直しについては、平成 28 (2016) 年に理事長、学長、常務理事、事務局長、経営戦略企画室長で構成する本法人の中長期経営計画プロジェクトにおいて検討し、理事会で承認を得ている。また、三つのポリシーの見直しは、運営会議で審議した後、教授会に提案し意見を求めており、建学の精神、基本理念、教育理念、使命・目的等を改正する場合は、運営会議・教授会・理事会に諮り決定しており、役員・教職員の理解と支持を得る体制となっている。この他、使命・目的及び教育目的は、学則に明示しているほか、CAMPUS HAND BOOK、ホームページ、大学案内にも掲載している。

１－２－②　学内外への周知

使命・目的及び教育目的は、ホームページ、CAMPUS HAND BOOK (教職員、学生に配布)、大学案内等に明記するとともに、校舎内の主要な場所に掲示するなどして周知徹底を図っている。

その他、入学式、学位記授与式、入学生ガイダンス、オリエンテーション、オープンキャンパスなどにおいて説明の機会を設けている。

１－２－③　中長期的な計画への反映

本法人の中長期経営計画に建学の精神、基本理念、教育理念が反映されるよう、平成28 (2016) 年７月からの中長期経営プロジェクトにおける審議を経て、同計画を見直した。

１－２－④　三つのポリシーへの反映

三つのポリシーが、本学の建学の精神、基本理念、教育理念を反映した内容となるよう、学科会

議、運営会議における審議を経て、教授会に意見を求め、見直しを実施した。

１－２－⑤　教育研究組織の構成との整合性

本学は保健医療学部のみからなる単科大学であり、学部は、看護学科、リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）及び診療放射線学科の３学科から構成される。また、附属施設として、図書館、認知症研究所、キャリア学修支援センターを設けている。

同学部には、必要な教員を配置するとともに、円滑な運営を図るため各種委員会を設置しており（図1－2－1）、使命・目的及び各学科の教育目的の実現のため、それぞれの委員会の審議内容を教授会及び学科会議で共有するなど、組織間の連携強化に努めている。

２．学生

２－１．学生の受け入れ

２－１－①　教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

本学は開学時（平成26（2014）年度）より「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していくことができる学生を求めています。養成する人材が卒業後に札幌地域のみに貢献するのではなく、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めます。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できるたくましい人材を募集します」といった内容を日本医療大学のアドミッション･ポリシーとして示してきた。加えて、令和元（2019）年度からは学科ごとにアドミッション・ポリシーを策定し求める人材像を示している。

アドミッション・ポリシーについては、ホームページや大学案内、学生募集要項、それぞれの学科のシラバスに掲載し、高校生、保護者、高校教諭、在学生等に幅広く周知を図っている。また、大学案内、学生募集要項はホームページ上にデジタルパンフレットとして公開している。

２－１－②　アドミッション・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証

本学の入学者受け入れ方針の周知については、本学が開催するオープンキャンパス、一日体験入学、高校訪問、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、多くの時間をかけて実施している。特に高校訪問については、教職員が一体となり、北海道内287校のうち約240校の高等学校を訪問し、オープンキャンパスや一日体験入学を案内するとともに、高校生の進路動向の情報収集を実施している。高校訪問は１期（４月から６月）、２期（８月から10月）、３期（12月から２月）と定期的に行い、１期は「在学生の学生生活状況の報告」と「オープンキャンパス参加誘導」、２期は「ＡＯ・推薦入試出願の誘導」、３期は「一般入試とセンター試験利用入試の出願誘導」と位置づけている。

本学の入学者受け入れの基本方針については、入学試験委員会で審議決定する旨規定されている。

本学で実施する入学試験は、平成26（2014）･27（2015）年度入試においては、一般入試（前期･後期）･推薦入試（前期）の２つの入試区分であったが、平成29（2017）年度入試からＡＯ入試（リハビリテーション学科のみ）、平成30（2018）年度入試から大学入試センター試験利用入試（前期・後期）・推薦入試（後期）を全学科で導入した。令和元（2019）年度入試から指定校推薦入試・大学入試センター試験利用入試（中期）･ＡＯ入試（全学科）を導入した。さらに、令和2（2020）年度入試からは、ＡＯ入試（後期　リハビリテーション学科のみ導入）・一般入試（前期）函館会場を設置した。

これまでに導入してきた入試は、全学科において一般入試（前期･後期）、推薦入試（前期･後期）、ＡＯ入試（前期・後期）、大学入試センター試験利用入試（前期・中期・後期）、指定校推薦入試の５つの区分で実施している。大学入試センター試験利用入試を除いた本学独自で実施する４区分の入学試験においては、将来、医療従事者として社会に貢献するという目的意識や本学アドミッション･ポリシーの理解、基本的なコミュニケーション能力をみる目的で、個人面接を必須としている。個人面接においては、面接委員間で受験生に対する対応や質問内容に大きな差異が生じないよう「面

接マニュアル」を作成し、面接の手順、評価の基準、評価項目ごとの質問例を記載し、面接委員に周知している。

入試問題に関しては、入学試験実施規程第７条（入学試験問題の作成の原則）に基づき、１科目に対し複数人で問題を作成している。また、問題作成に関しては、入試問題作成ミスを防止するために、第三者による点検を２回に分けて実施している。

２－１－③　入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持

入学定員は、平成30（2018）年度まで看護学科80人、リハビリテーション学科80人（理学療法学専攻40人、作業療法学専攻40人）、診療放射線学科50人であったが、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法規の整備等の法律」（平成26（2014）年６月18日成立、平成26（2014）年６月25日公布）では地域における質の高い医療を確保し、基盤整理を行うことを目標としていることから、令和元（2019）年度、看護学科の入学定員を80人から100人、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を40人から80人に増員した。翌年、令和２（2020）年度入試の入学定員充足率は、看護学科が110％、リハビリテーション学科が101％（理学療法学専攻123％、作業療法学専攻58％）、診療放射線学科が134％となり、３学科開設以降初めて全３学科が充足率100％を上回る結果となった。

リハビリテーション学科作業療法学専攻の入学定員充足率を伸ばすため、「作業療法士の魅力」と題したパンフレットをオープンキャンパスや高校訪問、進学相談会において配布しホームページ上でも閲覧できるようにしているほか、オープンキャンパスや一日体験入学において作業療法士の活動見学を実施し、職種の魅力を発信することにも努めている。また、入試においては、すべての入試区分で理学療法学専攻と作業療法学専攻の併願を認め、一般入試と大学センター試験利用入試でも３学科２専攻すべての併願を認めることとし、出願者数を増やす対策をとっている。

２－２．学修支援

２－２－①　教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科の教育課程編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）については、１－２－④に記載されている。各学科のカリキュラムの構成概念については大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針はシラバスに掲載し学生に周知している。

教員と職員等をはじめとする学修支援体制については、教務委員会において学生への周知について検討し、検討後教職員への周知を行っている。また、各学科長および各学科の学生担当教員（以下、学担）が中心となり、学生の個別対応を行い、他の教職員と連携している。

学内の各種委員会の構成員には、教員とともに事務職員も加わり、学生の抱える学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る・起こり得た問題事項に関して、解決に向けた方策を講じている。

学修支援の一環として、AO入試および推薦入試合格者に対して、本学教員による入学前教育を行っている。

新入生オリエンテーションは、４月初旬の２日間、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会・学生委員会からのオリエンテーション（履修登録・大学における学修に関すること、学生生活に関すること、図書室や学生相談室の利用方法など）を実施している。さらに、学担が中心となって、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、本学学生として必要な情報を伝え、新しい環境に早期に適応できるよう努めている。また、新入生オリエンテーションでは、教務委員会が作成した「学修ハンドブック」を配布し、アカデミア・スキルについての導入を図っている。

在学生については、在学生ガイダンスを前期始業日に実施し、新学年での心構えや注意事項について指導している。また、キャリア学修支援センターと連携し、日々の学習支援に加え、国家試験対策として全国模擬試験の実施などで学習の動機づけをし、支援している。

各学科（リハビリテーション学科においては各専攻）に学担を複数名配置し（表２－２－①－a)、学生の教学上及び生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている。さらに、リハビリテーション学科ではチューター制度を導入し、教員と学生、クラスメート、先輩と後輩の間の絆を強化し、有意義な学生生活の実現に努めている。

教務委員会では、各教員のオフィスアワーを半期ごとに教務課掲示板において学生に周知し、講義内容や学生生活に関する相談に利用している。教員の多くはオフィスアワー以外の時間にも、可能な限り学生に対応している。

学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」、「学生委員会」、「入学者選抜委員会」、「FD委員会」、「図書及び学術振興委員会」、「キャリア学修支援センター運営委員会」である。年度活動状況については、各委員会報告に記載している。

休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する実態については、各学科ともに学年の進行に伴い退学者、休学者の人数が増えていく傾向がみられる。令和元（2019）年度の休学者は15人（看護学科６人、リハビリテーション学科４人、診療放射線学科５人）であり、休学理由は進路熟慮が最も多く9人、次いで健康問題３人、経済的理由２人、学業不振１人である。退学者は22人（看護学科８人、リハビリテーション学科５人、診療放射線学科９人）であり、退学理由は、進路変更が20人、進路熟慮が２人であった。休学、退学等の学籍異動にあたっては、あらかじめ学担が学生と面談し、学担の所見を付した書類の提出を求めている。必要に応じて保護者とも面談を行い、理解を得るようにしている。休学者については、定期的に学担に現況を連絡することが課され、休学中の学生の生活状況等の把握・指導や支援については、学担が中心となり教職協働により行っている。

表２－２－①－ａ　2019年度学生担当教員

学　　科	学　　年	学生担当教員
看護学科	１年Ａ	○小山満子、高儀郁美
	１年Ｂ	○森口眞衣、吉田香
	２年Ａ	○吉野淳一、松本真由美
	２年Ｂ	○山田敦士、後藤理香
	３年	○大村郁子、菅原美保
	４年	○浅井さおり、齋藤道子
リハビリテーション学科	１年理学療法学専攻	○向井康詞、渋川佳彦
	１年作業療法学専攻	○清本憲太
	２年理学療法学専攻	○石橋晃仁
	２年作業療法学専攻	○村上元
	３年理学療法学専攻	○新開谷深、坂口友康
	３年作業療法学専攻	○及川直樹
	４年理学療法学専攻	○松崎由里子、西山徹
	４年作業療法学専攻	○岸上博俊
診療放射線学科	１年	○杉本芳則、小山和也
	２年	○木村徹、河原田泰尋
	３年	○白石祐太、渡邊良晴
	４年	○樋口健太、住吉孝

○：主担任

２－２－②　TA（Teaching Assistant）等の活用をはじめとする学修支援の充実

TAに関して、本学は大学院を設置しておらず、今後の課題である。

ただし、リハビリテーション学科においては、TAに代わるものとして「科目担当者制度」によるSA（Student Assistant）を活用し、全科目において、学生が教育用機器の準備、資料配布などによる授業の準備・補助、演習授業の準備・後片付けなどの補助を行っている。また、臨床実習開始前の期間は、上級年次生がSAを担当し、科目担当教員の指導の下に検査測定などの技術指導やアドバイスを行うことでサポートしている。

令和元（2019）年度に、リハビリテーション学科に聴覚に障がいを持つ学生が１人入学し在籍している。聴覚状況は先天聾で人工内耳（右）を装用し、左耳からの聴覚はないものの、右聴覚と読唇で会話の理解は可能である。当該学生の入学前より、学科会議等において、聴覚状況、授業環境、配慮事項を確認し、学科の全教職員が当該学生の障がいに対する理解を深め、適切に対応できるように準備し、実施している。具体的には、教室においては中央からやや左側前列に席を配置し、科目担当者に対しては、口述や板書での配慮事項を説明し、徹底して実施している。

オフィスアワー制度は、半期ごとに教務課掲示板において、学生に各教員のオフィスアワーを周知し、授業内容や学生生活に関する相談に活用している。教員の多くはオフィスアワー以外の時間にも、可能な限り学生に対応している。

２－３．キャリア支援

２－３－①　教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

キャリア学修支援センター（以下「センター」という）は、平成29（2017）年４月にそれまでの就職・進路対策委員会を改組し発足した。

看護学科は開設７年目となり、平成29（2017）年度に１期生、平成30（2018）年度に２期生、令和元年(2019)年度に３期生が卒業した。リハビリテーション学科は開設６年目となり、平成30(2018)年度に１期生、令和元年（2019）年度に２期生が卒業した。診療放射線学科は開設５年目となり、令和元（2019）年度に第１期生が卒業した。

本学は医療専門職の育成を使命としている点では看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科とも同様である。しかし、社会的・職業的自立に関する就職対策、国家試験対策などに異なる部分も少なくはない。そのため、学部としての取り組みと学科ごとの取り組みに分けて述べる。

［１］学部としての取り組み

センターは、部門員、専門員を通して各学科との緊密な連携のもと、社会的・職業的自立に関するキャリア教育、就職対策支援、国家試験対策支援及びリメディアル教育のための支援体制を構築している。

毎月１回、定期的に部門員、専門員、事務職員参加のもとセンター運営委員会を開催し、必要な業務にあたっている。就職・進学、国家試験対策に関する相談についてはセンター専門員が相談窓口となり、支援・助言を行っている。学生対応、求人対応、就職対策、国家試験対策などの専門員の業務内容は毎月開催の運営委員会にて報告されている。

教育課程外でセンターが実施しているキャリア教育の取り組み実績は、各種就職対策講座の開講や就職ガイダンスの開催、『就職ガイドブック』の作成等がある。これらの機会を通して、就職と進路選択への動機付けや社会人･職業人として必要な知識と礼節を学ぶ機会を設けている。真栄キャンパスと恵み野キャンパスに常駐している専門員は学生に対し就職相談や模擬面接などの直接的支援を実施し、社会的・職業的自立の発達を促している。

職業人として自立するための国家試験対策としては、専門員による各学科の教員と連携した、きめ細かいグループ学修、個人学修の企画を行っている。自習室の開放拡大、国家試験対策関係資料の充実、独自の問題集の作成（リハビリテーション学科）、国家試験対策講座（看護学科）の実施、自己学修の効果向上を図るため図書館の開館時間（真栄キャンパス図書館）の延長、センター専門員と学担による相談サポート体制の強化を行っている。

本学は医療専門職の育成を目指す大学であることから、教育課程においてはキャリア教育に繋がる科目である「臨地実習」と「臨床実習」を設定している。これらは、通常のインターンシップ以上に学生が働く目的を考え自己成長を促す機会となっている。「臨地実習」と「臨床実習」の時間数、回数、実施学年などは学科ごとに異なるが、センターではこれらの実習と連動させて各種講座を企画し、実施している。

学年進行に伴い、特に学業不振の学生をいかにして国家試験に合格させ、職業人として自立させ

るかについて課題となってきた。そのため、入学時学力の実態を把握するために、平成30（2018）年度から全新入生に対し、センターで作成した自己診断テストを行っている。自己診断テストの目的は、学生の基礎学力を把握し、教職員間で共有し、学生のニーズに応じた学修指導及び国家試験対策へと繋げることや、基礎的な計算力を問う数学と文章読解力等を問う国語の２科目とこれらを通した自己認識及び高等学校での科目の履修状況調査を行い、基礎知識の不足した学生の存在を明らかにすることである。令和元（2019）年度については看護学科、リハビリテーション学科は数学に関して１コマ（90分）の補習を２回ずつ実施した。診療放射線学科については、専門学校時代から数学、物理のリメディアル教育を行っており大学になってからも継承し行っている。情報科学については、大学設置後、新たにリメディアル教育として実施している。時間、回数についてはそれぞれの科目で１コマを８回実施した。

センターはまだ発足して間もないため、学生には新入生オリエンテーションや在学生オリエンテーションの機会を通し本学キャリア教育の内容やセンターの機能を説明し、センターの利用を促進している。保護者には入学式における保護者説明会、年１回行われる保護者懇談会などで、キャリア教育の紹介及びセンターの案内を行い、保護者の理解と支援を促している。

［２］各学科の取り組み

○看護学科

１）　キャリア教育・就職対策

看護学科は、幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を育成するために、看護学の専門的知識と技術に裏づけされた看護実践能力の向上を図っている。そのため、教育課程内外においてキャリア教育に積極的に取り組んでいる。

看護学科では、１年次から４年次までのカリキュラムにおいて臨地実習を取り入れている。臨地実習は看護実践場面における科学的根拠に基づく実践教育であると同時にキャリア教育の役割を果たしている。４年次の統合実習は、既修得科目の知識・技術を統合し、多様な課題に取り組む実習であるので、インターンシップ制度の代替となる。

このようなカリキュラムを踏まえ、１年次からキャリア教育に取り組んでいる。２年次には「実習前マナー講座」、３年次には「インターンシップマナー講座」「実習前準備講座」「履歴書・小論文対策講座」、４年次には「面接試験対策講座」を行っている。このプロセスで学生は将来に向け自己の課題を明確にし、臨地実習に取り組みながら自らの進路を選択していく。４年次は、より具体的な就職・進学活動をサポートし、学生が目指す看護が実践できる就職や進学の実現を図ってきた。病院施設からのパンフレットや求人情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように、センター室に専用コーナーを設け整備している。

平成30(2018)年度卒業の２期生は就職希望者77人（道内61人、道外16人）であった。77人の内訳は、大学病院12人、国公立・公的病院17人、民間病院48人であった。令和元（2019）年度卒業の３期生

は就職希望者72人（道内56人、道外16人）、大学院進学４人であった。72人の内訳は、大学病院8人、国公立･公的病院27人､民間病院36人､その他１人である。なお､就職希望者の就職率は100％である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し、社会で活躍できるよう丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

２） 国家試験対策支援

国家試験対策への支援は職業人として自立するための第一歩であり、極めて重要な位置づけである。平成29（2017）年度から看護師国家試験の出題基準が変更となり、新しい項目の出題や各領域を跨いだ臨地での判断能力を問う思考型問題が多く出題された。看護師として就業した際に求められる能力が国家試験で確実に問われている。看護学科では、計画的な国家試験対策として受験講座の開催、各種模擬試験の実施、模擬試験結果に基づく特別クラスの編成、補講の実施など、専門員、部門員が学科教員と連携し国家試験対策支援を行ってきた。

その結果、平成30（2018）年度卒業の看護学科２期生は78人の受験者中、76人が合格し、97.4%の高い国家試験合格率であった。また、令和元（2019）年度卒業の看護学科３期生は76人の受験者中、73人が合格し、96.1%の高い国家試験合格率を達成した。

表2－3－1　本学の看護師国家試験合格率

	受験者	合格者	合格率	全国平均（新卒）
平成30（2018）年度	78人	76人	97.4%	94.7%
令和元（2019）年度	76人	73人	96.1%	94.7%

今後も、４年間のカリキュラムにおいて考える力や判断力を養う教育のさらなる充実を図り、効果的な試験対策を実施していく必要がある。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得して社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。

○リハビリテーション学科

１） キャリア教育・就職支援

リハビリテーション学科は理学療法学専攻及び作業療法学専攻の２専攻からなり、多くの学生が卒業後理学療法士及び作業療法士として活躍することを希望している。幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を育成するために教育課程内外において、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。

リハビリテーション学科では２年次から４年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習は臨床現場における教育であり、同時にキャリア教育やインターンシップの代替としての役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。１年次からキャリア教育に取り組み学修への適応を図り、２年次以降は臨床実習に合わせて各種講座を実施している。２年次には「自己分析・表現」、３年次には「接遇」、４年次には「面接・小論文講座」を行っている。

求人情報はすべてセンターで受け付けている。病院施設からのパンフレットや求人情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように、センター室に専用コーナーを設け整備している。就職指導は専門員が中心となり学担と連携しながら行っている。

リハビリテーション学科では、全学で使用する就職ガイドブックの他にリハビリテーション学科に対応したより詳細な『就職ハンドブック』を用いてガイダンスを行うほか就職説明会等を開催している。令和元（2019）年度の就職説明会には、理学療法学専攻及び作業療法学専攻合同で約98施設が参加した。学生は、興味のある病院や施設等の説明を聞き、疑問点を解決したうえで希望する施設への就職活動を行うことができ、就職や国家試験への心構えにもなる。

就職説明会は、病院からの求人件数の増加と病院との連携強化を図る機会ともなっている。学生が就職活動を行う前には専門員及び各専攻の学担が随時窓口となり、病院の事情に詳しい教員にも相談できるような連絡体制をとっている。

求人票等の就職に関する資料については、学生がいつでも自由に閲覧できるようにしている。就職試験前には、学生に面接や小論文などの個別指導も実施している。

令和元（2019）年度卒業の２期生就職希望者は58人（札幌市内22人、札幌市外31人、道外5人）であった。内訳は国公立・公的病院6人、民間病院52人であった。なお、就職希望者の就職率は100％である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

２）　国家試験対策

リハビリテーション学科は、職業人として自立するための第一歩である国家試験対策を４年次から本格的に実施する。平成27（2015）年度から平成29（2017）年度は、年に３から５回の確認テストを行ってきた。平成30（2018）年度から２年次、３年次には年に２回、主要３科目に関する進達度テストを行い、国家試験に対する自覚を早くから促している。これらの結果は定期試験などと合わせて保護者にも送付し、試験の状況を伝えている。

４年次の臨床実習終了後の後期から、さらに国家試験対策が本格化する。国家試験対策として、国家試験日までの学修スケジュール、諸手続きなどを含む総合的な対策マニュアルを作成している。あわせて過去の国家試験に基づくサーキットトレーニング集を印刷製本し学生に配布している。

４年次後期からは専門員が中心となり、週５日間のグループ・個別学修支援、週１回の自作及び業者模擬試験を実施している。学修進度に応じ、グループの組み直し、ペア学修などきめ細かく指導している。

リハビリテーション学科では、センターと別に国家試験対策委員会（構成員･学科長、各専攻長、４年次学担）を設けている。２週間に一度の頻度でセンターと国家試験対策委員会の合同会議を行っている。国家試験対策委員会は４年次の学担もメンバーであり、特に指導が困難な学生については密接に連携をとっている。

令和元年度（2019年度）卒業の２期生は理学療法学専攻39人の受験者中、37人が合格し合格率94.9%であった。作業療法学専攻は21人の受験者中、21人が合格し合格率100%を達成した（表２－３－２）。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。

表2－3－2　本学の理学療法士･作業療法士国家試験合格率

	受験者	合格者	合格率	全国平均（新卒）
理学療法士	39人	37人	94.9%	93.2%
作業療法士	21人	21人	100%	94.2%

○診療放射線学科

１）キャリア教育・就職支援

診療放射線学科の学生の多くは卒業後診療放射線技師として活躍することを希望している。放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。また、継続的な自己研讃力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけた職業人を育成する。科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療の実践能力向上のためのキャリア教育を行っている。

リメディアル教育として、１年次に数学、物理学及び情報科学の補講を実施している。数学は学生個々の学力に合わせた講義内容としている。情報科学分野は高等学校により教育内容の差が大きいため、この差を解消する目的で行っている。１年次から３年次まで各学年の学力に合わせた受験対策講義を実施している。３年次から４年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習はインターンシップの代替としての機能を持ち、社会人・職業人の自立に向けたキャリア教育の役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。平成30（2018）年度、１期生の３年次から臨床実習が開始された。臨床実習の進行に合わせ、３年次は「接遇」「コミュニケーション」をテーマにキャリア教育講座を行った。令和元（2019）年度は４年生の臨床実習を行った。

令和元(2019)年度卒業の１期生就職希望者は25人(札幌市内７人、札幌市外10人、道外８人)であった。内訳は国公立･公的病院４人、民間病院15人、健診センター４人、一般企業他２人であった。なお、就職希望者の就職率は100％である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

２） 国家試験対策

第１期生の国家試験受験として、３年次に模擬試験を１回実施し、令和元（2019）年度の４年次には10回の模擬試験を実施した。また､専門員､部門員が学科教員と連携し国家試験対策支援を行ってきた。以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧な国家試験対策支援を行っている。令和元年度（2019年度）卒業の１期生は41人の受験者中、32人が合格し合格率84.4%であった。

表2－3－3　本学の診療放射線技師の国家試験合格率

	受験者	合格者	合格率	全国平均（新卒）
令和元（2019）年度	41人	32人	84.4%	82.3%

さらに、学生のスキルアップの一環として、第１種及び第２種放射線取扱主任者（国家資格）の資格取得にも積極的に取り組み、試験受験対策講座も実施している。

２－４．学生サービス

２－４－①　学生生活の安定のための支援

［１］学生サービス、厚生補導のための組織の設置とその機能

学生サービス、厚生補導のための組織として本学では「学生委員会」を設置している。委員は各学科２人から３人の教員と学生･教員サポートグループの職員で組織し、学長指名の委員長が委員会を運営している。委員会については委員長が招集し、原則月１回（第２水曜日16時30分から）の定期開催のほか、緊急な議題が生じた場合は持ち回りの会議等で対応している。

学生委員会では毎年11月に翌年度の運営計画を提示しているが、活動は大きく分けて１．通常の学生委員会業務、２．学生委員会主催行事、３．学友会支援に分かれている。年度末には運営報告を提出している。

学生委員会の学生サービス、厚生補導（SPS）のための組織の設置は開学年度でほぼ整い、その後は学年進行と学科の増設に伴う学生数の増加及びそのニーズに合わせて改善を繰り返してきた。看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科の完成年度を順次経て、全学科の卒業生を無事送り出すことで、単年度・学科毎の学生サービス、厚生補導を４年間積み上げ、学部としての支援のあり方を構築することができ、両キャンパスの学生サービス、厚生補導の平準化に努めた。

また外部評価を受けた年度であるためこれまでの学生委員会の取り組みを総括することができた。

［２］通常の学生委員会業務

学生サービス､厚生補導に関する学生委員会の通常サービスとしては以下の活動を実施している。

１）環境整備やその美化

・学生の居場所作りの整備、各棟の共同利用スペースの環境整備

・学内社会実験『自由文庫』の設置の趣旨と拡充

空いた時間に学生に読書の習慣をつけて欲しいとの趣旨で開学年度に始まった学内社会実験の『自由文庫』は2019年も継続した。教職員に読み終わった本を提供してもらい文庫の蔵書とし、本は自由に学内だけではなく、学外や自宅等、どこに持ち出してもかまわず、貸し出しの手続きは一切ない。読み終わると返却するシステムで、読んでいる間の本の管理は利用する学生の良識に期待する。令和元（2019）年度も真栄キャンパスのレストラン、診療放射線棟の４階、恵み野キャンパスのラーニングコモンズの３ヶ所に設置している。

２） 防災活動、災害時行動マニュアルの作成、配布

災害時行動マニュアルを作成し、毎年入学式後のオリエンテーションにて配布している。災害時の避難経路や緊急避難の方法、留意点等が名刺大の折り畳み式の冊子になっており、学生には学生証と同様に提携を勧めている。毎年５月の下旬には両キャンパスで全学対象の避難訓練が実施されるが、その時期に合わせて毎年災害時行動マニュアルの見直しが行われているが、今年度は避難訓練の日程が変更になったこともあり、改定を見送った。

平成29（2017）年には札幌市と本学の間に「福祉避難所等に関する学生ボランティア協定」が締結され、希望学生の登録募集は「学生委員会からのお知らせ」を通して今年度も実施したが、応募者はいなかった。大学の責務は研修等の開催であるが、防災意識を涵養するよい契機とするため例年実施していた札幌市の市民防災センターへのスタディバスツアーは今年度は中止した。

３） 学内の保安

学内における遺失物に関しては事務局で管理しているが､明らかに盗難等の被害を受けた場合は、被害届を大学に提出してもらうと同時に本人、保護者と話し合い、警察に届け出ることもある。届け出た場合は警察の事情聴取や捜査に協力を行う。これまで保護者から警察に届けた例は、ノートパソコンの置忘れによる遺失物が１件であるが〔平成30（2018）年４月〕、別の場所から翌日に見つかり、被害届を取り下げている。

今年度は前期に学内において、私物の盗難や隠す等の嫌がらせ行為、食堂のカウンターに土足で上がる、学生食堂の食器類の紛失等が矢継ぎ早に起こり、全学の教職員、学生に向けて緊急の警告を発するとともに、心無い行為を見聞きした場合は事務局や学生委員会の教員に知らせてほしいと掲示をするなど、再発防止への協力を全学に対して呼びかけた。その都度学生、教職員に対して掲示やポータルサイト等で私物の自己管理に関する注意喚起を実施したが、後期には同様の事態は発生しなかった。

4） 奨学金、学生の顕彰に関する業務

・学内奨学金被付与者の選考業務

・学生顕彰の選考業務と顕彰状授与式の挙行

5） 情報発信

学生への情報発信として、次のものがある。

① ニュースレター『あずまし』の発行

② 「学生委員会からのお知らせ」配布

③ 『あずまし』の拡大パネルによる日医祭での「大学の歩み展」の開催

④ 入学式、各学科のオリエンテーション、保護者懇談会における学生生活の説明

［3］学生委員会主催行事の実施

学生委員会の主催行事は、開学年度から計画的にすべての1回目を開催し、今年度に至るまでにその6回目を迎えている。社会人として必要な基本的知識を学修させるための講座やセミナー、あるいは人間力の向上や、医療従事者としての基礎教養を学べるような講師の招聘に毎年取り組んでいるが、今年度は講師派遣を依頼していた企業との日程調整が合わず1月に予定していた学生委員会セミナーは中止となった。

1） 成人する学生のための年金セミナーの開催

毎年4月から5月に各キャンパスにおいて､新さっぽろ年金事務所による説明会を実施している。恵み野キャンパスの参加者は45名であったが、真栄キャンパスの参加者は2名と極めて少なく、対象となる今年20歳になる学生への広報に課題を残した。

・啓発セミナー（今年20歳になる学生のための年金セミナー）新さっぽろ年金保険事務所

6月19日　真栄キャンパス　　2人

6月10日　恵み野キャンパス　45人

2） 安心・安全講座

今年度は5月から6月に各キャンパスにて以下の講座を開催した。

・デートDV、ハラスメントの被害者や加害者にならないための講話

・護身術講習会（北海道警察）

安心・安全週間

・警察が教える護身術講座実施

6月19日　真栄キャンパス　　10人参加

5月29日　恵み野キャンパス　68人参加

・デートDVの講演会　林美枝子教授

6月7日　診療放射線学科　　20人
　　看護学科　　127人
6月11日　リハビリテーション学科　60人

3）　命を学ぶ一週間

命を学ぶ一週間と題し、毎年10月から12月にかけて、交通事故被害者遺族の会による「いのちのパネル展」と学外講師による講演会『命』を各キャンパスにて例年通り実施している。命のパネル展は例年よりも1週間時期を早め実施した。また第6回を迎える講演会『命』は、次の講師とタイトルで実施し、学生から大変な好評を博した。

・医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院総長　前野宏氏
「ホスピスのこころ　～医療者として人として～」
　真栄キャンパス　　120人参加
　恵み野キャンパス　　73人参加

4）　学生委員会セミナーの開催

今年度は中止となった。

5）　スタディ・バスツアーの中止

例年3月に実施していたが、学生の参加者が少ないため、今年は実施時期の見直し等を行ったが、「福祉避難所等に関する学生ボランティア協定」のボランティア登録募集の学生がいなかったこと、参加者がリピーターばかりであること、春期休暇中の参加は故郷に帰省している学生も多く、参加学生を増やすことは困難であること等を議論し、今年度から取りやめることとした。

［4］学友会活動への支援

日本医療大学学友会は、平成26（2014）年4月24日施行の「日本医療大学学友会会則」に則って設置された。会則第2条により学友会は日本医療大学に在籍する学生全員をもって組織されている。前年度決算案、今年度予算案は、年間活動計画案、本部会役員案は4月の定期総会で会員の2分の1以上の承認を経て決定した。

学友会会長は全会員の選挙によって毎年1月に選ばれ、今年度会長は6代目の会長が各行事を主宰し、令和2（2020）年の2月に第7代の会長が決定した。本部会は会長が指名した各学科1人の副会長と、年度初めのオリエンテーションやガイダンスで選抜される学科各組の代表者2人のうちの1人から組織された。

年間を通しての主な学友会主催行事は、新入生歓迎会、体育祭、日医祭であるが、令和元（2019）年度はそれらすべての行事の第6回目を無事実施した。

［5］奨学金などの学生に対する経済的支援の実施

1） 日本学生支援機構奨学金、その他

日本学生支援機構奨学金の募集及び継続手続等に関してはキャンパス別に説明会を開催し、希望学生が受給できるよう手続きに配慮して行っている。また、地方自治体の奨学金制度、医療機関による奨学金制度などの情報を提供し、個別相談と申請手続きなどを支援しているが、令和元年度は地方自治体に慣例する申請の審査は１件もなかった。

2） 日本医療大学　特待生制度

学校法人日本医療大学特待生制度規程により、入学試験における成績優秀者で、入学予定者に対して授業料の半額相当の額を給付する制度を実施している。平成27（2015）年から施行し、平成28（2016）年度の入学生から適用しているが、今年度の対象学生は以下のとおりであった。

特待生制度実績　（単位:人）

年　　度	看　護	リハビリテーション	診療放射線	合　計
令和元（2019）年度	3	4	7	14

3） 日本医療大学ファミリーサポート制度

ファミリーサポート制度は、日本医療大学に入学しようとする者のうち、保護者や兄弟姉妹が日本医療大学又は前身の専門学校の卒業生又は在学生である場合、もしくは、「つしま医療福祉グループ法人又は関連法人」の役職員の家族である場合に、検定料及び入学金を免除する制度である。令和元（2019）年度の対象学生は以下の通りである。

ファミリーサポート制度実績　（単位:人）

年度	看　護	リハビリテーション	診療放射線	合　計
令和元（2019）年度	2	2	1	5

4） 日本医療大学　学生顕彰

人材育成の一環として、Grade Point Average（GPA）が優れ、学修態度において顕彰に値するとして教員の推薦を受けた学生又は、ボランティア活動や地域振興等の社会貢献活動において顕著な成果を残した学生に対して、学生顕彰を行い副賞として現金５万円を授与している。成績優秀による顕彰は毎年各学科・各学年５人ずつとし、社会貢献による顕彰学生は毎年全学２人、あるいは２団体としている（上限数であり、該当学生がいない場合もある）。令和元（2019）年度は全45名に成績優秀賞を授与し、初めて社会貢献賞が１団体に授与された。

［6］学生の課外活動支援

課外活動の支援は、主に学内団体の設置と活動に関するものである。学内団体は現在７月末と翌年の１月末までに設置申請を受け付け、学生委員会の審査を経て学長の承認によって設置が許可される。基本的な備品に関しては設置許可後に各団体からの申請を受けて学生委員会の予算で購入をしているが、活動の予算は学友会からの支援と個々の会費の徴収で行っている。令和元年度に新設された団体は１団体で、活動を停止した団体は２団体であった。全活動団体は18となっている。

学内団体は、年度の終わりに活動報告と決算報告を行う予定であったが、令和２（2020）年の２月からのコロナ禍により、学内団体の活動が停止し大学への登校も困難となったため、今年度の関係書類の提出は延期となった。

［7］学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談

本学では学生の健康相談・精神保健相談は保健室がその窓口となっている。真栄キャンパスの保健室には養護教員（常勤）が常駐し、日常業務にあたっている。学生の日々の体調管理に関する対応や軽度のけがや体調不良への手当のほか、実習に伴う予防接種に関する情報収集や管理等も行っている。

学生相談室は、原則毎週月・水曜日（長期休暇を除く）の11時30分から17時00分、毎月第２水曜日を恵み野キャンパス学生相談室の開室日で、これまでの開室日数や相談件数は以下の通りである。専門学校枠での開室日数が減ったため、本年は例年に比較して開室日数は減少しているが、相談件数は増加している。特に今年度は教職員からの真栄キャンパスにおける相談件数が倍数近くなっていた。昨年は学生のリピーターの相談が件数を底上げしていたが、今年はまた例年にもどり、数値的には平均１人４から５回の相談となっている。

		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
開室日数		18	65	65	63	63	48
	真栄キャンパス	18	59	55	55	55	40
	恵み野キャンパス		6	10	8	8	8
相談件数　延べ件数(相談人数)		20件	44件(8人)	66件(21人)	61件(17人)	82件(6人)	89件(26人)
学生	真栄キャンパス	12件	44件(8人)	41件(8人)	44件(8人)	82件(6人)	56件(7人)
	恵み野キャンパス		0	9件(5人)	0	1件(1人)	1件(1人)
教職員	真栄キャンパス	8件	報告なし	16件(8人)	17件(8人)	報告なし	31件(17人)
	恵み野キャンパス			0	1件(1人)		1件(1人)

本学にはハラスメント防止委員会のもとに学科各２人の教員がその任にあたる相談員の制度がある。学生は学生間で起こるキャンパス・ハラスメントに関しては、まずこの相談員に、学科を問わず相談することになり、その助言を得ながら被害をハラスメント防止委員会に申し立てることができるが、これまでキャンパス・ハラスメントとして申し立てが行われたのは２件〔平成31（2019）年３月〕であるが、令和元（2019）年度は１件もない。

日常的な種々の相談は学担のもとで行われるが、必要と思われる相談内容に関しては学生の承諾を得て各学科で情報を共有し、学科全体として対応することが可能となっている。また、学担を含

めたすべての教員はオフィスアワーを設け、常に学生の訪問や相談に備えている。

さらに今年度は「日本医療大学ハラスメント防止等に関する規程」の改訂が行われた。また「日本医療大学ハラスメント防止等に関するガイドライン」が作成され、ガイドラインに則ったガイダンスを両キャンパスで以下のように実施した。講師はハラスメント防止委員長と相談業務の専門資格を有する教員である。

真栄キャンパス　　9月24日（火）　講義室201　　参加者　26人

恵み野キャンパス　9月26日（木）　基礎医学演習室　参加者　21人

２－５．学修環境の整備

２－５－①　校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

本学のキャンパスは、北海道札幌市の南東部、札幌市営地下鉄東豊線福住駅からバスで約15分の自然豊かな環境に位置する真栄キャンパス（看護学科、診療放射線学科）と、新千歳空港と札幌市を結ぶJRの路線上に位置する恵み野キャンパス（リハビリテーション学科）を校地として所有している。

校地の面積は、２キャンパスを併せ46,599㎡であり、大学設置基準上必要な校舎面積を満たしている。

２－５－②　実習施設、図書館等の有効活用

［１］図書館

本学保健医療学部開設にともない、図書館は真栄キャンパス本館、恵み野キャンパス分館の二館体制で運営している。

本館は、専門学校日本福祉看護・診療放射線学院図書室、分館は専門学校日本福祉リハビリテーション学院の蔵書を基礎として開学以来段階的に整備を重ねてきた。令和２（2020）年３月31日現在の蔵書数は26,858冊（電子書籍含む）であり、そのうち洋書は568冊、和書は26,290冊である。

図書及び視聴覚資料の資料費は、開設準備時の予算に加え各学科300万円ずつ（平成30年度より240万円）を確保し、過去６年の資料購入受入数は表２－５－５のとおりである。

また、令和元年度は後援会の寄附を受け、図書及び視聴覚資料196点の受入れを行った。

表2－5－5　購入資料数

年　度	購　入　資　料　数				
	和図書（冊）	洋図書（冊）	和雑誌（誌）	洋雑誌（誌）	視聴覚（タイトル）
平成27（2015）年	508	81	93	27	65
平成28（2016）年	1,232	51	92	31	45
平成29（2017）年	417	3	90	25	22
平成30（2018）年	441	0	79	20	16
令和元（2019）年	406	0	80	20	10

雑誌は、令和元（2019）年４月１日現在、継続受け入れしているタイトルは100種（うち洋雑誌は20種）。図書の選書は図書及び学術振興委員会（以下、「図書委員会」という）の協力を得て学科ごとに行い、さらに図書館利用者からのリクエストも受け付けている。購読雑誌の選定は図書委員を通して学科ごとに行っている。

また、論文全文を閲覧可能な文献データベースを導入しており、「メディカルオンライン」（国内医学関連分野1,600種）「最新看護索引Web」（看護系和雑誌10種）、「CINAHL with Full Text」（医学・看護系洋雑誌600種）から利用者は豊富な学術文献にたどり着くことができる。

図書館の規模、開館時間、閲覧席数、情報検索設備や視聴覚機器等の配備等の利用環境の整備状況は表２－５－６から表２－５－８に示すとおりである。

表2－5－6　環境の整備状況

	面　積	座席数	収容可能冊数
真栄キャンパス	359.9 ㎡	82 席	23,028 冊
恵み野キャンパス	105.1 ㎡	50 席	10,194 冊
合　　計	465.0 ㎡	132 席	33,222 冊

表2－5－7　開館日、入館者数（※真栄本館のみの数値）

年　　度	開館日数（日）	入館者数総計（人）	１カ月平均（人）
平成27（2015）年	241	15,417	1,285
平成28（2016）年	244	15,444	1,287
平成29（2017）年	278	16,588	1,382
平成30（2018）年	234	14,877	1,240
令和元（2019）年	233	13,684	1,140

表2－5－8　開館時間

館　種	開　館　時　間		休　　館　　日
真栄本館	平　　日	9：00～20：30	日曜祝日、年末年始、蔵書点検期間、入学試験日、指定した夏期冬期休暇期間、卒業式、その他館長が認めた日。
	土 曜 日	9：00～12：00	
	長期休暇	9：00～17：00	
恵み野分館	平　　日	9：00～19：00	
	土 曜 日	9：00～12：00	
	長期休暇	9：00～17：00	

開学時は、平日19：00閉館、土曜休館であったが、学生の要望を受け平成27（2015）年度から土曜開館を実施、平成29（2017）年後期からは平日開館時間を20：30までに延長した。

情報検索設備及び視聴覚機器の配備等としては、所蔵検索端末（OPAC）は館内に２機（分館は

１機）設置してあり、インターネットによる蔵書検索（Web OPAC）ができる。データベース用の検索用端末は本館が10機（所蔵検索端末と兼用２機を含む)、分館が３機（所蔵検索端末と兼用)、プリンターは本館が１機、分館は２機設置され、検索結果や文献などをプリントアウトできる。

教員には教員専用のデータベースのIDとパスワードを配布しており、学外でのアクセスが可能である。

開学時から本館では個人視聴覚ブースを５席（１席はVHSも対応）設置し、分館はデータベース用端末が視聴覚ブースを兼ねている。

６か年の貸出状況は表２－５－９、契約データベースの利用状況は表２－５－10のとおりである。貸出数は減少傾向にも見えるが、データベースの利用状況の増加にみられるオンラインによる情報入手や、スマートフォンのカメラ機能での館内撮影による書籍の複製が好まれる傾向がある。
しかしカメラ撮影については、利用マナー（カメラ撮影時のシャッター音）や著作権の観点から、今後の利用方法を検討する必要がある。

新入生へのオリエンテーションは、分館本館ともに毎年４月に行っている。本館は図書館員による看護学科（１年）と診療放射線学科（３年）の講義内での文献検索ガイダンスおよび演習を実施、恵み野分館ではリハビリテーション学科２学年、３学年の講義内でそれぞれ文献検索ガイダンスおよび演習を実施している。しかし、学科により文献検索ガイダンスの内容にばらつきがあり、両館ともに利用者の来館時に必要な指導を個別で行うことでフォローしている。統一した内容での指導やガイダンス時間の確保が今後の課題であり、そのためにも教員と図書館の連携は必須と考える。

表2－5－9　過去６年の貸出状況　（冊数）

年 度	区　　分		
	学　生	教職員	その他
平成27（2015）年度	6,456	605	96
平成28（2016）年度	5,779	709	74
平成29（2017）年度	5,140	635	103
平成30（2018）年度	3,826	584	59
令和元（2019）年度	3,856	672	1

学生は共用学生も含む。H26年数値は、本館のみ

表2－5－10　契約データベースの利用状況　（検索回数）

年 度	データベース			
	医中誌Web	最新看護索引Web	メディカルオンライン	CINAHL with Full Text
平成27（2015）年度	3,849	－	－	－
平成28（2016）年度	1,751	医中誌と合算	－	288
平成29（2017）年度	2,665	医中誌と合算	4,876	301
平成30（2018）年度	11,379	医中誌と合算	5,804	49
令和元（2019）年度	13,912	552	5,083	696

２－５－③　バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

真栄キャンパスの校舎の入り口は、段差をなくすなどバリアフリーに配慮している。また、エレベーターや身障者用トイレを設置（真栄キャンパス）して車いす利用者等への配慮している。

恵み野キャンパスの校舎は、身障者用トイレの設置や玄関にスロープを設置するなどバリアフリーに配慮している。

２－５－④　授業を行う学生数の適切な管理

授業実施にあたっては、教育効果を高めるために、講義、演習、実習・実験などの講義形態に則し、複数の教員が分担し少人数グループを指導する形態が多く組み入れられている。また、各授業は、学科・専攻・学年で実施するものがほとんどである。

看護学科では、平成31（2019）年度から、収容定員の変更を行い、入学定員が80人から100人と増員したため、クラスサイズは80人から100人前後となった。講義におけるクラスサイズは、80人から100人前後である。基礎教育科目の「日本語表現」や「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「中国語」などの語学系演習科目をはじめ、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目は、授業科目や内容により、クラスサイズは50人前後である。特に、入学後間もなく実施される導入科目「看護を知る」、看護専門職としての知識・技術・態度を統合し、思考過程を重視する「看護研究演習」のクラスサイズは６人前後であり、少人数での指導で教育効果を高める努力をしている。また、看護学実習（小児看護学幼稚園実習以外の看護学実習）のクラスサイズは２人から４人とし、臨地実習指導者及び実習指導教員・大学教員それぞれが最大限の教育効果を高める配置としている。きめ細やかな指導を可能にするためには、大学専任教員の定着・増員が不可欠である。大学専任教員の推移は、表２－５－14のとおりである。

表2－5－14　看護学科専任教員の推移　（単位:人）

看護学科	収容定員	教授	准教授	講師	助教	合計	助手
平成30（2018）年度	320	11	2	6	6	25	2
令和元（2019）年度	340	14	3	3	7	27	3

リハビリテーション学科の理学療法学専攻及び作業療法学専攻では、基礎教育科目と専門基礎教育科目の共通科目のうち、「日本語表現」、「英語Ⅰ」、「中国語」などの語学系演習科目と一部の演習科目を除き、合同講義を実施している。また、専門科目のうち「共通・連携科目」でも合同講義となっている。それらの平成27（2015）年度から令和元（2019）年度までのクラスサイズは、50人から60人前後で推移している。各専攻単位で実施される授業のクラスサイズは、理学療法学専攻は30人から60人前後、作業療法学専攻は20人前後である。

診療放射線学科は平成28（2016）年度に開設し、完成年度を迎えた。

診療放射線学科の開設に伴い基礎教育科目の一部が看護学科と診療放射線学科の合同講義となった。必修科目（「心理学」、「公衆衛生」など）が150人前後とクラスサイズがやや大きくなっている。

選択科目の合同講義では、それぞれの年度や科目により、50人前後から140人前後とクラスサイズに幅がある。

各学科とも専門基礎教育科目、専門教育科目の学内での演習、実習・実験では、授業科目や内容によりグループワークを取り入れ、10人前後の少人数グループを複数の教員が分担して指導を行っている。また、看護学科「看護研究演習」「看護ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」や、リハビリテーション学科共通・連携科目「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」などのゼミナール方式の科目や、選択科目ではあるが診療放射線学科の演習科目についても、教員１人につき10人前後の学生を担当しており、実質的に少人数対応となっている。

平成28（2016）年度以降、看護学科、リハビリテーション学科では、選択科目で、履修者数が５人以下となる科目があるが、本学では開講制限は実施しておらず、少人数での授業を行っている。

２－６．学生の意見・要望への対応

２－６－①　学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

毎年全学対象の学生アンケートを今年度も実施した。やり方を今年度はWeb方式に今年から変更し、学生には授業時間内に手元のスマートフォンから解答を入力・送信してもらった。集計・分析結果報告書は学長に提出し、学長から教授会の意見をいただく議題として提出をしてもらい、修正後再び教授会での意見を踏まえた最終報告書を今年度からIR室に提出した。

２－６－②　心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析の検討結果の活用

健康相談に関して真栄キャンパスにおいては、保健室の位置が体育館に行く経路にあるため、学生の認知度も高く、日常的なケガや体調不良等の不具合での利用が多い。恵み野キャンパスにおいては、１号館１階に保健室を設置し、学修支援室への経路にあるため、認知度は高く、日常的に利用されている。今年度は年度の途中で保健室の担当職員が変わったが、そのことでの学生対応に関する不具合は起こっていない。

心理的な問題に関する相談は、学生相談室が対応するがその対応実績は２－４－①（7）に示した。今年度はリハビリテーション学科に障がいのある学生が入学してきたため、これまでほとんど整備が成されてこなかった障がい学生に対する合理的支援に関する取り組みがはじまった。学生委員会では委員長が、学生支援機構が開催する支援のための研修会に参加するなど情報の収集を行ったが、障がい学生への支援は心理的なことや具体的な学生生活だけではなく、他の委員会に関する修学や就業など多岐にわたるため、別のより包括的な組織での対応が求められるようになった。そのためのシステムの構築は次年度以降の検討となる。

経済的な支援に関しては、本学の奨学金貸与率は年々高まっており、その一方でアルバイト率も非常に多くなっている。今年、国の政策が決定し、来年度から消費税増税分を財源とする授業料の特別給付支援制度が開始されることになったため、その情報を収集し、適宜学生への広報に努めた。

奨学金に関しては返済が困難になる卒業生の増大が社会問題となっていて、さらなる貸与を検討する学生には、本人にも保護者にも返済計画を立ててからにするよう助言をしている。また、アルバイトの需要が経済的に高まることは、長時間労働や低賃金での就労のリスクが高まることでもあり、学生委員会では所謂ブラックバイトへの警鐘やワーク・ルールに関する啓発、今年の北海道における最低賃金の認知を学生委員会からのお知らせ等で行った。

そのほか、例年問題となっている学生の朝食欠食の対策や居場所作りについて、親元を離れて暮らす学生の増加とその対応に関しては、入学式後のオリエンテーションや秋に行われる保護者懇談会においてその取り組みを学生・保護者に説明してきた。

毎年必ず聞かれた大学へのアクセスに関する意見やクレームついては、再来年度に新キャンパス移転への期待がふくらんでいるからか、今年度のアンケート結果からはさほど聞かれなかった。学生生活に対する意見を求めたアンケートではあるが、国家試験対策に関するものが多く寄せられ、学生の不安や焦りが国家資格に絡むものであることが明らかとなった。

本学では自動車通学、自転車通学の学生が共に増加しているが、安全講習に関する研修会は４月に毎年実施し、その講習会を受けることを自動車通学の要件の一つとしている。

２－６－③　学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

施設・環境に関しては学生アンケートで10項目の質問を実施しているが、主に学生生活に関する施設や学食に関する項目がほとんどで､その改善には様々に努めてきた｡学修環境に関するアンケートは実習室や自習室に関する評価のみで、５段階で毎年評価を求めているが今年も３点台の評価となっている。

学修環境に関しては記述式の回答においてコンピュータの設備や教室の音響設備に関する改善の要望が多く、これは修理等で対応している。また、真栄キャンパスでは自習室の整備の要望に対しては、20時30分まで延長し、個別に学修しやすい机の配置や机上の間仕切りを設置した。

さらに平成30（2018）年度から、人権擁護委員会の提案で定期試験の合否は３日以内に、成績発表からは１週間以内に疑義申立てができる制度を整えたが、申し立ては前期に１件、後期に１件発生している。

３．教育課程

３－１．単位認定、卒業認定、修了認定

３－１－①　教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

３学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）については、１－２－④に記載されているので割愛する。ディプロマ・ポリシーは、大学ホームページ等で公表し、学生募集要項、SYLLABUSにも記載している。

３－１－②　ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

各教科目の成績評価方法は、科目責任者によってSYLLABUSに明記し、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用している。SYLLABUSには、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。また、SYLLABUSには、科目ごとの具体的な評価方法や配点を明記している。評価については、SYLLABUSに明記されている客観的な基準に従い、公正かつ厳正に評価を行っている。

これらの内容と履修上の注意点は、各学年のオリエンテーションにて学生への周知徹底を図っている。単位の認定に関しては、教務委員会で審議し、教授会に意見を求め学長が認定している。なお、本学の成績表記は、表３－１－１のとおりである。

表3－1－1　成績評価

成　績　評　価	評　　点（点）	単　位　付　与
ＡＡ（　秀　）	90－100	合　　格
Ａ　（　優　）	80－89	
Ｂ　（　良　）	70－79	
Ｃ　（　可　）	60－69	
Ｄ　（不　可）	59以下	不　合　格

３－１－③　単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

単位認定、進級及び卒業認定は、学則に定められた基準に従って厳正に行っている。単位認定や成績評価は、学則第27条（単位数の計算方法）、第28条（試験）、第29条（成績の評価）に規定している。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第30条、第31条に規定されている。卒業や学位の授与についても同第32条、第33条に示されている。また、学則第26条、第28条第２項、第30条及び第31条の規定に基づき、履修規程を別に定めている。

履修規程には、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA（Grade Point Average、総合平均点）、単位授与、進級要件、臨地・臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等にお

ける履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修等を示している。

本学における履修は、日々の学修の積み重ねが重要であるとしている。成績評価については、GPA制度による総合成績評価を導入している。GPA は、学期ごと、年度ごとに通算の値を算出している。CAMPUS HAND BOOKにその説明を記載し、成績票に表示して学修評価の参考となるようにしている。また、GPAは、奨学金制度の適用、成績優秀者を選定する際の参考資料、進路指導等に有効に用いている。本件は、履修規程第６章第17条第１項、第２項やCAMPUS HAND BOOKに記載している。

また、各学科で履修の上限単位（CAP）を設け、１年間に履修できる授業単位を制限することで、１単位に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化を図っている。本件は、履修規程第３章第４条第２項をCAMPUS HAND BOOKに記載している。

進級要件は、履修規程第７章第19条の進級要件により、⑴～⑷のように定められている。

⑴　１年次から２年次への進級

⑵　２年次から３年次への進級

⑶　３年次から４年次への進級

⑷「基礎教育科目の選択科目」

卒業要件は、本学学則第32条（卒業）に、「本学に４年以上在学し、別表第２に定める所定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。

看護学科、リハビリテーション学科及び診療放射線学科の卒業要件は、表３－１－２のとおりである。

表3－1－2　卒業の要件　（単位）

学　科	看　護	リハビリテーション	診療放射線
必　修	103	50	102
選　択	21	74	24
合　計	124	124	126

他の大学等において履修した単位の認定及び単位数の上限については、学則第30条、第31条の定めにより、履修規程第９章第22条（他大学等の対象となる履修等）、第23条（他の大学との協議に基づく学生の履修等）、第24条（認定単位及びその上限）に規定され、「60単位を超えないものとする」と規定している。

また、学則第33条、第34条の定めにより、履修規程第８章に、資格取得のために必要な要件を規定している。

なお、進級・卒業要件の基準についてはCAMPUS HAND BOOK、SYLLABUS等に明示し、学生及び教職員に周知している。

成績結果については、学期毎（９月と３月）に保護者と学生に通知しており、平成30（2018）年

度から成績についての「疑義申し立て」を制度化している。

３－２　教育課程及び教授方法

３－２－①　カリキュラム・ポリシーの策定と周知

平成30（2018）年度、学長のリーダーシップの下、運営会議にて三つのポリシーの見直しの原案を作成し、原案は学科会議にて協議し、最終的に教授会において意見を求め、検討を重ね、新たな三つのポリシーを策定した。

各学科の新しいカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を示す内容とした。カリキュラム･ポリシーは、大学ホームページ、学生募集要項、SYLLABUS等で公表している。

各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針はSYLLABUSに掲載し学生に周知している。

看護学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、多様なチームとの連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を教授する」である。

看護を実践の科学として位置づけ、「人間」「環境」「健康」「看護」の四つの基本概念からなる教科目でカリキュラムを構成している。看護学は､人がよりよく生きることを支える実践科学である。人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人びとの健康の保持・増進と健康障がいを持つ人びとへの生活を支援する看護師に必要な教科目を配置している。

リハビリテーション学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「幅広い知性と豊かな感受性のもとで『人間を尊重する態度と高い倫理観』を修得し､『他者への共感的理解と人間関係形成能力』や『多様なチームとの連携・協働力』そして『科学的思考と問題解決能力』を育むとともに専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての知識・技術・態度を教授する」ことを教育上の目的とし、理学療法士・作業療法士に必要な教育科目を配置している。

リハビリテーション学科のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域医療・福祉に貢献できることができるように構成している。

診療放射線学科の教育目的は、本学の教育理念に基づき、「放射線医療の高度化や多様化に対応するため、基礎的な知識と技術の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する」である。

診療放射線学科のカリキュラムは、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけ、専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、必要な教育科目を配置している。

３－２－②　カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

平成30（2018）年度、学長を中心に、三つのポリシーの見直しの原案を作成し、さらに関係会議において検討を重ね、新たな三つのポリシーを一体的に策定した。その中でカリキュラム･ポリシーとディプロマ･ポリシーとの一貫性についても検討している。内容としては、ディプロマ･ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを一体的で整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係をわかりやすく示すことであった。

ディプロマ・ポリシーを本学の教育によって「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質･能力を明確化し、カリキュラム･ポリシーについては、ディプロマ･ポリシーを踏まえた教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を具体的に示す内容とした。

さらに、カリキュラム委員会においてカリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシーと科目の整合表）が策定され、各学科での検討の後、教授会にて承認された。

３－２－③　カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

各学科の教育課程については、SYLLABUSにおいて、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進度表（楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修）について述べている。

本学の教育課程は、授業科目を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」及び「専門教育科目」に区分し編成している。カリキュラムマップを整備し順序立てて履修できるように年次配当し、体系的編成を行っている。

看護学科では、基礎教育科目を５領域（32教科目）、専門基礎教育科目を２領域（27教科目）、専門教育科目を３領域（55教科目）に区分し教科目を配置している。看護学科では基礎教育科目が他学科に比較して多くなっている。看護学学修の導入科目として「看護を知る」など、看護について考える問題意識の明確化を目的とした独自のカリキュラムを編成している。

リハビリテーション学科では、令和元（2019）年度から新たな教育課程での授業を実施しており、基礎教育科目を３領域（32教科目）、専門基礎教育科目を３領域（29教科目）に、専門教育科目を６領域（理学療法学専攻47教科目、作業療法学専攻42教科目）に区分し授業科目を配置している。

診療放射線学科では、基礎教育科目を３領域（27教科目）、専門基礎教育科目を３領域（33教科目）、専門教育科目を10領域（44教科目）に区分し授業科目を配置している。

３－２－④　教養教育の実施

本学の教養教育は各学科においての共通科目と各学科の独自で必要な教養科目を「基礎教育科目」として設定している。医療従事者となる基礎的知識として、看護学科では「導入」「人間の理解」「人間と社会」「生活と情報」「語学」で構成されている。リハビリテーション学科及び診療放射線学科では、「科学的思考の基礎」「人間と生活」「語学」で構成されている。

カリキュラム委員会において、教養教育についての検討に関する全学方針を検討し、学科横断的

な視座から基礎教養科目の運用、科目名や開講時期等の統一化を図っている。

３－２－⑤　教授方法の工夫・開発と効果的な実施

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち、専門性が高くなる前に基礎教育科目の単位修得が必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学修意欲の高揚を目的としている。

教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、自主的、問題解決型授業の展開や映像などを利用し視覚への強調を行っている教員が多い。FD研修会を通じて教授法の向上を図る試みが行われている。2019年度研修の内容としては、

①「カリキュラム評価とアセスメント・ポリシー策定方法について」

②「教育の内部質保証に向けた教職員ひとりひとりの役割」

である。原則全教員が参加し、教員の教育能力を高めるための実践的方法の向上を図る試みがなされている。

３－３．学修成果の点検・評価

３－３－①　三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

三つのポリシーを踏まえた学修成果を点検・評価する方法を確立するには今しばらくの時間が必要と思われるが、現行では各学科で学修成果を点検・評価する方法を少しずつ模索しデータを蓄積しはじめている。

三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価に入る前に、ポリシーが日々の学修活動とどのように結びついているのか理解されている必要がある。三つのポリシーのうちカリキュラム・ポリシーについてはカリキュラム委員会がカリキュラムマップを作成し、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科それぞれの授業構成とカリキュラム・ポリシーがどのような符合関係にあるのかを示し令和元（2019）年度よりシラバスに掲載している。

三つのポリシーのうちカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーとも関連する学修成果を把握しようとする取り組みも継続・拡充している。看護学科で卒業を迎える学生に向けて実施しているアンケートは、卒業時教育目標達成度と学習成果アンケートと呼称され、学生と教員双方に同様の内容の質問に回答するものとなっている。リハビリテーション学科でも同様に卒業生に向けて学修到達度アンケートを実施しているが、これには学生のみが回答し教員は参加していない。令和元（2019）年度末にはじめての卒業生を送り出した診療放射線学科でも、国家試験終了後に学修到達度を確認するアンケートを実施している。このような達成度・到達度や学修成果についての年度ごとの評価は、経年的に蓄積することにより三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価の際の資料として運用できるものと見込まれている。

三つのポリシーのうち特にディプロマ・ポリシーに関連が深いものとして卒業生の特性が挙げられる。この特性を把握するには学生の卒業後の状況をある程度把握したり卒業生に学生時代を振り

返ってもらったりする必要があるかもしれない。カリキュラム委員会では、すでに実施している離職状況調査に加えて、卒業生の就職先の管理的立場にある方へ向けた卒業生の特性に関するアンケートについて検討するとともに、卒業生に大学での学修内容の過不足を問うアンケートについても検討をはじめている。

３－３－② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

本学では、前期及び後期においてすべての授業が終了する際に、学生を対象に授業アンケートを実施しているが、その結果は、図書室において一定期間誰でもが確認できるように公開している。

3−3−①で述べたような４年次の卒業を前にした学生を対象に学修到達度を確認するアンケートについては、これらの結果を学科で共有するとともに、各学科のカリキュラム検討の際、包括的にカリキュラム構成と内容を点検する視点からカリキュラム改訂に反映できるものはしている。実際に、リハビリテーション学科では、平成30（2018）年度にカリキュラム改訂作業を行い、令和元（2019）年度から新カリキュラムを実施している。看護学科も前段のアンケートを適宜参照しながら、令和元（2019）年度にカリキュラム改訂を文科省に申請し、令和２（2020）年度より実施している。

４．教員・職員

４－１．教学マネジメントの機能性

４－１－①　大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

大学の意思決定について学長は、「日本医療大学学則」第41条の２に「校務をつかさどり、所属職員を統督する」と規定している。

学長が判断を適正に行いリーダーシップを発揮するための補佐体制として、「学校法人日本医療大学組織規程」第６条に基づき学長のガバナンスの強化、本学の意思決定及び本学運営の円滑化を図ることを目的に運営会議を設置している。

運営会議は、「日本医療大学運営会議規程」第２条の規定に基づき、本学運営に関する企画立案及び学内の意見調整、理事会に要望する事項、教授会に諮問する事項、その他本学運営に関する事項について審議し、必要な業務を行っている。学長、学部長（現在、学長が兼務）、各学科長、事務局長を構成員とし、学長が会議を招集し、議長となり、月２回開催している。

４－１－②　権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメント体制の構築

本学の使命・目的の達成のため、権限の適切な分散と責任の明確化に配慮し、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」、「学校法人日本医療大学職務権限規程」、「日本医療大学運営会議規程」、「日本医療大学教授会規程」等の諸規程を整備している。

学長は、本教授会規程に基づき学位の授与、卒業及び課程の修了、学生の入学、その他教学に関する重要事項等の決定に際しては、教授会に意見を求めて決定している。

教学マネジメントを支える基盤の一つとして、学長の下に、本学の教育、研究、その他諸活動に関する学内外の情報やデータ等を収集及び分析し、本学の運営のための計画策定、政策決定等を支援することを目的にIR室を設置している。

学生の表彰及び懲罰に関する事項については、それぞれ「日本医療大学学生の表彰に関する規程」、「日本医療大学学生の懲戒等に関する規程」を整備している。

４－１－③　職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメント

本学の使命・目的達成のため、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」等に基づき、事務体制を構築しており、本体制は適切に機能している。

本学の事務職員数は、41人〔令和２（2020）年５月１日現在〕であり、事務職員の採用は、「学校法人日本医療大学就業規則」に基づき理事長が行っており、各部署の業務内容及び業務量に応じ、職員の年齢、キャリア、能力等を勘案し、適材適所に配置している。

４－２．教員の配置・職能開発等

４－２－①　教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置

教員の採用及び昇任は、日本医療大学教員任用規程及び日本医療大学教員の採用に関する細則に従い、教員選考委員会規程により人格、健康、教育研究上の経歴及び研究業績などを考慮して選考することとしている。募集方法は原則公募としている。

専任教員数は、大学設置基準第13条及び各職業資格関連の指定基準の規程に定められた必要な専任教員数を確保している。

４－２－②　FD（Faculty Development）をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

本学では、教育及び授業の改善、教員の研修、教員の資質・能力向上を目指してFD委員会が組織されている。FD委員会では、全学的な FD 関連事項を決定し、本学教職員の教育・研究活動の向上や活性化を目指して、研修の実施とその見直しを行っている。

FD 委員会は各学科代表者９名と大学事務局１名の10人で構成し、庶務事項担当職員１名を合わせた11名で組織されている。本委員会は研修会の企画運営や授業評価等の会議を主に実施している。委員会では教育内容を改善するために、教員の研修会又は講演会、教員に対する学生による授業評価アンケートを実施し改善計画を行っている。これらの詳細については、年度毎にFD委員会活動報告書としてまとめている。

FD 研修会については、学内で年に１回、学外主催の研修会に本学教職員が年に１回参加している。平成30（2018）年度・令和元（2019）年度の学内研修会には45人が参加した。

教員に対する学生による授業評価アンケートについては、開講したすべての科目について実施した。それとともに、学生による授業評価をクロス集計し、各教員、学科長（学科）に周知し、改善資料として活用を促している。

各教員は、学生による授業評価のコメントに対して、回答や改善を行っている。その結果は、学内の図書館等に掲示し、学生に対して公開している。

FD研修等、研修会・講演会への参加、授業評価による改善点の把握を通して、教育の流れや動向について理解を深めるとともに、教育への意欲付けや授業改善等において、教員の資質・能力の向上に効果が現れている。

４－３．職員の研修

４－３－①　SD（Staff Development）をはじめとする大学運営に関わる職員の能力向上に資する取組み

私立大学をめぐる環境が激変する中、大学の経営戦略の構築及び管理運営機能の強化並びに教育・研究機能の活性化が重要課題とされている。

こうしたことから、事務職員を対象とした管理運営、教育・研究支援などに関する事務処理能力の向上に資するよう、SDの一環に位置付ける学内研修を毎月１回定期的に「事務局連絡会」とし

て開催するなど、職員の資料作成やプレゼンテーション能力などを育成するための機会を設けている。

また、大学職員として求められる専門性の向上や効率的な業務処理手法の修得に資するよう、北海道地区FD･SD推進協議会に加入し、情報を収集するとともに、日本私立大学協会北海道支部が開催する研修会への参加促進などに努めている。

また、事務職員の人事評価制度を導入するなど、「職員の意欲や能力の向上」、「組織の活性化」、「効率的な業務運営」などに向けた取組みを進めるとともに、個人の業務目標の設定や評価者による個人面談などを通じて、職員のモチベーションの向上、人材育成などに努めている。

職員研修の一環として日本私立大学協会北海道支部が主催する下記の研修会に参加させた。

○　日本私立大学協会北海道支部の研修会

・令和元（2019）年６月６日～７日（札幌市）
　初任者研修会（脇本　大登）
・令和元（2019）年６月20日21日（札幌市）
　中堅実務者研修会（小岩　志保）
・令和元（2019）年７月11日～12日（札幌市）
　中堅指導者研修会（加藤　康次）
・令和元（2019）年７月25日～26日（札幌市）
　課長職相当研修会（山田　武俊）

５．経営・管理と財務

５－１．経営の規律と誠実性

５－１－①　経営の規律と誠実性の維持

５－１－②　使命・目的の実現への継続的努力

本法人は、建学の精神を「共生社会の実現」とし、「学校法人日本医療大学寄付行為」第３条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする。」と定めている。また、この目的の達成に必要な組織を整備するとともに、組織を適切に運営するための諸規程を定め、規律ある堅実な経営を行っている。

教職員に対しては、「学校法人日本医療大学就業規則」及び「学校法人日本医療大学賞罰規程」において服務規律、懲戒事由等を明示し、法令及び関係規程等を遵守し業務を行うことを義務付けている。

会計処理は、新会計基準に則って行われている。財務会計は、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」、「学校法人日本医療大学授業料等取扱規程」、「日本医療大学授業料等取扱規程に関する細則」、「学校法人日本医療大学寄附受入規程」、「学校法人日本医療大学固定資産及び物品管理規程」、「学校法人日本医療大学資産運用規程」を整備し、適切に遂行している。

組織の倫理については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学不正調査委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「学校法人日本医療大学セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規則」等を整備するとともに、本学に研究倫理委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、セクシャル・ハラスメント防止委員会等を設置して、教職員に人権の擁護を遵守させている。

その他、教育研究活動や財務等に関する情報をホームページで公表することなどを通じて、法人の運営に関する透明性の確保に努めている

５－１－③　環境保全、人権、安全への配慮

本学の真栄キャンパスは、市街化調整区域に立地していることから札幌市の「市街化調整区域の保全と活用の方針」を踏まえ、良好な自然環境の保全に向けて、建築物及び工作物の設置、宅地造成、土地開墾などの制限のもと、樹木地の保全などに努めている。また、真栄キャンパス及び恵み野キャンパスにおいて、開学時からクールビズを実施しているほか、節電や節水等注意喚起のポスターを校舎の各所に貼付するなど、本学全体の省エネ意識の向上に努めている。

人権については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「学校法人日本医療大学セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規則」等を制定するとともに、研究倫理委員会、人権擁護委員会、セクシャル・ハラスメント防止委員会を設置するほか、各種の

苦情や相談に対応する相談員を配置するなど人権擁護の周知・徹底に努めている。

また、本学では、火災、地震その他の災害の予防及び人命の安全並びに防止を図ることを目的に、消防計画、危機管理マニュアルを定め、毎年春期に教職員及び学生全員を対象に避難訓練を実施するとともに、平成30（2018）年９月の北海道胆振東部地震を契機に、各キャンパスに災害用食品の備蓄を行っている。

また、令和２（2020）年４月に感染症ワーキンググループを設置し、５月からは教務委員会の下部組織として、感染症ワーキングとともに遠隔授業ワーキングを設置し、学内における消毒液の配置、施設・設備の消毒、遠隔授業の実施など新型コロナウイルスの感染防止対策に全学一丸となって取り組んでいる。

５－２．理事会の機能

５－２－①　法人の使命・目的の達成と適切な運営に資する意思決定を可能とする体制の整備とその機能

法人の使命・目的の達成と適切な運営に資する意思決定ができるよう「学校法人日本医療大学寄付行為」に基づき、理事会、評議員会を設置している。理事会は寄付行為第７条に規定する選任区分に従い選任された理事７人によって構成され、理事長が議長となり、会議を運営している。令和元年（2019）度は年８回開催し、理事の出席率は70.8％であった。

監事は、同寄付行為第８条の規定に従い２人が選任され、寄付行為第17条に掲げる職務を行い、理事会に出席して意見を述べる。

外部の役員として、理事には行政書士と企業経営者、監事には司法書士と公認会計士（計４人）を選任しており、本外部役員の高い見識と幅広い経験を活かしながら、法人の使命・目的の達成と適切な運営を行うための体制を整えている。

評議員は、同寄附行為第27条に規定する選任区分に従い選任された評議員15人によって構成され、評議員の互選により議長を選任し、会議を運営している。

その他、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した理事は、出席者と見なすこととしている。

５－３．管理運営の円滑化と相互チェック

５－３－①　法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化

令和元（2019）年度の理事会は、年８回開催し、主な議事内容は、事業計画、予算、規程の改正、理事・評議員の選任、事業報告、決算報告、各学校の状況報告等であり、適切に審議、議決している。また、法人の運営の実務にあたる事務局の役職者が、事案に応じて理事会に臨席することにより、施策の実効性を確保し得るよう運営している。

令和元（2019）年度の評議員会は、年９回開催し、評議員の出席率は79.5％であった。主な議案は、理事・評議員の選任、予算・事業計画の諮問、各学校の状況報告等であり、適切に審議、議決、答申している。

「学校法人日本医療大学寄附行為」第13条には、「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。」と規定している。

一方、「日本医療大学学則」第41条の２に、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」と規定されているとおり、学長は、大学全体の教育、授業計画、入試、学生支援、研究、教職員の人事等を統括する。

教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境へ迅速に対応し、法人及び大学の財務基盤を強化することにより、教学への支援をより一層充実することを目的に経営戦略会議を設置している。経営戦略会議は、理事長、総長、学長、事務局長及び外部の有識者２人が構成員となり、原則隔月開催され、本法人の経営・教学全体に関する事項について審議している。

また、法人の理念及び建学の精神を踏まえ、理事会が決定した経営方針に基づき業務を執行し、法人の経営基盤の一層の強化を図ることを目的に、執行役員会及び学校連絡会議を設置している。執行役員会は、理事長、副理事長、常務理事に加え、理事会及び評議員会の同意を得て理事長が委嘱する学内教職員による執行役員、さらに事務局の各幹部職員による准執行役員から構成される。また、学校連絡会議は、理事長、副理事長、常務理事に加え、学長、学科長、事務各部門責任者などから構成される。

５－３－②　法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第17条に掲げる職務を行い、理事会・評議員会に出席して意見を述べるとともに、理事長や常勤の理事から業務執行状況について報告を受けるほか、監査の執行等に際して必要に応じ説明を求めている。また、重要な書類を閲覧し、業務執行が法令及び寄附行為等に則って適正に行われているか、経営方針に従って適切・適正に行われているかについて随時検証している。

評議員会は、同寄附行為第23条により15人の評議員をもって組織されており、理事会で審議される事項のうち、同寄附行為第25条に規定している諮問事項について理事長に意見を述べている。また、同寄附行為第26条に「この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。」と規定しており、諮問機関としての役割を果たしている。

また、監事による監査のほかに、理事長が選任した職員による内部監査室を設置し、監事と連携して業務監査及び会計監査を実施している。

５－４．財務基盤と収支

５－４－①　中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

５－４－②　安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

本学は、専門学校を継承して平成26（2014）年４月に、新たに日本医療大学として開学して以来、組織運営体制を整備することに注力してきたが、本学が将来に向けて安定した経営を維持しながら、大学としての使命を果たしていくために、収支構造の見直しを行い、本法人の経営を学生納付金等

の収入の範囲内で行うこととした。すなわち、従来の予算要求の積み上げ方式から収入予算枠内で事業を組み立てる方式に変更するとともに、共通経費等を見直し、非効率で無駄な経費の縮減を徹底するほか、選択と集中による予算の重点的な配分によって、事業活動収支の黒字転換を図ることを予算編成の基本方針とした。

財務に関しては、中長期事業計画を踏まえた収支計画に則り、盤石な基盤形成に向けた取り組みを進めている。

また、教学への支援の充実強化に向けて、教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境にも迅速に対応し得るよう財務基盤を一層強化することなどを目的として、平成30（2018）年４月に外部委員を含めた経営戦略会議を設置し、経営及び教学全体に関する事項について検討している。

さらに、予算編成の基本方針を全うし得るよう、収容定員に対する学生数100％の確保に努めるとともに、公的研究費や民間の助成金に関する説明会を実施し、外部資金獲得に向けた取組みを促進している。

また、専門学校を閉校したことによる影響を除き、平成26（2014）年に大学を設置して以来、事業活動収入は着実に増加しており、令和元（2019）年度の事業活動収支計算書では、収入合計が前年度比１億3,243万円増の15億7,894万円となっている。

一方､同年度の基本金組入前当年度収支差額は4,329万円の収入超過となっている。平成26（2014）年度に開学して以来、毎年度、特別寄附金を受贈するとともに、収入に見合った経費の支出を考慮した運営を継続していることから、この５年間全てで収入超過となっており、収支のバランスは保たれている。

５－５．会計

５－５－①　会計処理の適正な実施

本学にあっては､「学校法人会計基準」､「学校法人日本医療大学経理規程」､「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」等に基づき、会計処理を適正に行っている。

学内の会計処理で判断に難しい事例が生じた場合は、日本私立学校振興・共済事業団、公認会計士、税理士等に確認するなどして、適切に対応している。

予算については、事務局予算編成担当が、各部署のヒアリングを行うなどして予算原案をとりまとめた上で、理事長が総合的に調整して予算案を策定し、３月末までに評議員会の意見を聞き、理事会において審議、決定している。

また、補正予算についても、必要に応じ同様の手続きを経て措置している。

５－５－②　会計監査の体制整備と厳正な実施

会計監査は、公認会計士による監査、監事による監査及び内部監査が行われている。

公認会計士による監査は、当該年度の12月、３月、次年度の４月、５月に実施されており、会計処理に関する指導、助言があった場合には、速やかに対応している。

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第９条により２人が選任されており、その業務は同寄附行為及び「学校法人日本医療大学監事監査規程」により定められている。

また監事は、理事会、評議員会に出席し、本法人の業務や財産状況について把握するとともに、本学の業務執行内容等について、適宜意見を述べている。

さらに、内部監査においても、会計監査の監査項目を定めた内部監査計画書に基づいて、監査を実施し報告書を作成の上、理事長へ報告するとともに、所要の対応策を提示している。

《資金収支計算書》

資金収支計算書は、当該会計年度における法人全体の教育活動に対する資金の収支を明らかにするものです。

資 金 収 支 計 算 書

平成31年 4月 1日から
令和 2年 3月 31日まで

（単位：円）

収 入 の 部

科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
学生生徒等納付金収入	**1,201,089,000**	**1,204,540,000**	△ **3,451,000**
授業料収入	1,127,805,000	1,131,256,000	△ 3,4517,000
入学金収入	73,140,000	73,140,000	0
実験実習料収入	40,000	40,000	0
施設設備資金収入	104,000	104,000	0
手数料収入	**21,075,204**	**21,560,804**	△ **485,600**
入学検定料収入	17,656,400	18,130,000	△ 473,600
試験料収入	3,066,000	3,066,000	0
証明手数料収入	352,804	364,804	△ 12,000
寄付金収入	**100,000,000**	**100,000,000**	**0**
特別寄付金収入	100,000,000	100,000,000	0
補助金収入	**82,715,719**	**82,715,719**	**0**
国庫補助金収入	81,443,000	81,443,000	0
地方公共団体補助金収入	1,168,000	1,168,000	0
その他の補助金収入	104,719	104,719	0
資産売却収入	**0**	**528,900,000**	△ **528,900,000**
施設売却収入	0	528,900,000	△ 528,900,000
付随事業・収益事業収入	**1,742,715**	**3,442,715**	△ **1,700,000**
受託事業収入	1,742,715	3,442,715	△ 1,700,000
受取利息・配当金収入	**22,319**	**32,784**	△ **10,465**
その他の受取利息･配当金収入	22,319	32,784	△ 10,465
雑収入	**7,670,348**	**21,309,141**	△ **13,638,793**
施設設備利用料収入	0	5,513,780	△ 5,513,780
過年度修正入	0	927,000	△ 927,000
その他の雑収入	7,663,318	3,978,081	3,685,237
退職手当給付金収入	7,030	10,890,280	△ 10,883,250
前受金収入	**726,000,000**	**825,227,000**	△ **99,227,000**
授業料前受金収入	650,000,000	741,527,000	△ 91,527,000
入学金前受金収入	76,000,000	83,700,000	△ 7,700,000
その他の収入	**47,924,704**	**52,146,026**	△ **4,221,322**
前期末未収入金収入	17,924,704	16,834,704	1,090,000
預り金受入収入	0	35,009,062	△ 35,009,062
立替金受入収入	30,000,000	129,260	29,870,740
仮払金収入	0	173,000	△ 173,000
資金収入調整勘定	△ **742,880,272**	△ **742,831,850**	△ **48,422**
期末未収入金	△ 17,000,000	△ 16,951,578	△ 48,422
前期末前受金	△ 725,880,272	△ 725,880,272	0
前年度末繰越支払資金	**1,315,958,286**	**1,315,958,286**	
収入の部合計	**2,761,318,023**	**3,413,000,625**	△ **651,682,602**

（単位：円）

支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	**844,339,371**	**849,666,294**	△ **5,326,923**
教員人件費支出	555,720,900	563,078,596	△ 7,357,696
職員人件費支出	224,560,000	227,592,264	△ 3,032,264
役員報酬支出	45,942,471	45,942,471	0
退職金支出	18,116,000	13,052,963	5,063,037
教育研究経費支出	**285,199,310**	**285,434,012**	△ **234,702**
消耗品費支出	10,033,000	10,141,167	△ 108,167
光熱水費支出	38,820,000	37,677,556	1,142,444
旅費交通費支出	2,765,000	2,453,012	311,988
奨学費支出	21,600,000	21,600,000	0
車両費支出	2,930,000	2,451,818	478,182
福利費支出	5,713,448	5,706,550	6,898
教員研修費支出	18,650,000	18,972,817	△ 322,817
通信運搬費支出	3,413,000	3,822,882	△ 409,882
印刷製本費支出	7,746,000	7,355,240	390,760
出版物費支出	573,092	368,765	204,327
修繕費支出	11,345,000	12,007,649	△ 662,649
損害保険料支出	5,575,000	5,332,986	242,014
賃借料支出	14,664,378	14,243,889	420,489
環境整備費支出	5,000	4,130	870
諸会費支出	3,991,380	3,987,400	3,980
会議費支出	51,728	76,034	△ 24,306
行事費支出	2,263,000	2,161,967	101,033
報酬委託手数料支出	95,550,000	97,722,879	△ 2,172,879
実習費支出	38,799,000	38,630,139	168,861
寄付金支出	368,000	368,000	0
学生活動補助金支出	269,650	275,631	△ 5,981
雑費支出	73,634	73,501	133
管理経費支出	**249,827,189**	**258,859,183**	△ **9,031,994**
消耗品費支出	694,010	1,166,470	△ 472,460
光熱水費支出	600,000	416,006	183,994
旅費交通費支出	5,172,000	5,398,147	△ 226,147
車両費支出	765,000	1,215,590	△ 450,590
福利費支出	2,688,640	2,794,469	△ 105,829
通信運搬費支出	900,000	1,451,673	△ 551,673
出版物費支出	260,000	250,626	9,374
修繕費支出	1,100,000	1,093,803	6,197
損害保険料支出	22,231	22,231	0
賃借料支出	71,600,000	70,798,620	801,380
公租公課支出	3,200,000	16,703,129	△ 13,503,129
諸会費支出	2,600,000	2,604,400	△ 4,400
会議費支出	170,000	212,624	△ 42,624
報酬委託手数料支出	93,097,200	88,322,136	4,775,064
広報費支出	48,916,000	47,545,299	1,370,701
渉外費支出	700,000	444,156	255,844
私立大学等経常経費助成返還支出	16,542,000	16,542,000	0
雑費支出	800,108	1,628,648	△ 828,540
過年度修正支出	0	249,156	△ 249,156

借入金等利息支出	**2,099,519**	**1,930,458**	**169,061**
借入金利息支出	2,099,519	1,930,458	169,061
借入金等返済支出	**24,112,000**	**112,372,000**	**△ 88,260,000**
借入金返済支出	24,112,000	112,372,000	△ 88,260,000
施設関係支出	**0**	**3,139,000**	**△ 3,139,000**
建物支出	0	3,139,000	△ 3,139,000
設備関係支出	**95,000,000**	**51,333,800**	**43,666,200**
教育研究用機器備品支出	32,500,000	31,173,563	1,326,437
管理用機器備品支出	55,000,000	13,704,420	41,295,580
図書支出	7,500,000	6,455,817	1,044,183
資産運用支出	**0**	**16,912,055**	**△ 16,912,005**
収益事業元入金支出	0	16,912,055	△ 16,912,005
その他の支出	**96,320,579**	**86,082,506**	**10,238,073**
前期末未払金支払支出	92,320,579	52,808,776	39,511,803
預り金支払支出	0	23,016,607	△ 23,016,607
前払金支払支出	4,000,000	9,267,939	△ 5,267,939
立替金支払支出	0	966,184	△ 966,184
仮払金支払支出	0	23,000	△ 23,000
予備費	**0**	**0**	**0**
資金支出調整勘定	**△ 57,112,153**	**△ 159,543,394**	**102,431,241**
期末未払金	△ 53,000,000	△ 155,431,241	102,431,241
前期末前払金	△ 4,112,153	△ 4,112,153	0
翌年度繰越支払資金	**1,221,532,208**	**1,906,814,711**	**△ 685,282,503**
支出の部合計	**2,761,318,023**	**3,413,000,625**	**△ 651,682,602**

（収入の部）

収入の部において、予算との比較における増減の主な要因は以下のとおりである。

1　学生生徒等納付金収入は、概ね見込み通りの3,451,000円増加の1,204,540,000円となった。

2　手数料収入は、受験者数の予算の見込人数を上廻ったことなどにより、全体で485,600円増加の21,560,804円となった。

3　寄付金収入は、特別寄付金100,000,000円であった。

4　補助金収入は、国庫補助金収入81,443,000円、地方公共団体補助金収入1,168,000円、その他の補助金収入104,719円であった。

5　資産売却収入は、キャンパス移転にむけて土地・建物を売却したことにより528,900,000円であった。

6　雑収入は、施設設備利用料収入、退職手当給付金収入の増加やその他雑収入の減少により、全体で13,638,793円増の21,309,141円であった。

7　前受金収入は、入学金前受金収入、授業料前受金収入が増加したことなどにより825,227,000円であった。

8　その他の収入は、前期末未収入金収入、預り金受入収入が増加も、立替金回収収入が減少し、全体で4,221,322円増の52,146,026円であった。

9　資金収入調整勘定は、総額△742,831,850円であった。

（支出の部）

支出の部において、予算との比較における増減の主な要因は以下のとおりである。

1　人件費支出は、教員人件費支出や職員人件費支出が増加したが、退職金支出が減少したことにより全体で5,326,923円増加の849,666,294円であった。

2　教育研究経費支出は、光熱水費支出、旅費交通費支出の減少したが、通信運搬費支出や修繕費支出の増加などにより234,702円増加の285,434,012円であった。

3　管理経費支出は、公租公課支出の増加、報酬委託手数料支出の減少により全体で9,031,994円増の258,859,183円であった。

4　借入金等利息支出は、169,061円減少の1,930,458円であった。

5　借入金等返済支出は、88,260,000円増の112,372,000円であった。

6　施設関係支出は、建物支出の増加により3,139,000円であった。

7　設備関係支出は、管理用機器備品支出の減少などにより51,333,800円であった。

8　資産運用支出は、収益事業元入金支出の増加により 16, 912, 005 円であった。
9　その他の支出は、前期未払金支払支出の減、預り金支払支出の増などにより合計で 10, 238, 073 円減の 86, 082, 506 円であった。
10　資金支出調整勘定（控除科目）は、期末未払金が△155, 431, 241 円、前期末前払金が△4, 112, 153 円であり、合計△159, 543, 394 円であった。
以上により、翌年度繰越支払資金は、予算と比較して 685, 282, 503 円増加の 1, 906, 814, 711 円であった。

《事業活動収支計算書》

事業活動収支計算書は、当該会計年度における法人の収支均衡状態を測定し、経営状況を明らかにするものです。

事業活動収支計算書

平成31年　4月　1日から
令和　2年　3月31日まで

（単位：円）

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	**学生生徒等納付金**	**1,201,089,000**	**1,204,540,000**	**△ 3,451,000**
		授業料	1,127,805,000	1,131,256,000	△ 3,451,000
		入学金	73,140,000	73,140,000	0
		実験実習料	40,000	40,000	0
		施設設備資金	104,000	104,000	0
		手数料	**21,075,204**	**21,560,804**	**△ 485,600**
		入学検定料	17,656,400	18,130,000	△ 473,600
		試験料	3,066,000	3,066,000	0
		証明手数料	352,804	364,804	△ 12,000
		寄付金	**100,000,000**	**101,997,051**	**△ 1,997,051**
		特別寄付金	100,000,000	100,000,000	0
		現物寄付	0	1,997,051	△ 1,997,051
		経常費等補助金	**82,715,719**	**82,715,719**	**0**
		国庫補助金	81,443,000	81,443,000	0
		地方公共団体補助金	1,168,000	1,168,000	0
		その他の補助金	104,719	104,719	0
		付随事業収入	**1,742,715**	**3,442,715**	**△ 1,700,000**
		受託事業収入	1,742,715	3,442,715	△ 1,700,000
		雑収入	**7,670,348**	**21,362,141**	**△ 13,691,793**
		施設設備利用料	0	5,513,780	△ 5,513,780
		その他の雑収入	7,663,318	3,978,081	3,685,237
		退職手当給付金	7,030	10,890,280	△ 10,883,250
		徴収不能引当金戻入額	0	980,000	△ 980,000
		教育活動収入計	**1,414,292,986**	**1,435,618,430**	**△ 21,325,444**
	事業活動支出の部	**人件費**	**844,339,371**	**868,588,495**	**△ 24,249,124**
		教員人件費	555,720,900	563,078,596	△ 7,357,696
		職員人件費	224,560,000	227,592,264	△ 3,032,264
		役員報酬	45,942,471	45,942,471	0
		退職給与引当金繰入額	0	18,922,201	△ 18,922,201
		退職金	18,116,000	13,052,963	5,063,037
		教育研究経費	**391,117,310**	**403,254,304**	**△ 12,136,994**
		消耗品費	10,033,000	10,141,167	△ 108,167
		光熱水費	38,820,000	37,677,556	1,142,444
		旅費交通費	2,765,000	2,453,012	311,988
		奨学費	21,600,000	21,600,000	0
		車両費	2,930,000	2,451,818	478,182
		福利費	5,713,448	5,706,550	6,898
		教員研修費	18,650,000	18,972,817	△ 322,817
		通信運搬費	3,413,000	3,822,882	△ 409,882
		印刷製本費	7,746,000	7,355,240	390,760
		出版物費	573,092	368,765	204,327
		修繕費	11,345,000	12,007,649	△ 662,649
		損害保険料	5,575,000	5,332,986	242,014

賃借料	14,664,378	14,243,889		420,489
環境整備費	5,000	4,130		870
諸会費	3,991,380	3,987,400		3,980
会議費	51,728	76,034	△	24,306
行事費	2,263,000	2,161,967		101,033
報酬委託手数料	95,550,000	97,722,879	△	2,172,879
実習費	38,799,000	38,630,139		168,861
寄付金	368,000	368,000		0
学生活動補助金	269,650	275,631	△	5,981
雑費	73,634	73,501		133
減価償却額	105,918,000	117,820,292	△	11,902,292
管理経費	**251,073,189**	**258,906,626**	△	**7,833,437**
消耗品費	694,010	1,186,256	△	492,246
光熱水費	600,000	416,006		183,994
旅費交通費	5,172,000	5,398,147	△	226,147
車両費	765,000	1,215,590	△	450,590
福利費	2,688,640	2,794,469	△	105,829
通信運搬費	900,000	1,451,673	△	551,673
出版物費	260,000	250,626		9,374
修繕費	1,100,000	1,093,803		6,197
損害保険料	22,231	22,231		0
賃借料	71,600,000	70,798,620		801,380
公租公課	3,200,000	16,703,129	△	13,503,129
諸会費	2,600,000	2,604,400	△	4,400
会議費	170,000	212,624	△	42,624
報酬委託手数料	93,097,200	88,322,136		4,775,064
広報費	48,916,000	47,545,299		1,370,701
渉外費	700,000	444,156		255,844
私立大学等経常費補助金返還金	16,542,000	16,542,000		0
雑費	800,108	1,628,648	△	828,540
減価償却額	1,246,000	276,813		969,187
徴収不能額等	**0**	**2,070,000**	△	**2,070,000**
徴収不能引当金繰入額	0	2,070,000	△	2,070,000
教育活動支出計	**1,486,529,870**	**1,532,819,425**	△	**46,289,555**
教育活動収支差額	△ **72,236,884**	△ **97,200,995**		**24,964,111**

		科目	予算	決算	差異
教育活動外収支	事業活動収入の部	**受取利息・配当金**	**22,319**	**32,784**	△ **10,465**
		その他の受取利息・配当金	22,319	32,784	△ 10,465
		教育活動外収入計	**22,319**	**32,784**	△ **10,465**
	事業活動支出の部	**借入金等利息**	**2,099,519**	**1,930,458**	**169,061**
		借入金利息	2,099,519	1,930,458	169,061
		教育活動外支出計	**2,099,519**	**1,930,458**	**169,061**
教育活動外収支差額			△ **2,077,200**	△ **1,897,674**	△ **179,526**
経常収支差額			△ **74,314,084**	△ **99,098,669**	**24,784,585**
		科目	予算	決算	差異
特別収支	事業活動収入の部	**資産売却差額**	**0**	**142,366,775**	△ **142,366,775**
		施設売却差額		142,366,775	△ 142,366,775
		その他の特別収入	**0**	**927,000**	△ **927,000**
		過年度修正額		927,000	△ 927,000
		特別収入計	**0**	**143,293,775**	△ **143,293,775**

事業活動支出の部	資産処分差額	0	655,841	△	655,841
	施設売却差額		651,841	△	655,841
	その他の特別支出	0	249,156	△	249,156
	過年度修正額		249,156	△	249,156
	特別支出計	0	904,997	△	904,997
特別収支差額		0	142,388,778	△	142,388,778
基本金組入前当年度収支差額		△ 74,314,084	43,290,109	△	117,604,193
基本金組入額合計		0	△ 62,551,210		62,551,210
当年度収支差額		△ 74,314,084	△ 19,261,101	△	55,052,983
前年度繰越収支差額		△ 1,920,101,863	△ 1,920,101,863		0
基本金取崩額		0	463,524,000	△	463,524,000
翌年度繰越収支差額		△ 1,994,415,947	△ 1,475,838,964	△	518,576,983
（参 考）					
事業活動収入計		1,414,315,305	1,578,944,989	△	164,629,684
事業活動支出計		1,488,629,389	1,535,654,880	△	47,025,491

事業活動全体の収支として、事業活動収入計は、予算と比較して 164,629,684 円増の 1,578,944,989 円、事業活動支出計は 47,025,491 円増の 1,535,654,880 円となった。

活動区分ごとの予算との比較における主な要因は以下のとおりである。

（教育活動収支：収入の部）

資金収支計算書と共通のため省略する。

（教育活動収支：支出の部）

1　人件費は、教員人件費、退職給付引当金繰入額等の増加により、全体では 24,249,124 円支出増の 868,588,495 円となった。

1　教育研究経費は、減価償却費、報酬委託手数料等の増加や、他の科目の支出減により、全体で 12,136,994 円支出増の 403,254,304 円であった。

2　管理経費は、公租公課、通信運搬費の増加により、全体で 7,833,437 円支出増の 258,906,626 円となった。

（教育活動外収支）

収入の部は、普通預金等による受取利息 32,784 円の収入があり、支出の部は、市中金融機関からの借入に伴う支払利息 1,930,458 円の支出であった。この結果、教育活動外収支差額は、△1,897,674 円となった。

（経常収支差額）

教育活動収支差額および教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は、予算より 24,964,111 円増加し、99,098,669 円の支出超過額であった。

（特別収支）

特別収支は、施設売却差額 142,366,775 円、過年度修正額 927,000 円で、特別収支差額 142,388,778 円となった。

（全体の収支）

基本金組入額は、予算対比 62,551,210 円減少となった。

以上により、当年度収支差額は△19,261,101 円となり、翌年度繰越収支差額は、予算の支出超過額見込額より 518,576,983 円減少の△1,475,838,964 円となった。

《貸借対照表》

貸借対照表は、当該会計年度末（3月31日）における財産状態（資産、負債、純資産の状況）を表します。

貸　借　対　照　表

令和2年 3月31日

（単位：円）

科　　目	令和元年度末	平成３０年度末	増　　減
固定資産	**2,934,318,496**	**3,366,222,761**	**△ 431,904,265**
有形固定資産	2,844,097,696	3,292,914,016	△ 448,816,320
土　地	642,229,652	815,708,652	△ 173,479,000
建　物	1,824,289,770	2,111,015,476	△ 286,725,706
構築物	24,697,801	25,685,713	△ 987,912
教育研究用機器備品	133,263,789	141,486,940	△ 8,223,151
管理用機器備品	14,200,429	843,060	13,357,369
図　書	204,427,839	195,974,971	8,452,868
車　両	988,416	2,199,204	△ 1,210,788
その他の固定資産	90,220,800	73,308,745	16,912,055
電話加入権	2,024,904	2,024,904	0
施設利用権	7,000,000	7,000,000	0
出資金	2,050,000	2,050,000	0
収益事業元入金	79,145,896	62,233,841	16,912,055
流動資産	**1,934,383,786**	**1,338,677,563**	**595,706,223**
現金預金	1,906,814,711	1,315,958,286	590,856,425
未収入金	16,951,578	17,924,704	△ 973,126
貯蔵品	360,374	380,160	△ 19,786
仮払金	23,000	173,000	△ 150,000
立替金	966,184	129,260	836,924
前払金	9,267,939	4,112,153	5,155,786
資産の部合計	**4,868,702,282**	**4,704,900,324**	**163,801,958**

負債の部

科　　目	令和元年度末	平成30年度末	増　　減
固定負債	**190,125,402**	**246,545,681**	**△ 56,420,279**
長期借入金	0	91,305,000	△ 91,305,000
長期未払金	32,452,716	16,490,196	15,962,520
退職給与引当金	157,672,686	138,750,485	18,922,201
流動負債	**1,004,409,783**	**827,477,655**	**176,932,128**
短期借入金	4,700,000	25,767,000	△ 21,067,000
未払金	139,473,721	52,813,776	86,659,945
前受金	825,227,000	725,880,272	99,346,728
預り金	35,009,062	23,016,607	11,992,455
負債の部合計	**1,194,535,185**	**1,074,023,336**	**120,511,849**

純資産の部

基本金	**5,150,006,061**	**5,550,978,851**	**△ 400,972,790**
第１号基本金	5,047,006,061	5,416,978,851	△ 369,972,790
第４号基本金	103,000,000	134,000,000	△ 31,000,000
繰越収支差額	**△1,475,838,964**	**△1,920,101,863**	**444,262,899**
翌年度繰越収支差額	△1,475,838,964	△1,920,101,863	444,262,899
純資産の部合計	**3,674,167,097**	**3,630,876,988**	**43,290,109**
負債および純資産の部合計	**4,868,702,282**	**4,704,900,324**	**163,801,958**

Ⅰ 資産の部

資産の部は、前年度末対比 163, 801, 958 円増加の 4, 868, 702, 282 円となった。

主な要因は以下のとおりである。

1 固定資産

(1) 有形固定資産においては、土地 173, 479, 000 円、建物 286, 725, 706 円の減少があった。

教育研究用機器備品は、当期取得額としては、日本医療大学看護学科 3, 636, 810 円、日本医療大学リハビリテーション学科 1, 416, 344 円、日本医療大学診療放射線学科 8, 321, 145 円であるが、減価償却により前年度末対比 8, 223, 151 円減少の 133, 263, 789 円であった。

管理用機器備品は、13, 357, 369 円増加の 14, 200, 429 円であった。

図書は、前年度末対比 8, 452, 868 円増加の 204, 427, 839 円であった。

車両は、減価償却額による 1, 210, 788 円減少により 988, 416 円であった。

以上により、有形固定資産の部合計は、前年度末対比 448, 816, 320 円減少の 2, 844, 097, 696 円となった。

(2) その他の固定資産は、前年度末対比 16, 912, 055 円増加の 90, 220, 800 円であった。

主な要因は、収益事業元入金が 16, 912, 055 円増加したことによる。

この結果、固定資産全体では、前年度末対比 431, 904, 265 円減少の 2, 934, 318, 496 円となった。

2 流動資産

現金預金は、前年度末対比 590, 856, 425 円増加の 1, 906, 814, 711 円となった。

未収入金は、前年度末対比 973, 126 円減少の 16, 951, 578 円となった。

Ⅱ 負債の部

負債の部は、前年度末対比 120, 511, 849 円増加の 1, 194, 535, 185 円となった。主な要因は以下のとおりである。

(1) 固定負債では、長期借入金が 91, 305, 000 円の減少、長期未払金が 15, 962, 520 円、退職給与引当金が 18, 922, 201 円の増加となり、前年度末対比 56, 420, 279 円減少の 190, 125, 402 円であった。

(2) 流動負債では、短期借入金 21, 067, 000 円の減少となったが、未払金 86, 659, 945 円、前受金 99, 346, 728 円、預り金が 11, 992, 455 円の増加となり、前年度末対比 176, 932, 128 円増加の 1, 004, 409, 783 円であった。

Ⅲ 純資産の部

純資産の部では、第 1 号基本金において、建物取得による組入高 2, 889, 000 円、教育研究用機器備品取得による組入高 13, 647, 176 円、図書組入高 8, 445, 135 円、借入金返済高 14, 511, 000 円、未払金支払高 7, 461, 870 円、取崩高は土地売却に伴う取崩高 142, 107, 375 円、建物売却に伴う取崩高 290, 666, 625 円などがあり、総額 400, 972, 790 円減少の 5, 047, 006, 061 円を計上している。

以上により、純資産の部合計は、当該会計年度末 3, 674, 167, 097 円となった。

財　産　目　録

（令和２年 ３月31日現在）

Ⅰ	資産総額	4,868,702,282円
	内　１　基本財産	2,844,097,696円
	２　運用財産	2,024,604,586円
	〔収益事業用財産〕	127,846,152円
Ⅱ	負債総額	1,194,535,185円
	〔収益事業の負債〕	43,287,294円
Ⅲ	正味財産	3,674,167,097円

Ⅰ　資　産　総　額			**4,868,702,282　円**
１　基本財産			**2,844,097,696　円**
土　　地	29,831 ㎡		642,229,652　円
建　　物	17,981.32 ㎡		1,824,289,770　円
構 築 物			24,697,801　円
教育用研究機器備品	3,009 点		133,263,789　円
管理用機器備品	11 点		14,200,429　円
図　　書	35,942 冊		204,427,839　円
車　　両	1 台		988,416　円
２　運用財産			**1,945,458,690　円**
預貯金･現金			1,906,814,711　円
未収入金			16,951,578　円
前払金			9,267,939　円
電話加入権			2,024,904　円
施設利用権			7,000,000　円
出資金			2,050,000　円
立替金			966,184　円
貯蔵品			360,374　円
仮払金			23,000　円
３　収益事業用財産			**127,846,152　円**
土　　地	1,392 ㎡		19,644,959　円
電話加入権			229,320　円
工具機器及び備品	139 点		2,062,590　円
預貯金・現金			104,361,346　円
未収入金			1,547,937　円
Ⅱ　負　債　総　額			**1,194,535,185　円**
１　固定負債			**190,125,402　円**
長期未払金			32,452,716　円
退職給与引当金			157,672,686　円
２　流動負債			**1,004,409,783　円**
短期借入金			4,700,000　円
未払金			139,473,721　円
前受金			825,227,000　円
預り金			35,009,062　円
〔３　収益事業用負債〕			**43,287,294　円**
流動負債			43,287,294　円

正味財産（資産総額－負債総額）	3,674,167,097　円

6．内部質保証

6－1．内部質保証の組織体制

6－1－①　内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

本学は、建学の精神として掲げている「共生社会の実現」の精神に基づき、「日本医療大学学則」第１章第３条に、「本学は、教育水準の向上及び活性化を図り、そ の目的と社会的使命を果たすため、教育研究活動等について自己点検及び評価を行う」と定め、内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立を実施している。

具体的な本学の内部質保証に関わる事項等は、開学以降「日本医療大学自己点検評価委員会規程」に即して、自己点検評価委員会が中心となり自己点検及び評価を実施している。

評価委員会規程は、開学時にすでに整備されていたが委員会の発足は平成 27（2015）年４月になってからである。委員会の開催は、さらに遅れて同年11月25日に行われ、以後毎月第4水曜日を定例会議日とし、案件の無い月は休会とした。

初会議開催時点で診療放射線学科は開設しておらず、委員は、看護学科教員３人、リハビリテーション 学科教員３人、事務局長で構成していた。現在の自己点検評価委員会の委員は、看護学科長、リハビリテーション学科長、診療放射線学科長、各学科から２人ずつ選出された教員６人、事務局長、法人グループ長とし、平成 30（2018）年度は、11 人の委員で構成している。

自己点検評価委員会では、いずれの認証評価機関を受審するか、年報の作成、教員の自己点検評価の実施、全学的な委員会活動に対する点検を行い、円滑な PDCA 実施のために学内から幅広く情報を収集する体制を整えた。また、本学におけるより広義の内部質保証活動については、各種の委員会を中心として 継続的に実施している。例えば、授業内容の向上・改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」は、FD 委員会が中心となって実施し、結果をホームページや掲示板に公表している。学生生活全般についての満足度調査の実施及び、その分析結果は、学生委員会を中心に実施し、学生から要望を採択するシステムを整えている。

このように各委員会で挙がった問題点や改善点は、次年度の事業計画に反映させ、年度毎の目標設定や自己点検を行う内部質保証に向けた組織体制を構築している

6－2．内部質保証のための自己点検・評価

6－2－①　内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

各委員会は、毎年の活動内容を自己点検・評価した上で委員会活動報告書を作成し、自己点検評価委員会に提出している。自己点検評価委員会では各委員会から提出された内容の実行状況と総括のチェックを行い、年報という形で公表している。各委員会は自己点検評価委員会による検証結果に基づき改善を行い、これをまとめて次年度の事業計画案を作成し、最終的に学長から次年度大学事業計画として、年度末の「大学方針説明会」において説明している。

学校教育法第109条に基づき、本学ではエビデンスに基づいた自己点検・評価に努めており、自己点検評価委員会によって、全教員を対象に教員の自己点検･評価を実施している。この自己点検･

評価は、教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的としている。自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の４分野とし、教員自らが、年度目標を立て、「教員自己点検・評価表」に記入し、上司（看護学科においては、分野の教授を分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とし、学科長を教授の上司とする。リハビリテーション学科においては、専攻長を専攻に属する准教授、講師、助教の上司とし、学科長を教授の上司とする。診療放射線学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長の上司は学部長とし、学部長の上司は学長とする）と協議の上、同意を得る。年度末には、教員自己点検・評価表に年度目標に対する成果等を記入し、再度上司と面談の上、自己点検・評価結果が確定する。

この教員の自己点検・評価は、平成28（2016）年度から毎年度実施し、教員自己点検・評価表の結果に関しては、自己点検評価委員会がまとめ、本学の年報及び、ホームページ上にて公表している。

また、各委員会から年度末に提出される「活動報告」や次年度の「活動計画」について内容の吟味を行っている。これまでに実例はないが、吟味の結果、「日本高等教育評価機構」の基準を充たさない事象が認められた場合、委員会に是正を求めることにしている。

毎年、「日本高等教育評価機構」から公表される、「判断例」について、本学の実態と照合し適否を確認している。

６－２－② IR（Institutional Research）などを活用した十分な調査・データの収集と分析

IRについては、平成30（2018）年６月27日開催の自己点検評価委員会においてIR組織の設置が提案され、自己点検評価委員会の下部組織として「IR専門部会」を設置することを教授会に諮り、承認を得、設置することを決定した。第１回IR専門部会において情報収集についての提案があり、各委員会に過去の記録（議事録や調査関係書類等）をIR専門部会に提出を依頼した。しかし、平成30（2018）年10月22日開催の運営会議において、IR組織は自己点検評価委員会の下部組織ではなく、独立した組織にするべきであるとの方向性が定まり、平成30（2018）年10月24日開催の第３回IR専門部会において同部会を平成30（2018）年度末に解消することを決定した。そして平成31（2019）年１月23日開催の教授会において、平成31（2019）年度から自己点検IR室をより上位の組織に設置し機能向上を図ることが承認された。IR室は、平成31（2019）年４月１日に設置され、組織図として運営会議に並ぶ上位組織に位置付けられた。構成員は、運営会議と同じ（学長、学科長、事務局長等）である。IR室初年度の活動は、下記に記している授業評価アンケートの結果について、ハラスメントガイドラインの策定ついて、日本医療大学SNSの利用に関するガイドラインについて検討が行われた。

本学では、教育・学修支援に関する十分な調査・データの収集と分析のために、FD委員会が中心となって「学生による授業評価アンケート」を実施している。この授業評価アンケートは、平成28（2016）年度に様式の見直しを実施した。授業評価アンケートの結果を受け、各教員は今後の教育にどう反映させるかを書面で提出している。さらに、この結果は学生にも公開し、教員・学生間の双方の意見交流の機会としている。

また、学生委員会により、例年５月に全学生を対象とした「学生の生活に関するアンケート」が実施され、学生生活の実態を把握し、学生の大学に対する要望を尋ね、大学は改善に努めている。内容は、基本的属性、入学に至る経緯、大学生活の現状、大学生活全般についての満足度、学生気質など、マークシートによる無記名アンケートに加え、大学へのアクセス、学生食堂、施設・設備などの改善要望など、記述式による無記名アンケートである。毎年、教授会で分析結果を報告するとともに学生にはニュースレター『あずまし』を通じて結果を報告している。『あずまし』には、学生のアンケート結果を報告するとともに、学生生活の充実度を尋ねた質問の回答として、改善の取り組みについて啓発するコーナーを設け、改善案についてその取り組みを紹介している。『あずまし』は開学以来、学生に直接配布していたが、平成29（2017）年度から配布に代わり学生ポータルサイトでの発信としている。

６－３．内部質保証の機能性

６－３－①　内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性

本学の内部質保証は、「自己点検評価委員会規程」に基づき、自己点検評価委員会が中心となって計画（Plan）、実施（Do）した自己点検・評価の結果を、自己点検評価委員会や教授会で報告・検討（Check）し、その結果を全学の教職員が教育研究活動に反映し、改善を図り（Action）、さらにそれを点検・評価に結び付けていくという内部質保証のためのPDCAサイクルは確立している。前述のように、大学全体として、自己点検・評価は毎年度継続的に実施し、その結果についても日本医療大学年報及び、ホームページ上で共有しており、大学の運営に反映させている。

本学は、開学から１年ごとに新学科が増設された経緯があり、旧ディプロマ・ポリシーに沿った教育を展開してきた。しかし、開学後４年を経過した平成30（2018）年頃から建学の精神などと三つのポリシーを、改めて全面的に見直す必要性が生じてきた。平成30（2018）年度６月から10月にかけ、学長のリーダーシップのもと、自己点検評価委員会委員である各学科長を構成員とする運営会議を中心に三つのポリシーの見直しの原案を作成し、さらに学科会議・教授会等関係会議において検討を重ね、新たな三つのポリシーが策定された。これによって、入学選抜、教育、卒業の各段階の目標の具現化を図った。

それに伴い、カリキュラム委員会において、カリキュラム委員会委員長のもと、自己点検評価委員会委員も構成員として加わり、カリキュラムマップの原案を作成し、各学科において検討を重ねた。平成30（2018）年度12月の教授会においてカリキュラムマップが提示され、ディプロマ・ポリシーの内容をカリキュラムに反映した。SYLLABUSにおいては、令和元（2019）年度から、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、科目レベルにおいても各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。

本学の内部質保証は三つのポリシーを起点とした内部質保証の取り組みが開始されており、自己点検・評価、設置計画履行状況調査などの結果を活用し、大学運営の改善・向上を図っている。

7．大学が独自に設定した基準による自己評価

7－1．認知症研究所

7－1－①　研　　究：「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」株式会社クオリからの「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」に関する受託研究、「アスパラガス茎抽出物（ETAS®50）の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」、ニッセイ財団助成研究に関する論文投稿

7－1－②　普　　及：認知症サポーター養成講座

7－1－③　外部連携：「認知症高齢者への『理想的ないす』の開発」、「アスパラガス茎抽出物（ETAS®50）の軽度認知症患者に対する臨床効果の検証Ⅱ」

基準項目「研究」に関して、(1) 株式会社クオリからの受託研究として、認知症高齢者への『理想的ないす』を開発するため、八田研究員を中心に、岸上博俊教授も交えて研究を進めている。(2) 株式会社アミノアップからの受託研究として、ノテ福祉会の介護事業所の入居者、利用者を対象に、アスパラガス茎抽出物（ETAS®50）の臨床効果を図るための試験を平成30（2018）年10月から開始し、令和２（2020）年２月で終了した。研究成果を2020年度中に論文として投稿し、学会で発表する予定としている。(3) 平成30（2018）年度に終了したニッセイ財団助成研究に関連して、林研究員が『地域ケアリング』令和２（2020）年１月号に「小規模多機能型居宅介護事業所における家族介護者支援のための面談機能向上に関する調査報告」、浅井研究員が中心になって本学紀要第６巻に「認知症の人の家族介護者への介護と仕事の両立支援の試み：ケアマネジャーによる介護負担アセスメント・シートを用いた面談の有用性の検討」を投稿した。

基準項目「普及」に関して、５月11日本学保健医療学部看護学科、８月５日札幌大谷大学、８月26日本学教員向け、10月22日リハビリテーション学科、11月16日診療放射線学科で、11月21日に平岡中央中で実施した。

基準項目「外部連携」に関して、研究（1）に関連して株式会社クオリ、研究（2）に関蓮して株式会社アミノアップから受託研究を実施している。

7－2．教員の自己点検・評価

「教員の自己点検評価制度」は、平成28（2016）年度に制定された制度であり、前年度末に次年度の教育・研究・大学業務・社会貢献についての重み付けを上司と共に設定し、年度末にそれらについて自己評価を行い、その結果を基に翌年度の目標を立て、PDCAサイクルを実践するものであり平成30（2018）年度の結果とコメントは、以下の通りである。

教員の自己点検・評価制度

教員の自己点検・評価（以下「自己点検・評価」という）制度は以下のとおりである。

(1) 制度の目的

教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的とする。

(2) 対象者

日本医療大学の全教員を対象とする。

(3) 自己点検・評価における基本方針

①自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の４分野とする。

②教員自らが、年度目標を立て、「教員自己点検・評価表（以下、「評価表」という。（別表）に記入し、上司と協議の上、同意を得る。同表に、年度目標に対する成果等を記入し、上司と面談の上、自己点検・評価結果を確定する。

(4) 自己点検・評価結果の使途

①自己点検・評価結果は、次年度の年度目標作成時の参考とする。

②教員の顕彰時の資料とする。

③昇任審査時の資料とする。

(5) 自己点検・評価の実施方法

・３月15日まで 評価表に次年度目標を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と協議

・３月末日まで 次年度目標を確定

・２月15日まで 評価表に成果等を記入 ⇒ 上司に提出 ⇒ 上司と面談

・２月末日まで 自己点検・評価結果を確定

(6) 上司とは

看護学科においては、分野の教授を、分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

リハビリテーション学科においては、専攻長を、専攻に属する准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長を教授の上司とする。

診療放射線学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。

学科長の上司は、学部長とする。

学部長の上司は、学長とする。

(7) 職階別各分野重み付けの目安（但し、上司と協議の上、決定する）

職階別各分野重み付けの目安については、表６－２－①－１の通りである。

表7－2　教員の自己点検・評価制度（職階別各分野重み付けの目安表）

	教　育（%）	研　究（%）	大学業務（%）	社会貢献（%）
教　　授	30～40	20～30	15～40	5～20
准　教　授	35～50	40～50	10～30	0～15
講　　師	35～50	40～60	10～30	0～10
助教・助手	30～40	40～60	10～20	0～5

(8) 結果の公表

匿名化した評価表を、分野達成度及び自己評価を統計学的処理し、結果をホームページ等に公表する。

教員の自己点検評価に対する分析

本学では教育、研究、大学業務、社会貢献の各分野に対して職階別に重み付けの目安を設定している。それをもとに各教員はウエイトや具体的な目標を年度当初に設定し、それに対する成果を年度末に報告している。目標に対する達成度*を評価５から評価１までの５段階で自己評価している。その結果を集計し分析したものを公表する。結果は１から５を図表で、分析については特記事項のみを提示している。

全教員のウエイト設定と分野達成度を結果１に示す。教育のウエイトは平均が39.3％で、それに対する分野達成度の平均は3.5の評価であった。研究のウエイトに対する平均は27.8％、それに対する分野達成度の平均は3.1の評価であった。大学業務のウエイトに対する平均は24.6％、それに対する分野達成度の平均は3.5の評価であった。社会貢献のウエイトに対する平均は8.4％、それに対する分野達成度の平均は3.3の評価であった。全項目において自己評価は３を越えており、目標を達成できていた。

学科別のウエイト設定と分野達成度を結果２に示す。３学科とも教育におけるウエイトが最も高く、次いで看護とリハビリテーションは研究、診療放射線学科は大学業務のウエイトが高くなっていた。分野別の達成度としてすべて自己評価で３を上回っており、目標は達成されていた。

職階別のウエイト設定と分野達成度を結果３に示す。教育に対するウエイト設定は助教、助手において高い設定が行われていた。教授から講師までに大きな違いは見られていなかった。研究へのウエイト設定は准教授、講師が高めとなっていた。大学業務に対するウエイト設定は教授が最も高く、社会貢献に対するウエイト設定は准教授と教授が高かった。職階別の全体的な分野達成度は2.9から3.6の範囲にあり、概ね目標を達成できていたが助教の平均達成度が2.9となっていた。社会貢献の分野では助手の分野達成度が2.3と低かった。

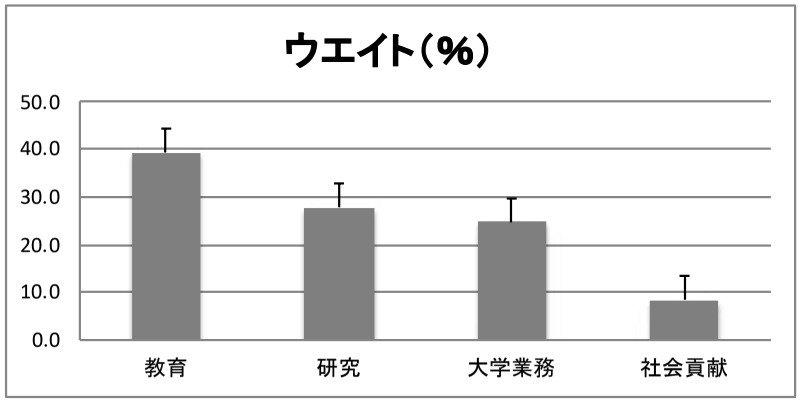
学科・職位別のウエイト設定を結果４－１、４－２に示す。教育のウエイト設定は、看護、リハビリテーションで大きな差が見られなかった。しかし、診療放射線の助教でウエイトが高く設定されていた。研究は、リハビリテーション学科の講師が最も高く設定されていた。大学業務においては、診療放射線の講師において高く設定されていた。社会貢献では、看護の准教授で高く設定されていた。

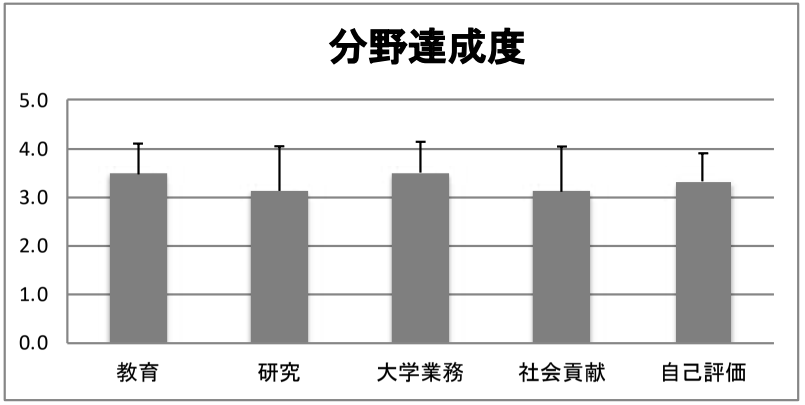
学科・職階別の分野達成度を結果５に示す。全体的な自己評価は、達成できたとされる3.0を概ね示している。リハビリテーションの助教において研究達成度が低い状況が見られている。また、社会貢献において3.0に達していない自己評価が見られていた。

＊達成度
評価５：目標を大きく上回る成果があった
評価４：目標を上回る成果があった
評価３：目標を達成できた
評価２：目標を少し達成できなかった
評価１：目標をほとんど達成できなかった

結果１　全教員のウエイト設定と分野達成度

	ウエイト（%）				分野達成度				
	教育	研究	大学業務	社会貢献	教育	研究	大学業務	社会貢献	自己評価
平均	39.3	27.8	24.6	8.4	3.5	3.1	3.5	3.1	3.3
SD	9.5	12.1	10.3	4.9	0.6	0.9	0.6	0.9	0.6
最大値	70	60	50	20	5	5	5	5	5
最小値	20	0	10	0	2	1	2	1	2
中央値	40	30	22.5	5	3	3	3	3	3





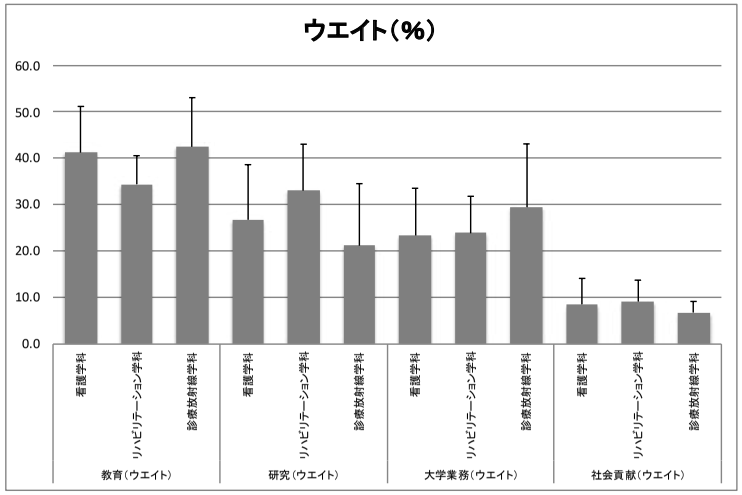
n=56

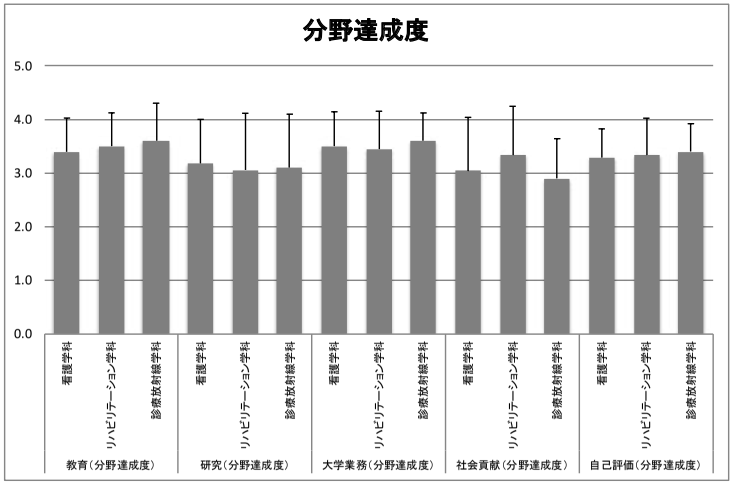
結果2　学科別ウエイトと分野達成度

	教育（ウエイト）			研究（ウエイト）			大学業務（ウエイト）			社会貢献（ウエイト）		
	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科
平均	41.3	34.4	42.5	26.8	33.1	21.2	23.4	23.9	29.5	8.6	9.2	6.8
SD	10.0	6.2	10.6	11.9	10.0	13.4	10.2	8.0	13.6	5.6	4.6	2.4
最大値	70	45	60	60	50	40	45	40	50	20	20	10
最小値	25	20	30	10	10	0	10	10	15	0	5	5
中央値	40	35	40	28	38	25	20	25	25	5	10	5

	教育（分野達成度）			研究（分野達成度）			大学業務（分野達成度）			社会貢献（分野達成度）			自己評価（分野達成度）		
	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科
平均	3.4	3.5	3.6	3.2	3.1	3.1	3.5	3.4	3.6	3.0	3.3	2.9	3.3	3.3	3.4
SD	0.6	0.6	0.7	0.8	1.1	1.0	0.6	0.7	0.5	1.0	0.9	0.7	0.5	0.7	0.5
最大値	5	5	5	5	5	4	5	5	4	5	5	4	5	5	4
最小値	2	3	3	1	1	1	3	2	3	1	1	2	3	2	3
中央値	3	3	3.5	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3

看護学科：　n=28　　リハビリテーション学科：　n=18　　診療放射線学科　n=10



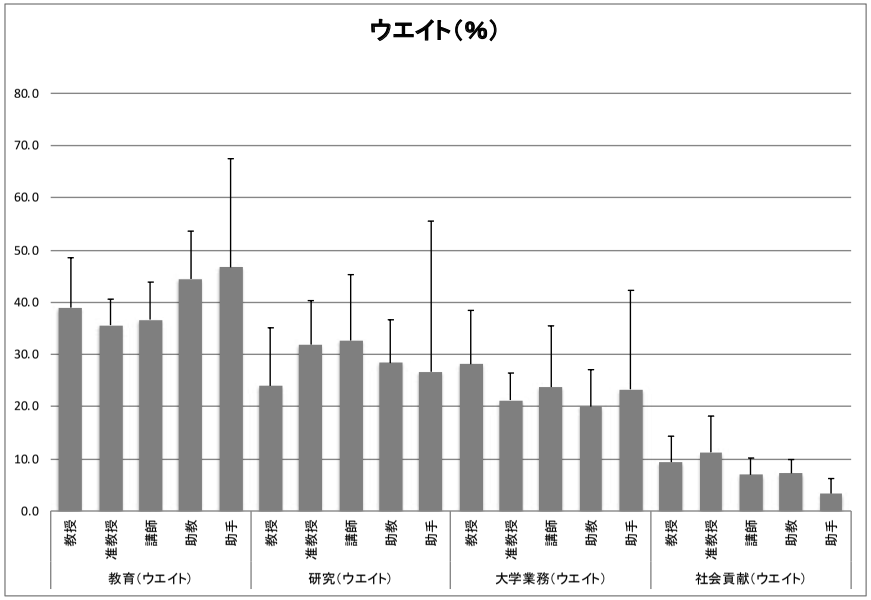


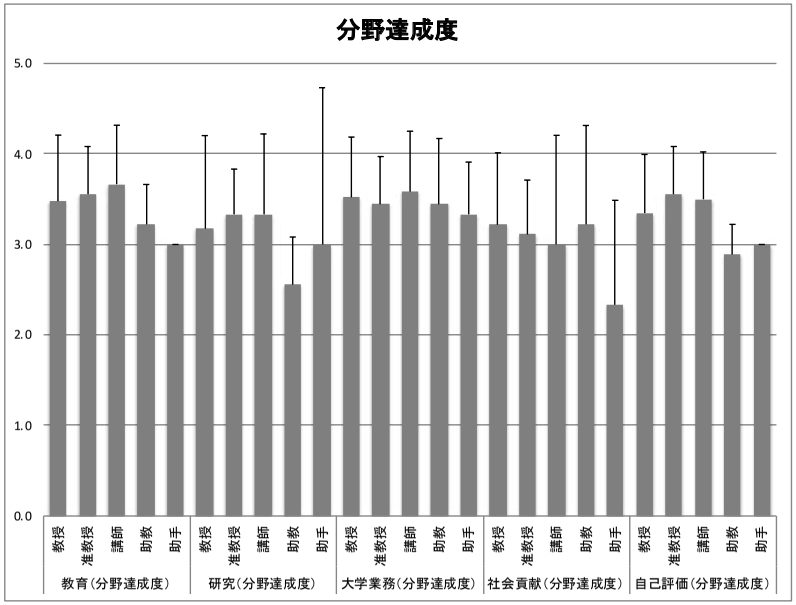
結果3　職位別ウエイト設定と分野達成度

	教育（ウエイト）					研究（ウエイト）					大学業務（ウエイト）					社会貢献（ウエイト）				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	39.0	35.6	36.7	44.4	46.7	24.0	31.9	32.7	28.3	26.7	28.1	21.3	23.8	20.0	23.3	9.4	11.3	6.9	7.2	3.3
SD	9.6	5.0	7.2	9.2	20.8	11.1	8.4	12.6	8.3	28.9	10.3	5.2	11.7	7.1	18.9	5.0	6.9	3.2	2.6	2.9
最大値	60	40	50	60	70	40	40	50	40	60	50	30	50	30	45	20	20	10	10	5
最小値	25	30	20	30	30	0	20	2	20	10	15	15	10	10	10	5	5	0	5	0
中央値	40	38	38	45	40	23	33	33	25	10	25	20	20	20	15	10	10	7	5	5

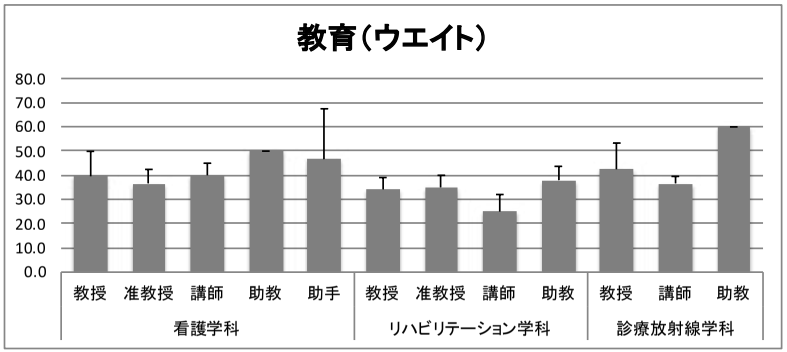
	教育（分野達成度）					研究（分野達成度）					大学業務（分野達成度）					社会貢献（分野達成度）					自己評価（分野達成度）				
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	助手
平均	3.5	3.6	3.7	3.2	3.0	3.2	3.3	3.3	2.6	3.0	3.5	3.4	3.6	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0	3.2	2.3	3.3	3.6	3.5	2.9	3.0
SD	0.7	0.5	0.7	0.4	0.0	1.0	0.5	0.9	0.5	1.7	0.7	0.5	0.7	0.7	0.6	0.8	0.6	1.2	1.1	1.2	0.6	0.5	0.5	0.3	0.0
最大値	5	4	5	4	3	5	4	5	3	5	5	4	5	4	4	5	4	5	4	3	5	4	4	3	3
最小値	2	3	3	3	3	1	3	2	2	2	3	3	3	2	3	1	2	1	1	1	3	3	3	2	3
中央値	3	4	4	3	3	3	3	3	3	2	3	3	4	4	3	3	3	3	4	3	3	4	4	3	3

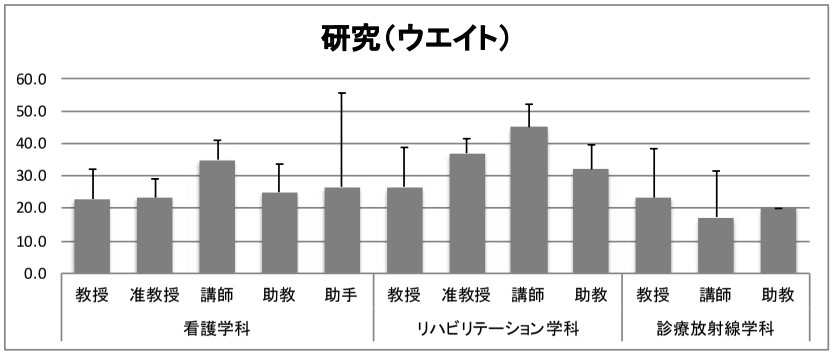
教授　n=24　准教授　n=8　講師　n=12　助教　n=9　助手　n=3

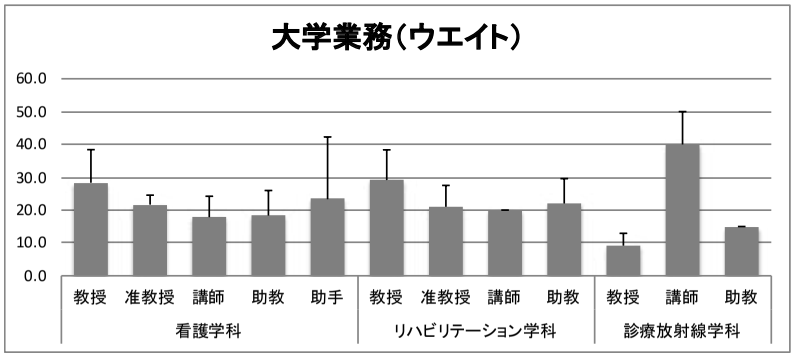


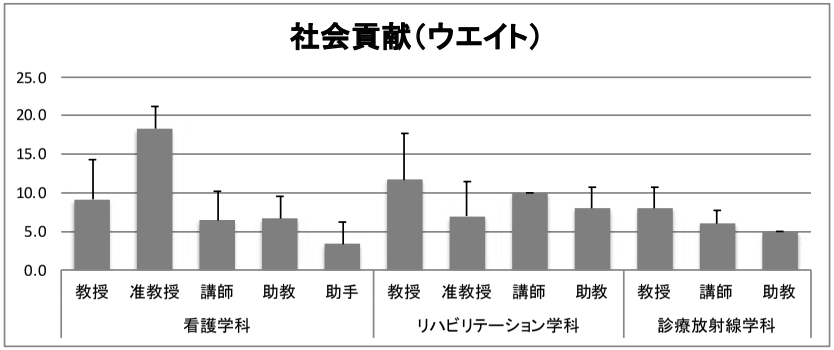


結果4-1　学科職位別ウエイト設定









看護学科		診療放射線学科		リハビリテーション学科	
教授	n=12	教授	n=6	教授	n=6
准教授	n=3	准教授	n=0	准教授	n=5
講師	n=7	講師	n=3	講師	n=2
助教	n=3	助教	n=1	助教	n=5
助手	n=3	助手	n=0	助手	n=0

結果4-2 学科職位別ウエイト設定

教育（ウエイト）												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	39.6	36.7	40.0	50.0	46.7	34.2	35.0	25.0	38.0	42.5	36.7	60.0
SD	10.3	5.8	5.0	0.0	20.8	4.9	5.0	7.1	5.7	10.8	2.9	#DIV/0!
最大値	60	40	50	50	70	40	40	30	45	60	40	60
最小値	25	30	35	50	30	30	30	20	30	30	35	60
中央値	40	40	40	50	40	33	35	25	40	40	35	60

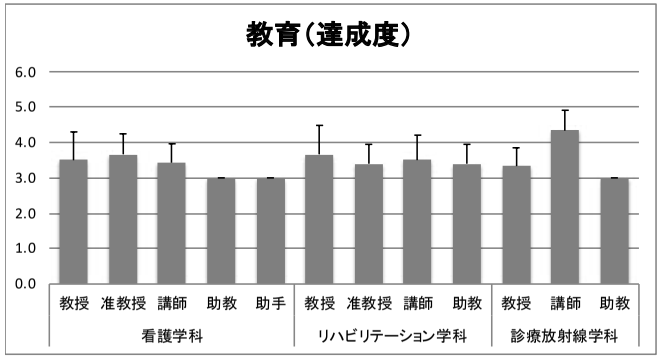
研究（ウエイト）												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	22.9	23.3	35.0	25.0	26.7	26.7	37.0	45.0	32.0	23.3	17.3	20.0
SD	9.2	5.8	6.0	8.7	28.9	12.1	4.5	7.1	7.6	15.1	14.2	#DIV/0!
最大値	40	30	45	35	60	40	40	50	40	40	30	20
最小値	10	20	30	20	10	10	30	40	25	0	2	20
中央値	20	20	33	20	10	25	40	45	30	30	20	20

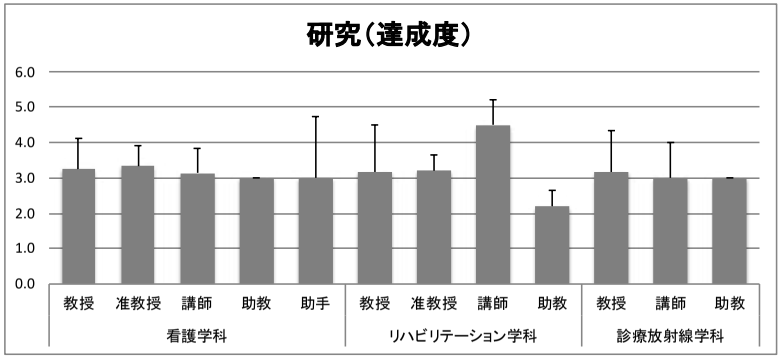
大学業務（ウエイト）												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	28.3	21.7	17.9	18.3	23.3	29.2	21.0	20.0	22.0	9.2	40.0	15.0
SD	10.1	2.9	6.4	7.6	18.9	9.2	6.5	0.0	7.6	3.8	10.0	#DIV/0!
最大値	45	25	25	25	45	40	30	20	30	15	50	15
最小値	15	20	10	10	10	15	15	20	10	5	30	15
中央値	28	20	20	20	15	30	20	20	25	10	40	15

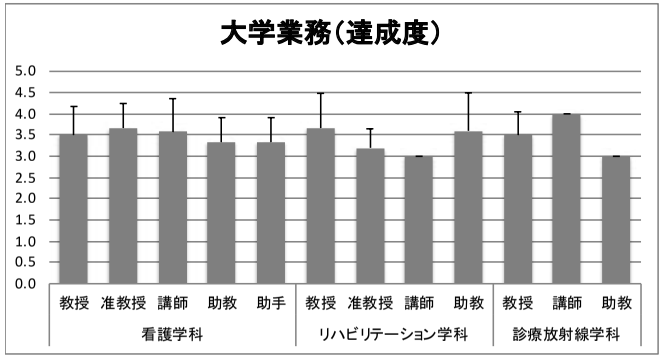
社会貢献（ウエイト）												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	9.2	18.3	6.4	6.7	3.3	11.7	7.0	10.0	8.0	8.0	6.0	5.0
SD	5.1	2.9	3.8	2.9	2.9	6.1	4.5	0.0	2.7	2.7	1.7	#DIV/0!
最大値	20	20	10	10	5	20	15	10	10	10	8	5
最小値	5	15	0	5	0	5	5	10	5	5	5	5
中央値	8	20	5	5	5	13	5	10	10	10	5	5

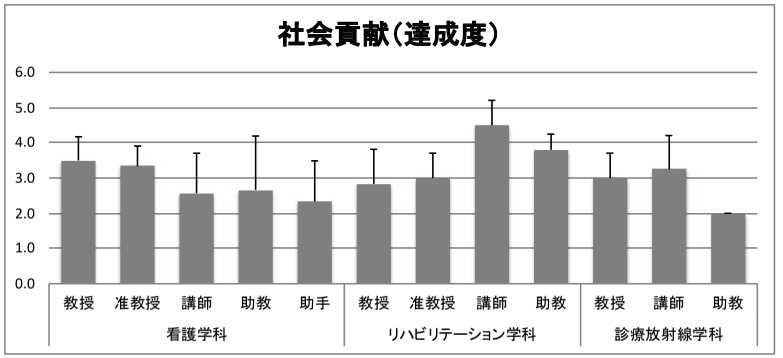
看護学科		診療放射線学科		リハビリテーション学科	
教授	n=12	教授	n=6	教授	n=6
准教授	n=3	准教授	n=0	准教授	n=5
講師	n=7	講師	n=3	講師	n=2
助教	n=3	助教	n=1	助教	n=5
助手	n=3	助手	n=0	助手	n=0

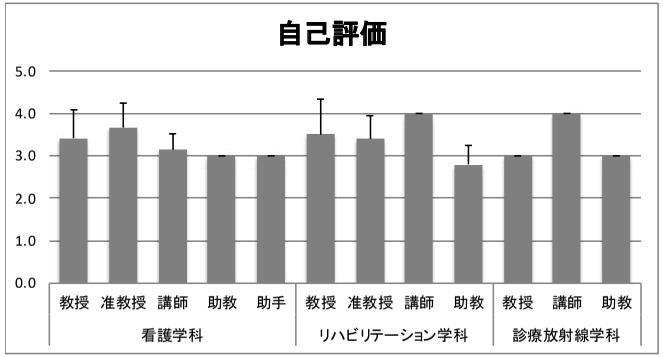
結果5-1　学科・職位別分野達成度











看護学科		診療放射線学科		リハビリテーション学科	
教授	n=12	教授	n=6	教授	n=6
准教授	n=3	准教授	n=0	准教授	n=5
講師	n=7	講師	n=3	講師	n=2
助教	n=3	助教	n=1	助教	n=5
助手	n=3	助手	n=0	助手	n=0

結果5-2 学科・職位別分野達成度

教育（達成度）												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	3.5	3.7	3.4	3.0	3.0	3.7	3.4	3.5	3.4	3.3	4.3	3.0
SD	0.8	0.6	0.5	0.0	0.0	0.8	0.5	0.7	0.5	0.5	0.6	#DIV/0!
最大値	5	4	4	3	3	5	4	4	4	4	5	3
最小値	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
中央値	3.5	4	3	3	3	3.5	3	3.5	3	3	4	3

研究（達成度）												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	3.3	3.3	3.1	3.0	3.0	3.2	3.2	4.5	2.2	3.2	3.0	3.0
SD	0.9	0.6	0.7	0.0	1.7	1.3	0.4	0.7	0.4	1.2	1.0	#DIV/0!
最大値	4	4	4	3	5	5	4	5	3	4	4	3
最小値	1	3	2	3	2	1	3	4	2	1	2	3
中央値	3	3	3	3	2	3	3	5	2	4	3	3

大学業務（達成度）												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	3.5	3.7	3.6	3.3	3.3	3.7	3.2	3.0	3.6	3.5	4.0	3.0
SD	0.7	0.6	0.8	0.6	0.6	0.8	0.4	0.0	0.9	0.5	0.0	#DIV/0!
最大値	5	4	5	4	4	5	4	3	4	4	4	3
最小値	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	4	3
中央値	3	4	3	3	3	4	3	3	4	4	4	3

社会貢献（達成度）												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	3.5	3.3	2.6	2.7	2.3	2.8	3.0	4.5	3.8	3.0	3.3	2.0
SD	0.7	0.6	1.1	1.5	1.2	1.0	0.7	0.7	0.4	0.7	1.0	#DIV/0!
最大値	5	4	4	4	3	4	4	5	4	4	4	2
最小値	3	3	1	1	1	1	2	4	3	2	2	2
中央値	3	3	3	3	3	3	3	5	4	3	4	2

自己評価												
	看護学科					リハビリテーション学科				診療放射線学科		
	教授	准教授	講師	助教	助手	教授	准教授	講師	助教	教授	講師	助教
平均	3.4	3.7	3.1	3.0	3.0	3.5	3.4	4.0	2.8	3.0	4.0	3.0
SD	0.7	0.6	0.4	0.0	0.0	0.8	0.5	0.0	0.4	0.0	0.0	#DIV/0!
最大値	5	4	4	3	3	5	4	4	3	3	4	3
最小値	3	3	3	3	3	3	3	4	2	3	4	3
中央値	3	4	3	3	3	3	3	4	3	3	4	3

看護学科		診療放射線学科		リハビリテーション学科	
教授	n=12	教授	n=6	教授	n=6
准教授	n=3	准教授	n=0	准教授	n=5
講師	n=7	講師	n=3	講師	n=2
助教	n=3	助教	n=1	助教	n=5
助手	n=3	助手	n=0	助手	n=0

８．社会貢献

８－１　学生ボランティア

８－１－①　医療関係者として人間尊重、相互扶助の精神を育む

◯課外教育活動の企画・実施

本学では医療に従事する者として、人間尊重と相互扶助の精神を涵養するための行事を各種行っている。その中でも啓発的な教育活動であるいのちのパネル展、講演会「命」は今年度も各キャンパスでそれぞれ実施した。

８－１－②　学生自らが課題を見つけ、解決のために行動することができる

◯課外教育活動の企画・実施

本学では医療に従事する者として、人間尊重と相互扶助の精神を涵養するための行事を各種行っている。その中でも啓発的な教育活動であるいのちのパネル展、講演会「命」は今年度も各キャンパスでそれぞれ実施した。

［１］募金活動

第６回日医祭においてユニセフ募金活動を実施した。集まった募金は第７代会長が北海道ユニセフ協会を訪ね、協会事務長への贈呈式に臨み、即日協会よりの感謝状が手渡された。

［２］フードバンク活動

学友会では、大学祭の場において、平成29（2017）年からフードバンクフェア活動を行っている。賞味期限前のまだ食べられる食料品を集め、市内のフードバンクに寄付をし、72時間以内にフードバンクに登録している食料を必要としている人たちに届けてもらう。今年度も段ボール箱１箱分の食材を学祭の翌日フードバンクに寄付をすることができた。

［３］各種イベントでのボランティアスタッフ活動

本学の学生は、札幌市内及び周辺地域にて行われる各種イベント（北海道マラソン、区役所が主催する子供のための祭、地域で開催される学術集会など）に、学生有志がボランティアスタッフとして参加してきた。今年度は以下の活動に参加した。

アンデルセングルメ祭のスタッフ　毎年学生ボランティアが支えるイベントであるが、令和元（2019）年度は6,000人以上の参加者が集まり、学生ボランティア等150名余りがイベントを支えたが、本学学生も模擬店の売り子や会場係りとなってイベントを支えた。

キッズワールド開催　アンデルセングルメ祭りでは来場する子供のために第２回キッズワールドを主催した。子供用の飲み物やお菓子の模擬店、ゲームコーナー等で、学友会の本部会員を中心に20名がボランティアとして活動した。

北海道マラソン　昨年に続き２回目の参加となる。昨年度は学内団体として19人もの参加であっ

たが、今年は個人の参加となり、２人がスタッフとして活動した。

［４］国際協力ボランティア

恵み野キャンパスのCBRサークルは、国際協力ボランティアについて学習･活動する学内団体で、今年度は社会貢献賞を授与された。その副賞の賞金も利用し、「とんでけ車いすの会」に参加をして、リハビリテーション学科の学生が２人、ネパールにボランティアに出かけた。

9．委員会等活動報告

教授会および各種委員会の活動について、以下に示す。

令和元（2019）年度 日本医療大学 保健医療学部 委員会活動報告

保健医療学部教授会

平成 31 年度・令和元年度

回	議案：報告事項		開催日時
01	意見を求める事項	1. 休学について 2. 学生の懲戒に関する発議について 3. 診療放射線学科教員２名(教授・准教授)の公募における委員会の立ち上げについて	平成 31 年 04 月 10 日 15:30～16:50 201 教室 構成員 34 人 出席者 34 人 欠席者 なし 議事録署名人 藤長　すが子
	報告事項	1. 旧カリキュラム学生に対する「科目の読み替え」について（リハビリテーション学科） 2. 2019 年度日本医療大学年度別学生顕彰対象学生と顕彰状授与式について 3. 学生相談室便り第 19 号について	
02	意見を求める事項	1. 実習施設変更承認申請について（看護学科） 2. 既修得単位の認定について（リハビリテーション学科） 3. 看護学科助教から講師への内部昇任における委員会立ち上げについて 4. 診療放射線学科教員２名の公募について	平成 31 年 04 月 24 日 15:30～16:50 201 教室 構成員 34 人 出席者 32 人 欠席者 2 人 議事録署名人 滋野　和恵
	報告事項	1. 非常勤講師追加について（看護学科） 2. 研究倫理委員会学外委員の委嘱について 3. 学生の懲戒処分の公表について 4. 教員の賞罰について	
	その他	1. 名誉教授称号授与式について 2. 学生の欠席に対する訂正時の対応について：申し合わせ	
03	意見を求める事項	1. 実習施設変更承認申請について（リハビリテーション学科、診療放射線学科） 2. 既修得単位の認定について（診療放射線学科） 3. 看護学科助教から講師への内部昇任について 4. 自己点検報告書について	令和元年 05 月 22 日 15:50～17:20 201 教室 構成員 34 人 出席者 32 人 欠席者 2 人 議事録署名人 進藤　ゆかり
	報告事項	1. 2019 年度履修登録者数について 2. 非常勤講師追加一覧について（看護学科） 3. 定期試験時間割 2019 前期（診療放射線学科４年）について 4. 安心・安全週間の実施予定について 5. 第 6 回日本医療大学体育大会について 6. 令和元年度学生アンケート調査の実施について 7. 日本医療大学紀要第 5 巻の発刊について 8. 診療放射線学科教員２名の公募の進捗について 9. 教員の賞罰について 10. 高等教育無償化制度について	
	その他	1. 学生の欠席に対する訂正時の対応について	

04	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 実習施設変更承認申請について（看護学科） 2. 2019 年度 学術助成費・教育向上研究費の交付について 3. 公欠の取り扱いについて 1. 試験実施要項（案）について 2. 2019 年度前期定期試験（案）について 3. 追実習の審査について（看護学科） 4. 診療放射線学科教員２名の公募の進捗について 5. 教員の賞罰について 1. 合同防火避難訓練について（真栄キャンパス） 2. 第６回日本医療大学体育大会について 3. その他の報告	令和元年 06 月 12 日 15:30～16:30 201 教室 構成員 34 人 出席者 29 人 欠席者 5 人 議事録署名人 高儀　郁美
05	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 教員の自己点検評価について 1. 非常勤講師追加一覧について（看護学科） 2. FD 研修会とカリキュラム委員会の研修実施予定について（案） 3. 第６回体育大会の反省点と課題について 4. 認証評価（自己点検評価書）について 5. 診療放射線学科教員２名の公募の進捗について 6. 教員の賞罰について（最終報告） 1. 事務局からの報告について	令和元年 06 月 26 日 15:30～16:20 201 教室 構成員 34 人 出席者 29 人 欠席者 5 人 議事録署名人 及川　直樹
06	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 欠席届の見直しについて 2. 教員の自己点検評価について 1. 定期試験時間割について 2. 診療放射線学科教員２名の公募の進捗について 3. 恵み野キャンパス防火避難訓練計画について 1. 自己点検評価書について	令和元年 07 月 10 日 15:30～16:30 201 教室 構成員 34 人 出席者 30 人 欠席者 4 人 議事録署名人 西山　　徹
07	報告事項 その他	1. 2019年度前期定期試験受験者一覧について 2. 追実習の審査について 3. 学生委員会からのお知らせについて 4. 学生相談室だよりについて 5. あずまし 22 号について 6. 2021 年度日本医療大学入学試験について 7. 診療放射線学科教員２名の公募の進捗について 8. 学生の懲戒等について 9. キャンパス移転に係る在校生への説明について 10. 令和元年度 日本医療大学保護者懇談会 実施概要につい 1. 自己点検評価書の確認について	令和元年 07 月 24 日 15:30～17:00 201 教室 構成員 34 人 出席者 32 人 欠席者 2 人 議事録署名人 矢口　智恵

08	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 休学・退学・復学について 2. 実習施設変更承認申請について（リハビリテーション学科） 3. 学則・教育課程の変更について 4. 教員昇任における教員選考委員会立ち上げについて 5. 診療放射線学科教員２名の選考について 6. キャリア学修支援センター規程の一部改正について 1. 非常勤講師の追加について（看護学科） 2. 追実習の審査について 3. 追試験の審査について 4. 2019年 学生委員会アンケート結果について 5. 第６回 日医祭について 6. 研究倫理教育の受講について 7. 電気設備点検における停電のお知らせについて 8. アセスメント・ポリシーの作成について 1. その他の報告事項	令和元年08月28日 15:30～16:30 201教室 構成員34人 出席者30人 欠席者 4人 議事録署名人 向井　康詞
09	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 休学・退学・復学について 2. 実習施設変更承認申請について（看護学科） 3. ハラスメントの防止等に関するガイドライン(案)について 4. ハラスメントガイダンスの実施について 5. 学生相談室ガイドライン(案)について 6. 教員の内部昇任について 1. 非常勤講師の追加について（看護学科・診療放射線学科） 2. 実習指導教員の委嘱及び担当科目について（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科） 3. 定期試験受験資格について（診療放射線学科） 4. 定期試験結果について（看護学科・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科・診療放射線学科） 5. 評価機構からの書面質問及び依頼事項について 1. 事務局の人事に関するお知らせ	令和元年09月11日 15:30～17:00 201教室 構成員35人 出席者31人 欠席者 4人 議事録署名人 門間　正子
10	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 休学について 2. 診療放射苑学科教員昇任における教員選考委員会立ち上げについて 3. 認証評価実地調査に係る面談学生の公欠について 1. 認証評価実地調査に係る学生との面談の際の対応学生について 2. 第6回日医祭最終計画案について 3. 第6回いのちのパネル展実施計画案について 4. 日本医療大学学内団体設置願、継続申請の結果について 5.「学生委員会からのお知らせ 2019-3」の配布について 6.「学生相談室だより 第21号」の配布について 7. 認証評価実地調査について 1. その他報告事項について	令和元年09月25日 15:40～16:30 201教室 構成員35人 出席者30人 欠席者 5人 議事録署名人 乾　公美

11	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 休学について 2. 令和元年度[前期]臨地実習（看護学科４年）・臨床実習（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科４年）の成績結果について 3. 令和元年度[前期]定期試験の成績結果について（診療放射線学科３年） 1. 2020年度ＡＯ入学試験（前期）の合否について 2. 2019年度履修一覧について（看護・リハビリ・診療放射線） 3. 日本医療大学紀要第６巻の投稿募集について 4. 診療放射線学科教員の内部昇任について（継続） 1. 認証評価実地調査を終えて	令和元年10月23日 15:30～16:10 201教室 構成員36人 出席者30人 欠席者 6人 議事録署名人 山崎　公美子
12	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について 2. 診療放射線学科教員の内部昇任について 1. 2020年度非常勤講師の委嘱について 2. 定期試験時間割（診療放射線学科４年）について 3. 推薦入学試験の実施計画について 1. 真栄キャンパス駐車場の許可制について 2. 各種委員会規程の一部改正について	令和元年11月13日 15:30～16:10 201教室 構成員36人 出席者32人 欠席者 4人 議事録署名 石橋　晃仁
13	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について 2. 実習施設変更承認申請について（看護学科） 3. 日本医療大学賞罰規程の一部改正について 1. 2020年度 非常勤講師の委嘱について（追加） 2. 推薦入学試験公募（後期）の実施計画について 3. 第６回 講演会『命』の開催について 4. 学生アンケートのIR室への報告書案について 5. ハラスメント防止のガイドライン修正案について 1. 各種委員会事務局担当者について 2. 2020年度予算編成について	令和元年11月27日 15:30～16:30 201教室 構成員36人 出席者31人 欠席者 5人 議事録署名 岸上　博俊
14	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について 2. 学則の改正について 3. 学生の懲戒について 1. 4年生後期定期試験受験資格者一覧について 2. ３学科学年暦について 3. 令和元年度私立大学等経常費補助金（障害のある学生の支援）について 4. ハラスメントの防止等に関するガイドラインについて 5. 大学機関別認証評価 評価チーム評価報告書案及び年報について 1. 第６巻紀要の申請状況について	令和元年12月11日 15:30～16:20 201教室 構成員36人 出席者35人 欠席者 1人 議事録署名 浅井　さおり

15	意見を求める事項	1. 退学について 2. 看護学科教員（助教）公募における委員会立ち上げについて 3. 学生の懲戒等について 4. 日本医療大学 SNS の利用に関するガイドラインについて	令和元年 12 月 25 日 15:30～16:30 201 教室 構成員 36 人 出席者 31 人 欠席者 5 人
	報告事項	1. 推薦入学試験公募（後期）の合否について 2. 学生委員会からのお知らせ 2019-4 について 3. 学生相談室便りについて 4. あずまし第 23・24 合併号について 5. 名誉教授と最終講義について	議事録署名 大堀　眞視
	その他	1. 生涯学習講座について 2. 学生アンケートについて	
16	意見を求める事項	1. 休学について 2. 看護学科教員（老年看護学領域 助教）の公募について 3. 看護学科教員（基礎看護学領域 助教）の公募における選考委員会立ち上げについて 4. 教員の内部昇任における選考委員会立ち上げについて 5. 診療放射線学科のカリキュラム変更届出について 6. 日本医療大学名誉教授推薦者について 7. 日本医療大学 SNS の利用に関するガイドラインについて 8. 2019 年度の間接経費の使用について	令和 2 年 01 月 22 日 15:30～16:30 201 教室 構成員 36 人 出席者 34 人 欠席者 2 人 議事録署名 岡田　洋子
	報告事項	1. 後期定期試験受験資格者一覧（案）について 2. 後期定期試験の時間割について 3. カリキュラム読み替え表について 4. 2020 年度非常勤講師の委嘱について（追加・確定）（看護学科） 5. 2020 年度非常勤講師の委嘱について（変更）（リハビリテーション学科） 6. 2020 年度非常勤講師の委嘱について（追加）（診療放射線学科） 7. 看護学科教員の採用について 8. 学生アンケートについて 9. 最終講義について 10. 一般入学試験（前期）の実施計画について	
	その他	1. Windows10 への入れ替えについて	

17	意見を求める事項 報告事項	1. 看護学科教員（基礎看護学領域 助教）の公募について 2. 令和元年度 日本医療大学 卒業証書・学位記授与式 実施概要（案）について 1. 一般入学試験（前期）の合否について 2. センター入学試験（前期）の合否について 3. 後期定期試験受験資格者一覧（確定）3学科 4. 非常勤講師の委嘱について 5. 後期定期試験結果 2019（4年生） 6. 臨地実習の成績結果について（追実習）看護学科 7. 学生相談室の 2019 年度活動報告書と相談件数の経年変化について 8. 令和元年度学術助成費及び教育向上研究費の活動報告書提出について 9. 第6回保健医療学部研究報告会の開催について 10. 自己点検・評価委員会からのお願いについて 11. 認証評価の報告書について 12. 看護学科教員（老年看護学領域 助教）の公募について 13. 教員の内部昇任について 14. 2019 年度間接経費による印刷機の購入について	令和2年02月12日 15:30～16:30 201 教室 構成員 36 人 出席者 34 人 欠席者 2 人 議事録署名 河原田　泰尋
18	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・復学について 2. 2019 年度成績及び卒業判定について 3. 実習施設の追加について（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科理学療法学専攻） 4. 日本医療大学学則の変更について 5. 日本医療大学 SNS に関するガイドライン(最終案)について 6. 看護学科教員（老年看護学領域 助教）の公募について 7. 教員の内部昇任について 8. 日本医療大学学生等の弔慰規程の一部改正について 1. 2020 年度非常勤講師の委嘱について（追加）リハ学科 2. 新入生オリエンテーションについて 3. 学生委員会からの報告について 4. 学生の懲戒処分の報告について 5. 看護学科教員（基礎看護学領域 助教）の公募の進捗状況について 6. 令和元年度特別表彰者について 7. 学校法人日本医療大学学長選任規程の一部改正について 8. 2020 年度 日本医療大学生涯学習講座日程について 9. 2020 年度 教授会日程について 1. 印刷機購入について 2. 新型コロナウイルスの影響における卒業式及び入学式の対応について	令和2年02月26日 15:30～17:00 201 教室 構成員 36 人 出席者 35 人 欠席者 1 人 議事録署名 草薙　美穂

19	意見を求める事項	1. 休学・退学について 2. 2019年度後期成績及び進級判定資料について（3学科） 3. 看護学科実習施設変更承認申請について 4. 日本医療大学SNSに関するガイドライン（最終案）について 5. 学生相談センターガイドライン（案）について 6. 「研究倫理審査申請書等」の様式改訂及び「研究倫理委員会規程」の改正について 7. 看護学科教員（基礎看護学領域 助教）の公募について 8. リハビリテーション学科教員（助教）の公募における選考委員会立ち上げについて	令和2年03月11日 15:50～17:30 201教室 構成員36人 出席者35人 欠席者1人 議事録署名 小山　満子
	報告事項	1. センター入学試験（中期）の合否について 2. 一般入学試験公募（後期）の実施計画について 3. 非常勤講師の委嘱について（リハビリテーション学科） 4. 2020年度 日本医療大学 会議体・各種委員会等構成員について 5. 新型コロナウイルスにおける本学の取り組みについて 6. 保健医療学部研究報告会について	
	その他	1. 看護学科教員の配置換えについて 2. 各種委員会　今年度活動報告書および次年度計画書について	
臨時	意見を求める事項	1. 学生の懲戒等に関する委員会の処分案について	令和2年03月18日 13:00～13:30 201教室 構成員36人 出席者33人 欠席者3人 議事録署名 佐々木　由紀子
20	意見を求める事項	1. 退学・休学・復学について 2. 仮進級の可否について 3. 履修規程（2019年度～）第7章　進級の要件の変更について 4. 「研究倫理審査申請書等」の様式改訂及び「研究倫理委員会規程」の改正について 5. リハビリテーション学科教員（助教）の公募について 6. 学生懲戒処分に対する再審査請求について 7. 診療放射線学科実習施設の追加について 8. 学生相談センターガイドライン（案）	令和2年03月25日 15:50～17:30 201教室 構成員36人 出席者35人 欠席者1人 議事録署名 佐藤　秀紀
	報告事項	1. 一般入学試験公募（後期）の合否について 2. センター入学試験（後期）の合否について 3. 国家試験の合否結果について 4. 在校生ガイダンス・新入生オリエンテーションについて 5. 新型コロナウイルスに関する各種状況について 6. 学長の選任について	

令和元（2019）年度 日本医療大学 保健医療学部 委員会活動報告

委員会・ 委員長名	キャリア学修支援センター センター長：保健医療学部リハビリテーション学科　教授　大堀具視
構 成 員	教　授：草薙美穂、藤長すが子、山田敦士 准教授：石橋晃仁　講師：杉本芳則、木村徹　助教：菅原美保　専門員：萬智恵美、遠藤晃祥、清水薫、山田里見、藤田智 事務局：青手木良光、小岩志保、山下未希

令和元（2019）年度　事業計画	実施内容・結果
センターの方針 ・令和元（2019）年度は国家試験対策、就職・進学対策、リメディアル教育を柱とする運営計画を作成し、本学キャリア教育のシステム構築を推進する。	・各学科の国家試験対策、就職・進学対策は伝統的にそれぞれ異なるため、実施内容は学科ごとに分けて記載する。 ・診療放射線学科は令和元（2019）年度10月より専門員が配置されキャリア学修センターの組織強化を図ることができた。 ・効率的な委員会を実施するため令和元（2019）年度10月よりスカイプを用いた委員会（恵み野キャンパス―真栄キャンパス）の実施を開始した。
3学科共通 ・リメディアル教育：入学生の学修状況の分析を進め、他部署との分掌・連携を含めた学修支援システム構築を図る。 ・令和元（2019）年度は診療放射線学科も完成年度を迎える。主体的に自らの専門的能力を伸ばし、かつ専門領域の発展にも寄与する人材養成のキャリアアップ支援策を検討する。	1年生 ・「自己診断テスト」の実施および分析を行った（4月） ・数学の補講を実施した（9－10月） ・リメディアル教育の現状調査を実施した（8－9月） ・入学前～初年次～専門接続の一体的運用体制について意見交換を行った（5－12月） ・診療放射線学科の完成年度に合わせて学科共通のキャリアアップ支援策については令和2（2020）年度継続検討事項とする。 ・令和6（2024）年度～令和7（2025）年度は私大協北海道支部幹事校になることが確定していることから、他大学のキャリア部門との連携、情報交換の必要性を鑑み、各種研修会に可能な限り参加することを運営委員会にて議決した。令和元（2019）年度予算には研修費は組み込まれていなかったため、予算外発議にて以下の研修会に参加した。 ①第24回就職指導実務担当者研修会（山田専門員） ②第123回就職指導研究協議会（萬専門員）
看護学科 ・国家試験対策：国家試験の合格率100%をめざし、低学年から4年生までの国家試験対策の方略、国家試験不合格者への支援方法を構築する。	4年生 ・ガイダンス「国家試験の概要」（4月）を実施した。 ・模擬試験を8回実施した。 ①<東京アカデミー>　必修100問（4月） ②<東京アカデミー>　240問（7月） ③<メディックメディア>　240問（10月） ④<東京アカデミー>　240問（11月） ⑤<メディックメディア>　240問（11月） ⑥<メディックメディア>　240問（12月） ⑦<メディックメディア>　240問（12月） ⑧<東京アカデミー>　240問（1月）

	・集中講義を10回実施した。 ガイダンス（４月） ①集中講義１・２・３・４（７月） ②集中講義５・６（10月） ③集中講義７・８（11月） ④集中講義９・10（12月） ・特別補講１．２．３（12月、１月）を実施した。 ・国家試験後のWeb採点・自己採点により状況把握、担任と連携し個別対応を実施した。 ・既卒学生への国家試験受験支援を実施した。 ３年生 ・模擬試験を２回実施した。 ①＜テコム＞　必修150問（９月） ②＜学研＞　　100問（２月） ２年生 ・模擬試験を２回実施した。 ①＜メディカ＞　解剖生理90問（10月） ②＜メディカ＞　病態生理90問（２月）
看護学科 ・就職・進学支援対策：100%の就職率をめざし、各学年に適したキャリアプラン講座を開催するとともに、学生参加率向上のための対策を行う。	４年生 ・進路希望調査を実施した（４月）。 ・就職活動ガイダンスを実施した（４月）。 ・キャリアプラン講座 「面接講座」を実施した（４月）。 ・進路及び活動状況の把握を行った（４月）。 ・キャリアプラン講座 「面接対策」を実施した（７月）。 ３年生 ・キャリアプラン講座「就活スタート２（自己分析・履歴書）」を実施した（７月）。 ・キャリアプラン講座「実習直前講座」を実施した（９月）。 ・進路希望調査を実施した（９月）。 ・キャリアプラン講座「履歴書２」を実施した（12月）。 ・キャリアプラン講座「在宅・慢性期講話」を実施した（１月）。 ・キャリアプラン講座「小論文対策」を実施した（１月）。 ２年生 ・キャリアプラン講座「基礎実習直前講座」を実施した（６月）。 ・進路希望調査を実施した（６月）。 ・キャリアプラン講座「在宅・慢性期講話」を実施した（１月）。 ・キャリアプラン講座「就活スタートUP（自己分析）」を実施した（１月）。 １年生 ・キャリアプラン講座「在宅・慢性期講話」を実施した（１月）。

リハビリテーション学科 ・昨年度、専門員配置と完成年度を迎え、国家試験対策の概略を構築した。これを基に、国家試験の合格率100%をめざし、時期に応じた４年生を対象とした国家試験対策と低学年の学修進達度テストに取り組む。適宜見直しながら改善を図る。	４年生 ・国家試験対策マニュアルを作成した（４月～８月）。 ・国家試験模試（キャリア学修支援センター編）を作成した（4月～8月）。 ・国家試験　対策教材を作成した（９月配布）。 ・国家試験対策教本（キャリア学修支援センター２編）を作成した（５月～７月）。 ・国家試験模試を約20回実施した。 ①キャリア学修支援センター作成（10月） ②キャリア学修支援センター作成（11月） ③医歯薬出版1回目（11月） ④キャリア学修支援センター作成（12月） ⑤医歯薬出版　２回目・３回目（１月） ⑥三輪書店（１月） ⑦キャリア学修支援センター作成（１月） ⑧キャリア学修支援センター作成（２月） ・国家試験学習（グループ・個別）の支援を行った（９月～２月）。 ・模擬試験結果を月末に保護者に送付した（10～２月）。 ・国家試験および自己採点、事後対応を行った（２月）。 ・令和２（2020）年度国家試験対策教材の作成を行う（３月開始）。 ・令和２（2020）年度国家試験模試（キャリア学修支援センター編）の作成を行う（３月開始）。 ・隔週で学科国家試験対策委員会と合同会議を実施した。 ２年生・３年生 ・学修進達度テストの実施と結果の保護者への送付を行った。 （年２回　８月（独自作成）、２月（業者３科目模試））
リハビリテーション学科 ・就職・進学対策：100%の就職率をめざし、就職支援を行う。キャリア教育は外部講師によって実施する。４年生にはキャリア修学支援センターと学担との連携による就職説明会（恵み野キャンパス）を実施する。約100施設参加予定。卒業生対象のアンケートも予定する。	４年生 ・就職支援業務の構築と調整を行った（４月～8月）。 ・令和元（2019）年度 就職ガイドブックを配布した（４月）。 ・国試対策マニュアル＆就職ハンドブック配布とオリエンテーションを実施した（９月）。 ・キャリア教育研修を実施した。 テーマ：キャリアデザイン（４月） テーマ：履歴書の書き方（10月） テーマ：面接対策（10月） 小論文対策として個別に対応した（随時） ・就職説明会（恵み野キャンパス）を実施した（10月）。 ・キャリア教育研修として、北海道理学・作業療法士会長による社会人教育、及び職能団体の説明会を実施した（２月）。 ３年生 ・キャリア教育研修を実施した。 テーマ：接遇（９月） ２年生 ・キャリア教育研修を実施した。 テーマ：自己分析、表現（12月） １年生 ・キャリア教育研修を実施した。 テーマ：初年次教育（４月） 卒業生を対象とした離職に関するアンケート調査（10月）

診療放射線学科 ・国家試験対策：国家試験の合格率100%をめざし、基礎問題および過去数年の過去問題の出題傾向にあわせた独自模擬試験を計画する。学内での自己学修を誘導する。放射線取扱主任者試験受験対策講座、８月試験向け各学年に対し受験対策講座を計画する。	４年生 ・模擬試験を実施した（４月～２月：内、業者CeFox模試２回）。 ３年生 ・模擬試験を実施した（２月）。 １年生から４年生 ・自己学修誘導を実施した：自ら学修する動機付け、雰囲気作り、時間確保、教室提供を担任が中心になり全教員で行った。 ・放射線取扱主任者（国家資格）試験受験対策講座を実施した：１年生から４年生までの受験希望者に、各学年の学力に合わせた受験対策講座を前期週１回実施した。
診療放射線学科 ・100%の就職率をめざし、就職・進学対策、キャリア教育研修を行う。社会人教育を行う。今年度から４年生を対象とした、就職・進路対策を実施する。３年生に対しては前年度同様、接遇マナー研修およびオスキー講習を計画する。	４年生 ・就職・進路対策を実施した。 就職ガイドブックを配布した（４月） 進路相談を実施した（希望者は随時） 履歴書の書き方、面接指導を実施した（随時） ３・４年生 ・接遇マナー研修を臨床実習前に実施した（６月）。 ・オスキー講習を実施した（６月）。 ２・３・４年生 ・臨床実習報告会を実施した：臨床実習における学生同士の情報共有および下学年に対する情報提供。プレゼンテーションのスキルアップを図った（10月）。
診療放射線学科 ・補習：基礎学力向上のため、大学のリメディアル教育との整合を取りながら補習講義を実施する。	１年生 ・補習講義実施を実施した。 数学、物理（通年）、情報科学（前期）

令和元（2019）年度　日本医療大学　保健医療学部　委員会活動報告

委員会・委員長名	教務委員会　委員長：保健医療学部リハビリテーション学科　教授　佐藤秀紀
構 成 員	教　授：吉野学科長、太田学科長、（西山）学科長、浅井、俵、岸上 講　師：杉本 事務局：（鶴田）、（楢崎）、遠藤、田中、北

令和元（2019）年度　事業計画	実施内容・結果
１．教育課程に関する事項	１．教育課程に関する事項 ①既修得単位の認定（該当学科） ②履修登録一覧の確認（各学科） ③前期・後期成績審議（各学科） ④保護者懇談会の教務事項 各学科の保護者懇談会の教務内容を検討した。（学科別報告） ⑤履修規程の見直し 履修規程の一部見直しと改正を実施 ⑥学則（教育課程の変更） ⑦実習施設変更承認申請（各学科） ⑧追実習の審査（看護学科） ⑨追試験の審査（各学科） ⑩「欠席届」の見直し ⑪「成績評価の問い合わせについて」の見直し ⑫新入生オリエンテーションの日程と内容決定 新入生オリエンテーション内容の見直しを行った。 ⑬在校生ガイダンスの日程と内容決定 在校生ガイダンス内容の見直しを行った。
２．定期試験及びその他の試験に関する事項	２．定期試験及びその他の試験に関する事項 ①試験実施要領の確認・見直し ②定期試験受験者一覧作成（学科別） ③定期試験時間割作成（学科別） ④待機担当教員調整（学科別） ⑤定期試験の科目のバランス調整（教員） ⑥試験監督者調整（学科別） ⑦試験監督者調整決定・追試・再試験監督案の作成（教員）
３．授業計画及び実施、授業担当者に関する事項	３．授業計画及び実施、授業担当者に関する事項 非常勤講師委嘱等の再確認し、発議を行った。 年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等の取りまとめを行った。

４．成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項	４．成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項 学生個々の出席・成績状況を教務委員会で最終確認し、教授会に報告した。進級及び卒業に関しては、進級及び卒業要件に沿い、教務委員会で最終確認し、教授会に報告した。
５．休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項	５．休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項 各学科における休学・退学、復学などは、規程に沿い、対応した。
６．教育施設及び教材に関する事項	６．教育施設及び教材に関する事項 ①令和２（2020）年度年間教材等全体予算 令和２（2020）年度年間教材等全体予算を計画した。 ②令和２（2020）年度年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等および予算 ③次年度の実習指導教員・非常勤講師等の委嘱・変更予算 ④次年度教育施設等全体予算 ②③④は各学科での予算となっているが、規定に沿っての委嘱の予算前の申請を目標とした。 ⑤次年度の初年度教育に関する教材・手引書作成 初年度教育の「学修ハンドブック」を準備し、配布して活用しているため、一部であるが見直し（誤字・脱字）を行った。
７．学生便覧、講義要綱に関する事項	７．学生便覧、講義要綱に関する事項 ①キャンパスハンドブックの見直しを実施した。 ②シラバスの見直しを実施した。 ③学年暦（各学科・学年別）を作成した。
その他教務に関する事項	その他教務に関する事項 ①認証評価実施調査に係わる面談学生の公欠について ②認証評価に係わる授業への学生満足度について ③オフィスアワーの調査（前期・後期）と学生周知を行った。 ④教務委員会事業計画（案）について

令和元（2019）年度　日本医療大学　保健医療学部　委員会活動報告

委員会・委員長名	カリキュラム委員会　委員長：保健医療学部看護学科（教授）吉野淳一
構 成 員	教　授：河原田泰尋、小山満子、佐藤秀紀、八田達夫、樋口健太、岸上博俊、山田敦士 准教授：西山徹 事務局：遠藤課長、荒木千尋、北宙恵

令和元（2019）年度　事業計画	実施内容・結果
1．教育課程（カリキュラム）の検討 1）令和元（2019）年度は、看護学科のカリキュラム改訂と文科省への変更申請が予定されている。 2）平成30（2018）年度に改訂したリハビリテーション学科のカリキュラムが実施に際して課題を残していないか確認していく。 3）診療放射線学科については、令和元（2019）年度で完成年度を迎えるため、次年度以降のカリキュラムの改訂の必要性について確認していく。	1．教育課程（カリキュラム）の検討 1）令和２（2020）年度看護学科カリキュラムの改訂内容についてカリキュラム委員会に適宜報告しながら文科省への申請を終え、大きな修正なく受理された。 2）リハビリテーション学科においては、すでに平成30（2018）年度においてカリキュラムを改訂しているが、若干の修正が必要となりカリキュラム委員会で報告がなされた。 3）診療放射線学科においては、令和２（2020）年３月にはじめての卒業生を送り出す（AC期間の終了）が、次年度の改訂は開講時期の調整レベルにとどまることが確認された。
2．学生、教員、卒業生の就職先からのカリキュラム評価に関するアンケート調査の継続的実施と検討	2．カリキュラム評価のアンケート調査については、看護学科において卒業見込みの学生と教員に向けた卒業時到達度を尋ねるアンケートを実施してきた。リハビリテーション学科は、令和元（2019）年３月に初の卒業時到達度アンケートを実施した。診療放射線学科も令和２（2020）年３月、初の卒業生に向けて卒業時到達度アンケートを実施する方向で学科内で検討することとした。
3．教育研修会の実施 カリキュラム評価の必要性と見込まれる効果についての教育講演を企画実施する。	3．FD委員会と協働し、北海道大学高等教育推進機構の山本堅一特任准教授にアセスメント・ポリシーに関する講演を依頼、８月26日に「カリキュラム評価とアセスメント・ポリシー策定方法について」と題した講演を行った。

令和元（2019）年度　日本医療大学　保健医療学部　学生委員会活動報告書

委員会・ 委員長名	自己点検評価委員会および認証評価検討委員会 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科　教授　乾公美
構 成 員	教　授：門間正子、西山篤、太田誠、佐藤秀紀、樋口健太、佐々木由紀子、山田敦士 事務局：青手木良光、千葉なな子

令和元（2019）年度　事業計画	実施内容・結果
1　大学機関別認証評価を受審する。 （担当：認証評価検討委員会）	○平成31（2019）年４月25日に「公益財団法人日本高等教育評価機構」が主催するセミナー「平成31年度大学・短期大学評価セミナー」に委員を派遣した。このことについて、令和元（2019）年５月８日に開かれた臨時・認証評価検討委員会内で研修報告があった。 ○大学機関別認証評価を受審するにあたり、５月９日に日本高等教育評価機構へ書面にて事前相談の申請を行った。 相談日：令和元（2019）年５月31日（金）13：00～15：00 場所：日本高等教育評価機構 主な相談内容： (1) 自己点検評価書、エビデンス集について ・資料編の電子データ化について (2) 実地調査の準備について ・視察ルート及び面談会場等について ・実地調査場所について (3) 評価員への対応等について ○５月31日本高等教育評価機構で事前相談を受ける。このことについて６月４日（水）臨時・認証評価検討委員会内で報告があった。 ○「自己点検評価書」の作成を以下のスケジュールで行った。 ・4/8～：集約原稿を一本化、文章の組み立て、エビデンスの収集 ・4/12：第２校の提出期限（各委員会対象） ・4/13～：不足原稿やエビデンスの集約・校正 ・5/13：臨時・認証評価検討委員会内で原稿の校正（ペアリング作業、朱書きを集約した原稿を5/15の委員会で配布） ・5/15：臨時・認証評価検討委員会内で原稿の校正 ・5/22：教授会で「自己点検評価書」の中間報告し問題点は学科長に提出（期限5/24） ・5/27：5/31の事前相談に向け整備 ・5/28：エビデンスの貼り付け ・5/29：臨時・認証評価検討委員会内で原稿の読み合わせ ・6/11：自己点検報告書内容を確認、評価委員に送信 ・6/13：評価報告書原稿校了、業者提出 ・6/20～24：資料帳合完了、エビデンス資料の印刷、送付部数のセット ・6/25：業者から「自己点検評価書」納品 ・6/27（18：00）：空輸にて機構へ送付 ・6/28（午前）：報告書必着

	○７月24日認証評価検討委員会内で、「自己点検評価書」に記載されている各委員会の「改善・向上方策（将来計画）」について、各委員会に対し検討内容を報告することを決定。 また、実地調査の面談担当者について、「自己点検評価書」の作成者に基づき各基準毎の割り当てを行った。 ○８月28日認証評価検討委員会内で、評価員の紹介が行われた。また面談配置図について、は事務局でたたき台を作成し、後日配信を行うこととした。 ○９月５日評価機構より「書面質問および依頼事項」の提出依頼があった（機構への提出期限9/19）。これに対し、９月６日に各位部署へ回答を依頼（学内提出期限9/13）。 ○９月11日認証評価検討委員会内で、「自己点検評価書『改善・向上方策』提出状況」、「『書面質問および依頼事項』提出状況」、「実地調査面談スケジュール・担当者の配置」について検討された。面談担当者については、各基準の責任者が９月17日（火）までに人選し、事務局へ報告することとなった。また学生面談の担当学生も合わせて人選を行うこととなった。実地調査のデモンストレーションを９月30日（月）午前中（10：00－11：00）で行うことを決定。対象者を面談の中心者とし、委員会終了後配信を行った。 ○９月19日（木）書面質問および依頼事項の提出。 ○９月25日（水）認証評価検討委員会内で、「事務局担当者の職階」「実地調査面談学生との顔合わせ」「実地調査面談担当者」について検討した。 ○９月27日（金）機構から実地調査用の資料提出依頼。 ○９月30日（月）面談中心者を集め実地調査のデモンストレーションを実施。終了後、面談担当者にはグランドデザインを配信。 ○10月４日（木）機構より実地調査時に確認したい資料の追加連絡。事務局にて集約。 ○10月４日（金）会場の設営。 ○10月７日（月）機構担当者との事前打ち合わせ。 ○10月８日（火）～10月９日（水）認証評価実地調査。 ＊２日目は14：30終了、追加面談無し。 ○10月15日（火）機構へ最終データ送付（CD-ROM）。 ○10月23日（水）「自己点検評価書」最終報告書を提出。 ○12月９日（月）機構より評価チーム評価報告書案を受理。評価基準に適合していると認定された。（意見申立て期限12/20）。 ○12月11日（水）認証評価検討委員会内で「評価チーム放火報告書案及び意見申立てへの回答」について検討し、意見無しと報告することで承認された。 ○令和２（2020）年２月３日（月）機構から大学へ最終の評価報告書案を受理（意見申立て期限2/13）。前回と同様の内容であるため「意見無し」として提出。
２　日本医療大学年報第4号の発行 （担当：自己点検・評価委員会）	○自己点検評価委員会報告書の形態に沿って作成した。 ○令和元（2019）年度12月に発行した。
３．教員の自己点検・評価制度の運用 （担当：自己点検・評価委員会）	○平成30（2018）年度の結果を公表する。 ○令和元（2019）年度の運用を進める。

令和元（2019）年度　日本医療大学　保健医療学部　学生委員会活動報告書

委員会・委員長名	学生委員会　委員長：林美枝子教授
構 成 員	教　授：樋口健太　大堀具視　　准教授：向井康詞　滋野和恵　石橋晃仁 講　師：大村郁子　小山和也　杉本芳則　事務局:銭元隆行参事　田中慎之介

令和元（2019）年度　運営計画	活　動　報　告
学生委員会の通常業務（学生委員会活動の説明とキャンパスの環境整備と学生生活の情報提供、情報発信、学内交流事業、学生のメンタル・ヘルスの保全、学生の学外活動への支援）	・学生委員会を毎月第２水曜日、教授会後に12回開催、１月のみ第４水曜日に開催した。 ・新入生オリエンテーション、オープンキャンパス、保護者会等での本学学生生活の説明や広報活動の実施 ・環境整備と学生の居場所作り（自由文庫の管理、イス・テーブル等の設置改善） ・ニュースレター「あずまし」の発刊（22号～24号） ・「学生委員会からのお知らせ」３回発行、配布 ・学生相談室の運営と学生への広報、「学生相談室だより」４回発行、配布 ・日ごろの生活指導、および長期休暇前の過ごし方に関する注意喚起、学生の犯罪の被害や加害、事故等への対応 ・第６回学生アンケートの実施と報告書のIR室への提出 ・学長よりSNSの利用に関するガイダンス案の作成を求められ、「日本医療大学SNSに関するガイドライン」（案を）作成。来年度初めにはこれを簡易印刷して学生に配布することとなる。 ・学内団体や学生のグループがSNSで日本医療大学を冠したサイトやハッシュタグを使用する場合のルールを作成し、令和２（2020）年のCAMPUS HAND BOOKに掲載する。
学生委員会主催事業（学生の生活指導や人間力の向上）	令和元（2019）年 啓発セミナー（今年20歳になる学生のための年金セミナー） 新さっぽろ年金保険事務所 ６月19日　真栄キャンパス　　２人参加 ６月10日　恵み野キャンパス　45人参加 安心・安全週間 ・警察が教える護身術講座実施 ６月19日　真栄キャンパス　　10人参加 ５月29日　恵み野キャンパス　68人参加 ・デートDVの講演会　林美枝子教授 ６月７日　診療放射線学科　20人参加 看護学科　　127人参加 ６月11日　リハビリテーション学科　60人参加 12月６日　第６回「いのちのパネル展」 真栄キャンパス　10月４日～11日 恵み野キャンパス　10月11日～18日 12月10日　第６回講演会「命」 講　　師　医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院総長　前野宏氏 タイトル　「ホスピスのこころー医療者として、人としてー」 真栄キャンパス　　120人参加 恵み野キャンパス　73人参加 令和２（2020）年 １月　学生委員会セミナー「金融セミナー」 日程が合わず今年度は中止となった。 ３月に実施してきたスタディバスツアー 例年春期休暇中と言うことで学生の応募が少なく今年度から中止とした。

学友会支援事業	・学友会主催定期行事への支援 今年度過去の会計の監査を実施し、問題点を洗い出す。そのため４月の定期総会で決定していた決算、予算の決議に修正が発生した。９月末に臨時総会を開催し、修正動議を話し合い、修正案を可決する。あわせて各学内団体の決算に関しても提出書類の不備等を総点検し、再提出を求めた。 年間実施事業 平成31（2019）年 ４月20日（土） 新入生歓迎会・定期総会 令和元（2019）年 ６月６日（水） 第５回体育大会　参加学生280人 北海道立総合体育センター（北海きたえーる） メインアリーナで６競技 ９月７日　第24回アンデルセン・グルメ祭りでキッズワールドを開催 10月４日（金）～５日（土） 第６回日医祭 模擬店13店　後援会の保護者による模擬店も参加 おわらいLiveを実施　180人参加
学内団体関連	令和２（2020）年 ２月13日　会長承認・臨時総会 第７代　学友会会長決定 リハビリテーション学科１年　逢見潤平さん ３月13日（金） 第３回卒業を祝う会（パークホテル）はコロナウィルス関連で中止となる ３月末　各学内団体の活動報告書の回収 ・学内団体設置申請受付７月末、１月末審査、設置認可 ７月申請で１団体を認可　令和２（2020）年１月の申請はなかった。 ・各学内団体の活動報告の確認・監査 ・学内団体備品の整備 ・各学内団体における大学名を冠したサイトやSNSの運営・管理に関する情報の収集を実施
学生の賞罰に関する事項	・顕彰学生の選抜と平成31（2019）年４月20日の顕彰状授与式の挙行 45名
奨学金に関する事項	・年間を通しての社会貢献枠で１団体が受賞 来年度からの副賞の在り方の改善に関する議論を行い、各学科の意見を受けて審議をした結果、来年度は人数・選抜方法は例年通りとし、副賞を３万円（図書券）とすることを決定した。また各学科の意見を受けて来年度はさらに改善の議論を行い、覚書の改正案を作成することとした。 ・年間を通しての各種奨学金の募集情報の提供と対象学生の選抜をしていたが、今年度は応募がなく、実施しなかった。
国際交流、海外研修に関する事項	・ユニセフ協会の募金活動を日医祭で実施

令和元（2019）年度　日本医療大学　保健医療学部　委員会活動報告

委員会・委員長名	入学者選抜委員会　委員長：保健医療学部看護学科　教授　吉野淳一
構 成 員	教　授：高橋美和、松本真由美、太田　誠、佐藤秀紀、大堀具視、西山　篤、俵　紀行 講　師：木村　徹 事務局：本庄勝巳、山田武俊、伊藤拓海

令和元（2019）年度　事業計画	実施内容・結果
１．令和２（2020）年度入学試験の実施	１．令和２（2020）年度入学試験の実施 ・予定通り、AO入試前期、推薦入試（指定校、公募前期、公募後期）、一般入試（前期、後期）、大学入試センター利用入試（前期、中期、後期）を実施した。 ・大学入試センター利用入試を除く各入試において「実施要領」、「学科試験監督要領」「面接試験実施要領」を作成し、説明会を開催し周知した。 ・大学入試センター試験実施にあたり当番校である北星学園大学と連携し実施した。 ・推薦入試、一般入試（前期）において，体調不良者が出たが試験は無事に受けることができた。 ・一般入試（前期）においてはじめて函館に試験会場を設置し11人が受験した。
２．令和２（2020）年度入学試験合格者案の作成	２．令和２（2020）年度各入学試験の合格者案作成について ・以下の通り合格者案を作成し入試委員会に上程した。 AO入試：看護学科 37人受験　22人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 32人受験　32人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 ７人受験　７人合格 診療放射線学科 15人受験　10人合格 推薦入試（指定校）： 看護学科 ６人受験　６人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 16人受験　16人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 ４人受験　４人合格 診療放射線学科 ０人受験　０人合格 推薦入試（前）： 看護学科 32人受験　26人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 ９人受験　９人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 １人受験　１人合格 診療放射線学科 22人受験　15人合格

推薦入試（後）：
看護学科
21人受験　14人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻
9人受験　9人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻
0人受験　0人合格
診療放射線学科
9人受験　5人合格

一般入試（前）：
看護学科
213人受験　88人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻
30人受験　30人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻
5人受験　3人合格
診療放射線学科
73人受験　46人合格

一般入試（後）：
看護学科
36人受験　4人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻
4人受験　1人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻
10人受験　0人合格
診療放射線学科
9人受験　3人合格

大学入試センター試験利用入試（前）：
看護学科
230人受験　28人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻
59人受験　42人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻
18人受験　13人合格
診療放射線学科
100人受験　17人合格

大学入試センター試験利用入試（中）：
看護学科
11人受験　1人合格
リハビリテーション学科理学療法学専攻
9人受験　4人合格
リハビリテーション学科作業療法学専攻
18人受験　13人合格
診療放射線学科
10人受験　4人合格

	大学入試センター試験利用入試（後）： 看護学科 14人受験　２人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 １人受験　０人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 ０人受験　０人合格 診療放射線学科 ５人受験　１人合格
３．入学前学習課題の実施	３．入学前学習課題の実施 ・AO入試および推薦入試（指定校、前期、後期）合格者に対し実施した。 ・学科共通の課題に加え、各学科の課題を課し実施した

令和元（2019）年度　日本医療大学　保健医療学部　人権擁護委員会活動報告書

委員会・委員長名	人権擁護委員会　委員長：保健医療学部看護学科　教授　林美枝子
構 成 員	島本診療放射線学科長代理　太田リハビリテーション学科長　吉野看護学科長 西山診療放射線学科長　渡邊教授　高儀准教授　西山（徹）准教授　及川准教授 楢﨑事務局長（９月まで）　青手木事務局長（10月から）　大川日本医療大学顧問弁護士

令和元（2019）年度　運営計画	具体的な実施内容
関連規程の改定に関する話し合い	・人権擁護委員会規定の調査委員会の設置に関する事項について前年度から今年度の経験を踏まえ、今後の協議課題とする。
人権侵害の申立てが発生した場合の対応	・前年度に学内で発生した人権侵害１件に対して、設置された調査委員会の支援を行った。
被申立人あるいは申立人からの不服申立てがあった場合の対応	・再調査の申立てがあった場合の調査委員会の設置と調査の支援を行うが、本年のすべての案件には被申立人からも、申立人からも再審理の申立てはなかった。 ・試験の合否、成績に関する申立てが前期試験１件、後期試験で１件発生し、迅速に対応してすべて解決済みとなる。
人権侵害を防止するための啓発事業の実施と情報提供	・学生委員会やハラスメント防止委員会等との連携による、人権侵害を防止する啓発事業を本年度は、教職員のハラスメント相談員を対象に２回実施した。 ・平成28（2016）年４月からの「障害者差別解消法」の施行により、身体障害や発達障害等の学生が、キャンパス内で平等に学ぶための配慮が努力義務として大学に課せられるようになったが、具体的で合理的な配慮のあり方の資料を集め、学内での研究に参加、学生支援機構が開催する東京での説明会に参加、先取的取組をしている他大学の支援室の視察を行った。 ・ヘイトスピーチや人権を侵害するようなSNSの発信に関する注意喚起を学生委員会のSNSの利用に関するガイドラインに盛り込んでもらい、同じくハラスメント防止委員会が作成したハラスメント防止に関するガイドラインの中に人権擁護に関するハラスメントをその他のハラスメントとして定義してもらい、ダイバーシティ・マネジメントに則った人権擁護の視点を全学で共有化できるように努めた。 ・北海道および札幌市、恵庭市に設置されている犯罪被害者支援委員会、あるいは人権擁護委員会等が発信する情報を適宜把握し、犯罪被害やデートDV等に悩む学生に対して、適切な支援情報のパンフレットやポスターによる提供に努めた。 ・学内に置かれている人権擁護のための啓発用各種パンフレット類を、常に最新のものに更新した。

令和元（2019）年度　日本医療大学　保健医療学部　委員会活動報告

委員会・委員長名	FD委員会　委員長：保健医療学部診療放射線学科　教授　樋口健太
構 成 員	教　授：河原田泰尋、大堀具視、森口眞衣 准教授：滋野和恵、向井康詞、西山徹 講　師：福島眞里　　助教：白石祐太 事務局：澤口敏明参事、千葉なな子

令和元（2019）年度　事業計画	実施内容・結果
1. 教員研修会の実施	令和元（2019）年８月26日（月）10時～11時30分に「教育の質保証と教員一人一人がすべきこと」に関わる研修会、同日14時45分～16時に「認知症サポーター養成講座」を行った。アンケート調査の結果５段階評価中、「研修内容：4.44」「研修時期：4.13」「研修場所：4.13」「研修所要時間：3.98」の評価を受けた。
2. 学生による授業評価アンケートの実施	前期授業評価アンケートは、基本的に４月～７月に実施された科目の最終講義に実施したが、診療放射線学科３年生については臨床実習の関係で９月に実施し､その後に業者に集計を依頼した。後期授業評価アンケートは、11月から２月に実施した。
3. フィードバックの実施	学生に対して、前期授業評価アンケートの集計結果およびフィードバックコメントは、システム導入における都合上、後期アンケートとまとめて実施となった。後期分については業者集計後、フィードバックコメントを教員から回収し、４月から５月目処に図書館等に掲示行う。
4. 授業方法の開発等	令和元（2019）年６月18日に開催された「令和元年度FD・SD協議会総会」に樋口委員長が出席した。令和２（2020）年２月13日に開催された「2020北海道FDSDフォーラム実行委員会」に、FD委員会から樋口委員長が出席をした。 また、その資料を持ち帰り委員会のメンバーに紹介等を行った。 ベストティーチャー賞などの表彰企画や併せて模擬授業の開催は実施ができなかったため次年度の課題とする。 カリキュラム検討委員会やキャリア学習支援センターとの連携、他大学との意見交流や視察によるFD委員会の活性化について検討を行った。

令和元（2019）年度　日本医療大学　保健医療学部　ハラスメント防止委員会活動報告書

委員会・委員長名	日本医療大学ハラスメント防止委員会　看護学科　林美枝子
構 成 員	島本診療放射学科長代理　太田リハビリテーション学科長　吉野看護学科長 青手木事務局長　小岩係長

令和元（2019）年度　運営計画	具体的な実施内容
1　ハラスメントの排除及び防止に係る指導及び改善に関すること	1－1　日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程に定められている通り、ハラスメントの排除及び防止に関する啓発のため、学生に配布されるCAMPUS HAND BOOKの関連部分の修正・加筆を行った。規定は教職員用でもあるため、学生に向けた文言に修正した。 1－2　厚生労働省、文科省、学生支援機構等が発信するハラスメントに関する最新の情報に関する拡材を受理し、学内に掲示した。 1－3　学長の諮問受け「日本医療大学ハラスメント防止等に関するガイドライン」案を作成し提出。教授会、各学科よりの意見をもとに最終案をとりまとめた。
2　ハラスメントの排除及び防止のための啓発活動及び研修に関すること	2－1　ハラスメント相談員を招集し、その役割、相談業務の流れ、ガイドラインの内容を確認するためのガイダンスを今年度は以下の日程で実施した。 真栄キャンパス　　9月24日（火）　講義室201 参加者　26人 恵み野キャンパス　9月26日（木）　基礎医学演習室 参加者　21人 2－2　相談員以外の教職員向けのハラスメント関連の研修を実施することができなかったため、次年度の課題とする。
3　苦情の申立てに関する事実関係の調査、審議等に関すること	3－1　今年度は、ハラスメント防止委員会への苦情申立てはなかった。調査小委員会も設置されなかった。 3－2　ガイドラインに沿って全ハラスメント相談員に、今年度の相談の有無やもしあったならなぜ申し立てに至らなかったかの書類の提出を依頼した。
4　総括と報告	4－1　申し立てはなかったため、年度末に委員会委員、ハラスメント相談員を招集し、その年度に生じた報告・苦情申し立ての件数や内容、事実認定の有無や提出した処分案に関する情報の共有化は実施する必要がなかった。 4－2　年度末に報告書をIR室に提出した。

2019年度　日本医療大学　保健医療学部　委員会活動報告

委員会・委員長名	入試委員会　委員長：学長　島本　和明
構　成　員	委員：（教授）吉野淳一、太田誠、西山　篤、住吉　孝、林美枝子、大堀具視 （学生募集対策委員会委員長）対馬徳昭、（事務局長）青手木良光 事務局：本庄勝巳、山田武俊

2019年度　事業計画	実施内容・結果
1．2020年度入学試験の合否判定	1-1　入学試験の合否判定 入学者選抜委員会から上程された合格者案について協議し、以下の通り合格者を決定した。 【AO入試】 看護学科：37人受験　22人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：32人受験　32人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：7人受験　7人合格 診療放射線学科：15人受験　10人合格 3学科合計：91人受験、71人合格 【推薦入試（指定校）】 看護学科：6人受験　6人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：16人受験　16人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：4人受験　4人合格 診療放射線学科：0人受験　0人合格 3学科合計：26人受験、26人合格 【推薦入試(前期)】 看護学科：32人受験　26人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：9人受験　9人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：1人受験　1人合格 診療放射線学科：22人受験　15人合格 3学科合計：64人受験、51人合格 【推薦入試(後期)】 看護学科：21人受験　14人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：9人受験　9人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：0人受験　0人合格 診療放射線学科：9人受験　5人合格 3学科合計：39人受験、28人合格

【一般入試(前期)】

看護学科：213 人受験　88 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：30 人受験　30 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：5 人受験　3 人合格

診療放射線学科：73 人受験　46 人合格

3 学科合計：321 人受験、167 人合格

【一般入試(後期)】

看護学科：36 人受験　4 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：4 人受験　0 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：0 人受験　0 人合格

診療放射線学科：9 人受験　3 人合格

3 学科合計：49 人受験、7 人合格

【大学入試センター試験利用入試(前期)】

看護学科：230 人受験　28 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：59 人受験　42 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：18 人受験　13 人合格

診療放射線学科：100 人受験　17 人合格

3 学科合計：407 人受験、100 人合格

【大学入試センター試験利用入試(中期)】

看護学科：11 人受験　1 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：9 人受験　4 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：0 人受験　0 人合格

診療放射線学科：10 人受験　4 人合格

3 学科合計：30 人受験、9 人合格

【大学入試センター試験利用入試(後期)】

看護学科：14 人受験　2 人合格

リハビリテーション学科理学療法学専攻：1 人受験　0 人合格

リハビリテーション学科作業療法学専攻：0 人受験　0 人合格

診療放射線学科：5 人受験　1 人合格

3 学科合計：20 人受験、3 人合格

令和元年度　図書・学術振興委員会活動報告書

委員長	住吉　孝
構成員	教　授：浅井 さおり、草薙 美穂、岸上 博俊、河原田 泰尋 准教授：矢口 智恵 講　師：小山 和也 事務局：杉原 章仁、栗本 瑞恵、藤ノ木 良子
令和元年度　事業計画	1. 令和元年度図書の購入・受入 2. 第６回保健医療学部研究発表会の開催 3. 紀要第６巻の発刊
実施内容と結果	1-1.　令和元年度看護学科図書の購入・受入状況 ※冊、またはタイトル総数 () はうち寄贈 和書 156 (55)、洋書 0 (0)、視聴覚 22 (17)、 電子和書 1 (1)、和雑誌 43 (1)、洋雑誌 7 (0) 1-2.　令和元年度リハビリテーション学科 図書の購入・受入状況 和書 93 (66)、洋書 0 (0)、視聴覚 7 (7)、 和雑誌 34 (4)、洋雑誌 10 (0) 1-3. 令和元年度診療放射線学科図書購入・受入状況 和書 312 (39)、洋書 11 (11)、視聴覚 0 (0)、 電子和書 5 (0)、和雑誌 10 (2)、洋雑誌 5 (1) 2. ガイダンス内容の見直し 今まで文献検索に関するガイダンスを未実施であった診療放射線学科に実施した。 3. 本学紀要の抄録および本文の提供を開始 医中誌 Web, メディカルオンラインにて本学紀要全巻の抄録と本文の閲覧とダウンロードが可能となった。 4. 第６回保健医療学部研究報告会 ※新型肺炎の影響により３月末日開催を中止し、報告要旨集を各教員に配布。 報告者：看護学科(8 件)、リハビリテーション学科(4 件)、 診療放射線学科(8 件)、認知症研究所(1 件)

	5. 紀要第６巻を発刊 原著論文（10 篇）、研究報告（6 篇）、事例報告（0 篇）、 資料（1 篇）、短報（0 篇）　令和 2 年 3 月 31 日発刊
次年度への課題等	・蔵書点検、雑誌製本 ・学術機関リポジトリの構築準備 ・ILL 料金相殺サービスへの参加 ・新学部・学科設置のための新規図書受入 ・キャンパス移転のための図書館移転準備 ・不明図書の除却、資産整理 ・寄贈図書の受入

令和元年度　研究費審査委員会活動報告書

委員長	島本　和明
構成員	教　授：髙橋 美和・岡田 洋子・大堀 具視・住吉 孝・ 倭 紀行 准教授：矢口 智恵 事務局：杉原 章仁・松岡 裕子
令和元年度　事業計画	1. 令和元年度学術助成費、教育向上研究費の配当額の算定 2. 令和元年度研究費の公募・申請・執行 3. 令和元年度研究活動報告
実施内容と結果	1. 令和元年度学術助成費、教育向上研究費の配当額の算定 公募要領に従った計画調書により審査され交付額を決定 2. 令和元年度研究費申請状況 (1) 看護学科 学術助成費（3 件）、教育向上研究費（5 件） 代表・共同研究者総数（19 名） (2) リハビリテーション学科 学術助成費（4 件）、教育向上研究費（0 件） 代表・共同研究者総数（5 名） (3) 診療放射線学科 学術助成費（4 件）、教育向上研究費（4 件） 代表・共同研究者総数（19 名） (4) 認知症研究所 学術助成費（1 件）、教育向上研究費（0 件） 代表・共同研究者総数（2 名） 2. 令和元年度研究活動報告 第 6 回保健医療学部研究報告会 ※新型肺炎の影響により３月末日開催予定であった報告会を中止とし、報告要旨集を全教員に配布した。 報告数：看護学科(8 件)、リハビリテーション学科(4 件)、 診療放射線学科(8 件)、認知症研究所(1 件)
次年度への課題等	次年度以降も引き続き公募及び配分方法を検討していく。

10. 教員の自己点検・評価

10－１．教員の教育・研究・社会活動

10－１－①　総長・学長・参事

氏名　島本　和明　　職階　総長、教授

専門分野：高血圧、生活習慣病、メタボリックシンドローム

教育活動：

責任科目：総合医療論（１年次、１単位、15時間）、形態機能学Ⅱ（１年次、１単位、30時間）、形態機能学Ⅳ（１年次、１単位、30時間）、疾病論Ⅰ（２年次、１時間、30時間）、保健医療論（２年次、１単位、15時間）、内科学（２年次、１単位、30時間）

担当科目：総合医療論（15時間）、形態機能学Ⅱ（60時間）、形態機能学Ⅳ（30時間）、疾病論Ⅰ（30時間）、保健医療論（15時間）、内科学（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：運営会議、教授会、入学試験委員会（委員長）、研究費審査委員会（委員長）、教員選考委員会（委員長）、国際交流委員会（委員長）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、国際高血圧学会、日本循環器学会、日本老年医学会、日本循環器病予防学会、日本心臓病学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本高血圧協会（理事長）、社会福祉法人　恩賜財団済生会　北海道済生会支部（会長）、日本老年医学会（理事）、札幌産学官医療連携協議会（座長）、北海道心臓協会（副理事長）、公益財団法人伊藤医薬学術交流財団（副理事長）、日本臨床研究フォーラム　J-ARF（副理事長）、公益財産法人先進医薬研究振興財団（理事）、一般財団法人つしま医療福祉研究財団（理事）、一般財団法人　つくし奨学・研究基金（評議員）、公益財団法人　かなえ医療振興財団（評議員）、一般財団法人禎心会記念財団（評議員）、一般財団法人代謝異常治療研究基金（評議員）、国土交通省　社会資本整備審議会（専門委員）、士別市健康づくりアドバイザー

顕彰：なし

氏名　銭本　隆行　　職階　参事

専門分野：高齢者福祉、地域福祉、障害者福祉、国際比較福祉、社会保障

教育活動：

責任科目：保険医療福祉行政論（２年次、１単位、15時間）、看護関係法規（３年次、１単位、15時間）

担当科目：保険医療福祉行政論（15時間）、看護関係法規（15時間）

非常勤講師：北星学園大学（国際比較福祉論６時間、海外の福祉制度４時間）

学内委員会・学科内業務等：認知症研究所研究員

学術活動：

所属学会・研究会等：日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、日本認知症ケア学会、北海道地域福祉学会、北海道社会福祉学会、社会政策学会

科学研究費（研究資金）の取得:科学研究費基盤研究（C）「ハラスメント問題に対応するソーシャルワーカー養成のための集学的研究」研究分担者（平成30（2018）年度～令和２（2020）年度）

学術助成費（研究資金）の取得：「地域における高齢者主体の活動の推進要素に関する研究～日本の高齢者，専門職，行政の関わりに着目して～」（令和元年度、高橋光彦教授と共同）

社会活動：

顕彰：

10－１－②　看護学科教員

氏名　吉野　淳一　　職階　教授

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：精神看護学概論（２年次、２単位、30時間）

基礎看護学（２年次、１単位、15時間）

担当科目:精神看護援助論（３年次、１単位、30時間）、精神看護学実習（３年次、２単位、90時間）、看護研究演習（４年次、２単位、60時間）

非常勤講師：札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科（人間関係論）

学内委員会･学科内業務等:カリキュラム委員会（委員長）、教務委員会、国際交流委員会･カリキュラム検討会（とりまとめ）、学生担当教員（２年主担任）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本集団精神療法学会、日本家族療法学会、日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本トランスパーソナル心理学／精神医学会、北海道社会福祉学会、北海道公衆衛生学会・北海道集団精神療法研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本家族療法学会（代議員）、日本精神保健看護学会（代議員）、北海道家庭生活総合カウンセリングセンター（理事）、NPO法人きなはれ（理事）

顕彰：

氏名　門間　正子　　職階　教授

専門分野：成人看護学、クリティカルケア看護学

教育活動：

責任科目：成人看護学概論（２年前期２単位30時間）、成人看護援助論Ⅱ（３年前期、２単位30時間）、成人看護援助論Ⅲ（３年前期、２単位30時間）、健康教育論（３年前期、１単位15時間）、成人看護学実習Ⅰ（３年後期、４単位180時間）、基礎看護学（診療放射線学科２年前期、１単位、15時間）

担当科目：看護を知る（15時間）、成人看護援助論Ⅰ（12時間）、成人看護学特論（16時間）、看護ゼミナールⅡ（30時間）、看護研究（２時間）、看護研究演習（30時間）、チーム医療（リハビリテーション学科、２時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、自己点検評価委員会、認証評価検討委員会、国際交流院会、学生懲戒委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本救急看護学会、日本クリティカルケア看護学会（評議員、査読委員）、日本看護学教育学会、日本手術看護学会、日本看護歴史学会、札幌医科大学クリティカルケア看護研究会（評議員、専任査読委員）、日本看護系大学協議会社員、日本私立看護系大学協会社員（理事、学校教育委員）、日本音楽療法学会、北日本看護学会、日本災害看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（研究分担者）「医療過疎地域に隣接する地方中核病院の救急看護師に対する広域連駅支援モデルの検討」（研究代表者：北海道医療大学　神田直樹）

社会活動：札幌山の上病院看護部研修において同病院看護師の研究指導

北海道整形外科記念病院看護部研修において同病院看護師の研究指導

令和元年度保健師助産師看護師実習指導者習会において講義（看護教育課程－成人看護学３時間）

顕彰：なし

名前　林　美枝子　　職階　教授

専門分野：医療人類学、介護人類学、社会医学

教育活動：

責任科目：看護学科　文化人類学（１年後期　１単位　15時間）、北海道史（１年前期　１単位　15時間）、家族論（２年前期　１単位　15時間）、リハビリテーション学科　文化人類学（１年後期　１単位　15時間）、社会学（１年後期　１単位　15時間）、北海道史（１年前期　１単位　15時間）　診療放射線学科　文化人類学（１年後期　１単位15時間）、社会学（１年前期　１単位　15時間）　北海道史（１年前期　１単位　15時間）

担当科目：看護研究演習（４年通年２単位60時間）看護を知る（１年前期１単位　15時間）看護

非常勤講師：札幌国際大学（地域社会と健康）

学内委員会・学科内業務等：教授会、学生委員会（委員長）、入学試験委員会、学友会（運営顧問）、人権擁護委員会（委員長）、認知症研究所研究員、日本医療大学学友会（運営顧問）、ボランティアサークル（顧問）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本文化人類学会、日本民俗学会、日本公衆衛生学会、日本介護福祉学会、日本認知症ケア学会、日本フォレンジック看護学会、北海道民族学会、日本死と臨床研究会、

日本母性衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得:基盤研究（C）（一般）（平成29（2017）年～令和元（2019）年）

「在宅看取り介護の初期段階における困難性とその原因の分析」研究代表者

社会活動：

講演・講座

・講演　職員研修「看取りの死生観と支援」平成30（2018）年５月11日　渓仁会本部

・特別講演　北海道看護教員養成講座「病いと癒し」令和２（2020）年２月６日　看護協会

・社会福祉法人ノテ福祉会「専門職に必要な死生観」令和元（2019）年６月25日

・田中メディカルグループ札幌大学寄付講座「死の受容」令和元（2019）年10月２日

「看取りねっとの挑戦」令和２（2020）年１月14日

・帯広市「緊急課題　超高齢化をどう乗り切るか」令和元（2019）年９月20日

・釧路市女性団体連絡協議会「地域づくりと女性の役割～共生社会からの期待と課題～」令和元（2019）年10月17日

・未来のニセコを拓く会「ジェンダー・イクウォーリティについての国際的動き」令和元（2019）年11月17日

・北海道政策局計画推進課「SDGs×北海道　交流セミナー2020」トークセッション　パネラー

・北海道看護協会北海道看護教員養成講座　「病と癒し」令和２（2020）年２月７日

・認知症サポーター養成講座　日本医療大学、札幌国際大学、札幌大谷大学

社会貢献活動

・公益財団法人市町村振興協会　評議員

・一般財団法人道民活動振興センター　評議員

・北海道民族学会　運営委員、学会誌編集委員

・北海道史編さん委員会　専門委員

・北海道社会功労賞　推薦委員

・北海道文化審議会　委員

・株式会社マックスバリュ北海道　社外取締役

・公益財団法人北海道女性協会　理事

・北海道生産性本部　理事

・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会　評議員

顕彰：なし

氏名　小山　満子　　職階　教授

専門分野：母性看護学、助産学、看護教育学

教育活動：

専任科目：「看護を知る」（１年次前期開講、１単位、15時間）

「母性看護学概論」（２年次後期開講、２単位、30時間）

「母性看護学実習」（４年次前期開講、２単位、90時間）
「看護ゼミナールⅢ」（３年次通年開講、１単位、30時間）
「看護ゼミナールⅣ」（４年次通年開講、１単位、30時間）
「看護研究演習」（４年次通年開講、２単位、90時間）

担当科目：「看護を知る」（１年次前期開講、１単位、15時間）、「母性看護学概論」（２年次後期開講、２単位、30時間）、「母性看護学実習」（４年次前期開講、２単位、90時間）、「看護ゼミナールⅢ」（３年次通年開講、１単位、30時間）、「看護ゼミナールⅣ」（４年次通年開講、１単位、30時間）、「看護研究演習」（４年次通年開講、２単位、90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

〈学内委員会〉

教授会、研究倫理審査委員会（委員）

カリキュラム委員会（委員）、教員選考委員会（委員）

〈学科内業務等〉

１学年Ａクラス学担（主担任）

カリキュラム検討会、実習施設の継続活動、実習施設新規開拓の活動業務

学術活動：

日本母性衛生学会、日本助産師学会、日本看護学教育学会、日本フォレンジック看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、北海道母性衛生学会、北海道思春期学会等

科学研究費（研究資金）等の取得：なし

社会的活動：

日本看護教育協議会会員、北海道看護教育協議会委員

氏名　佐々木　由紀子　　職階　教授

専門分野：成人看護学（急性期・慢性期）、がん看護学、看護管理学

教育活動：

責任科目：成人看護学特論（２年次後期、１単位、30時間）、成人看護学実習Ⅱ（４年次前期、２単位、90時間）、チーム医療（２年次後期、１単位、15時間）、看護ゼミナールⅠ（２年次通年、１単位、30時間）

担当科目：成人看護学概論（２年次、前期、２単位、30時間）、成人看護援助論Ⅰ（２年次後期、１単位、30時間）、成人看護学実習Ⅱ（４年次、前期、２単位、90時間）、成人看護援助論Ⅱ（３年次、前期、16時間）、成人看護援助論Ⅲ（３年次、前期、16時間）、看護研究（３年次、通年、１単位、30時間）、成人看護学実習Ⅰ（３年次、後期、４単位、180時間）、看護研究演習（４年次、通年、１単位、30時間）看護ゼミナールⅢ（３年次、通年、1単位、30時間）、看護研究演習（４年次、通年、２単位、60時間）、看護を知る（１年前期、１単位、15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会･学科内業務等:教授会、自己点検評価委員会、認定評価検討委員会、実習検討会（リーダー）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護協会、北海道看護協会、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本環境感染学会、日本看護教育学会、日本看護研究学会、日本看護歴史学会、老年看護学会、日本音楽療法学会、医療事故・紛争対応研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本医療大学生涯学習講座（４月27日）

顕彰：日本看護協会協会長賞受賞

氏名　松本　真由美　　職階　教授

専門分野：精神保健学　発達心理学　社会福祉学

教育活動：

責任科目：心理学（看護学科１年次･診療放射線学科１年次、１単位、15時間）、人間関係論（看護学科１年次、診療放射線学科１年次、１単位、15時間）、発達心理学（看護学科１年次、１単位、15時間）、臨床心理学（看護学科２年次、１単位、15時間）、臨床心理学（診療放射線学科２年次、１単位、15時間）、カウンセリング論（看護学科３年次、１単位、15時間）、心理学（リハビリテーション学科１年次、１単位、15時間）、発達心理学（リハビリテーション学科１年次、１単位、15時間）、看護を知る（看護学科１年次、１単位、15時間）、看護研究演習（看護学科４年次、２単位、60時間）

担当科目:心理学（30時間）、人間関係論（15時間）、発達心理学（30時間）、臨床心理学（15時間）、カウンセリング論（15時間）、看護を知る（15時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：北星学園大学（精神保健の課題と支援）

学内委員会・学科内業務等：教授会　入学者選抜委員会　ハラスメント相談委員　看護学科一日体験入学ワーキンググループ（責任者）入学前学習課題担当（責任者）学生担当教員（２年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本精神障害者リハビリテーション学会　日本精神保健福祉学会　日本社会福祉学会　日本地域福祉学会　日本学生相談学会　北海道地域福祉学会（理事）　北海道社会福祉学会（学術誌編集委員）

科学研究費（研究資金）の取得：平成30（2018）年度～令和３（2021）年度科学研究費基盤研究（Ｃ）18K02113「政策決定過程における精神障害当事者委員参画と当事者活動との関連」研究代表者、教育向上研究費「障害のある学生支援に向けたPDCAサイクルの確立と支援体制構築に向けた試案の検討」研究代表者

社会活動：北海道地域福祉学会理事、北海道社会福祉学会学術誌編集委員、精神障害者回復者クラブすみれ会理事、北海道庁総務部法務・法人局北海道史編さん委員会社会・文化小部会委員、令和元（2019）年度「第22回精神保健福祉士全国統一模擬試験」問題作成者（株式会社テコム）

顕彰：なし

氏名　森口　眞衣　　職階　教授

専門分野：アジア医療思想史

教育活動：

責任科目：論理学（看護学科１年次、１単位、15時間）、倫理学（看護学科１年次、１単位、15時間）、哲学（看護学科１年次、１単位、15時間）、生命倫理（看護学科１年次、１単位、15時間）、宗教と思想（看護学科２年次、１単位、15時間）、倫理学（リハビリテーション学科１年次、１単位、15時間）、生命倫理（リハビリテーション学科１年次、１単位、15時間）、倫理学（診療放射線学科１年次、１単位、15時間）、生命倫理（診療放射線学科１年次、１単位、15時間）、宗教と思想（診療放射線学科１年次、１単位、15時間）

担当科目：論理学（15時間）、倫理学（30時間）、哲学（15時間）、生命倫理（45時間）、宗教と思想（15時間）、看護を知る（15時間）、看護研究（10時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：北翔大学（高齢社会と生涯教育）、札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学）、苫小牧看護専門学校（哲学、生命倫理）、北星学園大学（現代と宗教）、札幌保健医療大学（生命倫理）

学内委員会・学科内業務等：教授会、研究倫理委員会、FD委員会、学生担当教員（１年主担任）、兼担教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科）、入学前学習課題担当、オープンキャンパス面接特別講座担当（真栄キャンパス・恵み野キャンパス）、進学相談会担当（札幌３件）、保護者懇談会担当

学術活動：

所属学会・研究会等：日本医学哲学・倫理学会、日本生命倫理学会、日本宗教学会、日本印度学仏教学会、日本精神病理学会、日本精神医学史学会（評議員）、日本森田療法学会、インド思想史学会、九州医学哲学・倫理学会、北海道生命倫理研究会（コアメンバー）、北海道大学文学研究科宗教学研究会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究Ｃ）「精神療法の成立と展開における宗教動態との接点および影響関係の研究」研究代表者（令和元（2019）年度～令和５（2023）年度）、科研費（基盤研究Ａ）「アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究」研究分担者（令和元（2019）年度～令和３（2021）年度）、上廣倫理財団平成30年度研究助成「日本における『東洋医学』のあり方をめぐって：多様化と共生」代表者（平成31年度）

社会活動：北海道生命倫理研究会夏季セミナー座長（７月20日）、日本精神医学史学会第24回大会実行委員会

顕彰：なし

氏名　山田　敦士　　職階　教授

専門分野：言語人類学、言語教育、東南アジア地域研究

教育活動：

責任科目:日本語表現（看護学科１年次、１単位、60時間（30時間×２クラス））、日本語表現（リハビリテーション学科1年次、1単位、60時間（30時間×２クラス））、日本語表現（診療放射線学科１年次、１単位、30時間）、中国語（看護学科２年次、１単位、60時間（30時間×２クラス））、中国語（リハビリテーション学科１年次、１単位、60時間（30時間×２クラス））、中国語（診療放射線学科２年次、１単位、30時間）

担当科目：日本語表現（看護学科、60時間）、日本語表現（リハビリテーション学科、60時間）、日本語表現（診療放射線学科、30時間）、中国語（看護学科、60時間）、中国語（リハビリテーション学科、60時間）、中国語（診療放射線学科、30時間）、看護研究演習（看護学科、60時間）

非常勤講師：北星学園大学（中国語）、北海道リハビリテーション大学校（音声学）

学内委員会・学科内業務等：教授会、キャリア学修支援センター、カリキュラム委員会、自己点検評価委員会、認証評価検討委員会、兼担教員（リハビリテーション学科、診療放射線学科）、入学前課題担当、看護学科カリキュラム検討会、オープンキャンパス小論文特別講座担当（真栄キャンパス2回、恵み野キャンパス２回）、バトミントン部顧問

学術活動：

所属学会･研究会等:日本言語学会、日本中国語学会（評議員、北海道支部幹事）、中国人文学会、北海道民族学会（運営委員）、社会言語科学会、家畜資源研究会

科学研究費（研究資金）の取得:科研費（若手Ｂ）「ワ族の文字表記と書承文化に関する調査研究」研究代表者（平成28（2016）年度～令和元（2020）年度）、科研費（基盤Ｂ）「タイ文化圏に関する言語事典の編纂に向けて」分担者（平成30（2018）年度～令和４（2022）年度）

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　藤長　すが子　　職階　教授

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目:看護学概論（１年次、２単位、30時間）、看護の基本技術論（１年次、１単位、15時間）、生活援助技術Ⅰ（1年次、1単位、30時間）、生活援助技術Ⅱ（1年次、１単位、30時間）、生活援助技術Ⅲ（１年次、１単位、30時間）、援助的人間関係論（1年次、１単位、30時間）看護過程論（２年次、１単位、30時間）、看護ヘルスアセスメント論（２年次、１単位、30時間）、診療過程の援助技術（２年次、１単位、30時間）、臨床看護技術演習（４年次、２単位、90時間）基礎看護学実習Ⅰ（２年次、１単位、45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（２年次、２単位、90時間）、統合実習（４年次、２単位、90時間）

担当科目：看護学概論（30時間）、看護の基本技術論（15時間）、生活援助技術Ⅰ（20時間）、生活援助技術Ⅱ（８時間）、生活援助技術Ⅲ（20時間）、援助的人間関係論（30時間）、看護過程論（30時間）、看護ヘルスアセスメント論（20時間）、診療過程の援助技術（20時間）、看護ゼミナー

ルⅢ（24時間）、看護研究演習（28時間）、臨床看護技術演習（30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）、統合実習（90時間）

非常勤講師：北海道看護協会主催　専任教員養成講習会（看護教育課程論）北海道看護協会主催保健師助産師看護師実習指導者講習会統合分野（実習指導案作成、３時間）

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター部門員、オープンキャンパス担当、ハラスメント相談員

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護協会、看護科学学会、看護学教育学学会、看護技術学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　草薙　美穂　　職階　教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護学概論（３年次、２単位、30時間）小児看護援助論（３年次、１単位、30時間）、小児看護学実習（４年次、２単位、90時間）、看護ゼミナールⅣ（４年次、１単位、30時間）

担当科目：小児看護学概論（30時間）、小児看護援助論（30時間）、小児看護学実習（90時間）、看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅠ（20時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（56時間）

非常勤講師：天使病院看護部（看護研究・質的研究、１時間）

学内委員会・学科内業務等：教授会、キャリア学修支援センター、図書・学術振興委員会、看護学科カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児看護学会、日本小児保健協会、乳幼児保健学会、日本乳幼児医学・心理学会、北海道母性衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：科学研究費・基盤（Ｃ）（平成30（2018）年～令和２（2020）年）「ファミリーパートナーシップに基づく育児支援―支援者の人材育成への方略―」研究代表

社会活動：天使病院・生後１ヶ月健診育児支援「すくすく相談室」、北海道小児救急電話相談（＃8000）

顕彰：なし

氏名　浅井　さおり　　職階　教授

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：老年看護学概論（２年次、２単位、30時間）、老年看護援助論Ⅰ（２年次、１単位、30時間）、

老年看護援助論Ⅱ（３年次、１単位、30時間）、老年看護学実習Ⅰ（３年次、２単位、90時間）、老年看護学実習Ⅱ（４年次、２単位、90時間）

担当科目：老年看護学概論（28時間）、老年看護援助論Ⅰ（28時間）、老年看護援助論Ⅱ（26時間）、老年看護学実習Ⅰ（90時間）、老年看護学実習Ⅱ（90時間）、看護を知る（11時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）看護研究演習（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、図書・学術振興委員会、衛生委員会、学年担当教員（４年担当）、カリキュラム検討会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健医療行動科学会、日本看護科学学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本認知症ケア学会（査読委員）、日本健康科学学会、聖路加看護学会、日本看護倫理学会（臨床倫理ガイドライン検討委員会委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：ノテ福祉会認知症ケア研修「認知症の人の意思や希望を大切にしたかかわり」（８月20日）

顕彰：なし

氏名　高橋　美和　　職階　教授

専門分野：統合看護学、基礎看護学

教育活動：

責任科目：看護倫理（３年次、１単位、15時間）、看護管理（３年次、１単位、15時間）、医療安全（３年次、１単位、15時間）、感染管理（３年次、１単位、15時間）、医療情報（４年次、１単位、15時間）

担当科目：看護倫理（15時間）、看護管理（15時間）、医療安全（15時間）、医療情報（15時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、入学者選抜委員会、研究倫理委員会、研究費審査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本看護管理学会、日本国際保健医療学会、日本混合方法学会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：東北大学看護管理学研究会運営委員

顕彰：

氏名　進藤　ゆかり　　職階　教授

専門分野：地域・在宅看護学、老年看護学、家族看護学、慢性看護学

教育活動：

責任科目：在宅看護学概論（２年次、２単位、30時間）在宅看護援助論Ⅰ（３年次、１単位、30時間）在宅看護援助論Ⅱ（３年次、１単位、30時間）在宅看護論実習（４年次、２単位、90時間）

担当科目：在宅看護学概論（30時間）在宅看護援助論Ⅰ（30時間）在宅看護援助論Ⅱ（26時間）在宅看護論実習（90時間）看護を知る（15時間）看護ゼミナールⅠ（15時間）看護ゼミナールⅢ（30時間）看護ゼミナールⅣ（30時間）看護研究演習（60時間）

非常勤講師：北海道看護協会　看護過程と看護記録研修会

学内委員会・学科内業務等：教授会、カリキュラム検討会委員

学術活動：

所属学会・研究会等：ホスピスケア研究会、看護総合科学研究会、日本家族看護学会、日本精神保健看護学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、北海道ペインクリニック学会、北海道公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本地域看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：

●文部科学省研究基盤研究（Ｃ）「非がん性慢性痛を抱えたがん患者に対するオピオイド鎮痛薬治療の現状と課題」 代表

●文部科学省研究基盤研究（Ｃ）「終末期がん患者の望む生き方を支える看護師の対話力獲得モデルと尺度の開発」 分担

●文部科学省研究費基盤研究（Ｃ）「終末期がん患者の家族間コミュニケーションを促進する看護師教育プログラムの構築」 分担

社会活動：科研製薬株式会社　社外プロトコール等アドバイザー、札幌市立大学茶部サークルボランティア講師

顕彰：なし

氏名　山崎　公美子　　職階　教授

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：診療過程の援助技術（20時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会

学術活動：

所属学会･研究会等：American Association for the History of Nursing、日本看護歴史学会（理事）、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本医史学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　滋野　和恵　　職階　講師
専門分野：精神看護学
教育活動：
責任科目：精神看護学援助論（３年次前期、１単位30時間）、精神看護学実習（３年次後期、２単位90時間）、看護研究（３年次前期、1単位30時間）、看護研究演習（４年次通年、２単位60時間）
担当科目：看護を知る（１年次前期、１単位30時間）、看護ゼミナールⅠ（２年次通年、１単位30時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次通年、１単位30時間）、統合実習（４年次前期、２単位90時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：学生委員会、FD委員会、実習検討会、看護を知る担当G、看護研究・看護研究演習担当G、統合実習担当G
学術活動：
所属学会・研究会等：
日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本応用心理学会、SST普及協会、日本精神科看護協会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言者
顕彰：なし

氏名　高儀　郁美　　職階　准教授
専門分野：成人看護学
教育活動：
責任科目：成人看護援助論Ⅰ（２年次後期１単位30時間、30時間）
担当科目：看護を知る（16時間）、成人看護援助論Ⅰ（30時間）、成人看護援助論Ⅱ（16時間）、成人看護援助論Ⅲ（16時間）、成人看護学特論（30時間）、成人看護学実習Ⅰ（90時間）、成人看護学実習Ⅱ（90時間）、看護研究演習（60時間）、看護研究演習Ⅰ（30時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：カリキュラム検討会、人権擁護委員会、看護を知る、看護研究演習Ⅰ、１年生副担任担当
学術活動：
所属学会・研究会等：日本死の臨床研究会、日本死の臨床研究会北海道支部、日本行動療法学会、日本ヒューマンケア心理学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、

日本家族看護学会、日本建築学会、日本医療福祉設備協会、愛知県看護教育研究学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　工藤　悦子　　職階　講師

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：小児看護学概論（30時間）、小児看護援助論（30時間）、小児看護学実習（90時間）、看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、北海道成育看護研究会

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学教育向上研究費・研究代表者、基盤研究（C）「子どもと家族へのグリーフサポートにおけるコミュニティケアの検証と再構築の試み」・研究分担者

社会活動：北海道看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言、小児・周産期看護ケア検討会企画・運営

顕彰：なし

氏名　福島　眞里　　職階　講師

専門分野：母性看護学

教育活動：

責任科目：看護ゼミナールⅢ（３年次、１単位、30時間）

担当科目：母性看護援助論（30時間）母性看護学実習（90時間）看護を知る（15時間）看護ゼミナールⅢ（30時間）看護研究演習（60時間）看護ゼミナールⅣ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：FD委員会　オープンキャンパス／キャンパスツアーWG　看護ゼミナールⅢ担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　大村　郁子　　職階　講師
専門分野：母性看護学
教育活動：
責任科目：母性看護援助論（３年次後期、１単位、30時間）
担当科目：看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、看護ゼミナールⅢ（24時間）、母性看護援助論（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護研究演習（60時間）、母性看護学実習（90時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：学生委員会、実習検討会、高校訪問、学生担当教員（３学年主担任）
学術活動：
所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本産前産後ケア・子育て支援学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：北海道看護協会教育委員、日本医療大学生涯学習講座講師
顕彰：なし

氏名　吉田　　香　　職階　講師
専門分野：基礎看護学、看護教育
教育活動：
責任科目：生活援助技術Ⅱ（１年次、１単位、30時間）
担当科目：生活援助技術Ⅰ（１年次、１単位、30時間）、生活援助技術Ⅲ（１年次、１単位、30時間）、診療過程の援助技術（２年次、１単位、30時間）、看護ヘルスアセスメント（２年次、１単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅰ（２年次、１単位、45時間）、看護ゼミナールⅡ（２年次、１単位、30時間）、基礎看護学実習Ⅱ（２年次、２単位、90時間）、看護研究（３年次、１単位、30時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次、１単位、30時間）、統合実習（４年次、２単位、90時間）、看護研究演習（４年次、２単位、60時間）、看護ゼミナールⅣ（４年次、１単位、30時間）、臨床看護技術演習（４年次、１単位、30時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：実習検討会、学生募集必達プロジェクト、オープンキャンパス、一日体験入学
学術活動：
所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、北海道医療

大学看護福祉学部学会、看護科学研究学会、日本看護協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　合田　恵理香　　職階　講師

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（２年次、２単位、18時間）、成人看護援助論Ⅱ（３年次、１単位、８時間）、成人看護援助論Ⅲ（３年次、１単位、18時間）、成人看護学特論（２年次、１単位、16時間）、成人看護学実習Ⅰ（３年次、４単位、180時間）、成人看護学実習Ⅱ（４年次、２単位、90時間）、看護を知る（1年次、1単位、15時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次、１単位、30時間）、看護研究演習（４年次、２単位、60時間）、基礎看護学実習Ⅰ（２年次、１単位、45時間）、統合実習（４年次、２単位、90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：実習検討会、高校訪問担当教員、看護ゼミナールⅢ担当グループ、親睦会役員

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護学教育学会、日本ヒューマンケア心理学会、日本看護歴史学会、日本音楽療法学会、日本統合医療学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　齋藤　道子　　職階　講師

専門分野：感染看護、感染管理

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：

看護を知る（１年次、１単位、15時間）、成人看護援助論Ⅰ（２年次、１単位、14時間、成人看護学特論（２年次、１単位、14時間）、成人看護援助論Ⅱ（３年次、１単位、12時間）、成人看護援助論Ⅲ（３年次、１単位、20時間）、感染管理（３年次、１単位、15時間）、看護ゼミナールⅠ（２年次、１単位、30時間）、看護ゼミナールⅢ（３年次、単位、30時間）、看護ゼミナールⅣ（４年次、１単位、10時間）、看護研究演習（４年次、２単位、60時間）、成人看護学実習

Ⅰ（３年次、４単位、180時間×2)、成人看護学実習Ⅱ（４年次、２単位、90時間×5)、統合実習（４年次、２単位、90時間)、基礎看護学実習Ⅱ（２年次、２単位、90時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

看護学科カリキュラム検討委員会，オープンキャンパス担当WG，一日体験入学企画・運営担当，４年生副担任，看護ゼミナールⅠ担当WG，看護ゼミナールⅢ担当WG，臨床看護技術演習担当WG

学術活動：

所属学会･研究会等:日本環境感染学会（ISO ／ TC304国内審議委員会, 委員)、日本感染看護学会、日本看護研究学会、日本NP学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

日本医療大学　生涯学習講座講師（令和元（2019）年10月19日）

社会福祉法人ノテ福祉会　法人開催研修「感染症」講師（令和元（2019）年10月16日）

顕彰：なし

氏名　園田　典子　　職階　講師

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：生活援助技術Ⅰ（30時間）生活援助技術Ⅱ（30時間）生活援助技術Ⅲ（30時間）看護ヘルスアセスメント論（30時間）看護過程論（30時間）基礎看護学実習Ⅰ（45時間）診療過程の援助技術（30時間）基礎看護実習Ⅱ（90時間）看護ゼミナールⅢ（30時間）統合実習（90時間）看護研究演習（60時間）看護ゼミナールⅣ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：オープンキャンパスWG

学術活動：

所属学会・研究会等：日本看護学教育学会、北海道人格教育協議会（理事）

科学研究費（研究資金）の取得：若手研究（Ｂ）「看護師の道徳的発達段階と看護実践における倫理的課題の認識との関連」（平成29（2017）年度～令和２（2020）年度）研究代表者

社会活動：北海道人格教育協議会　正会員

顕彰：なし

氏名　菅原　美保　　職階　助教

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：なし
担当科目：小児看護学概論（30時間）、小児看護援助論（30時間）、看護ゼミナールⅣ（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、看護を知る（30時間）、看護研究演習（90時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター、実習検討会、庶務
学術活動：
所属学会・研究会等：日本小児看護学会、北海道医療大学看護福祉学部学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：日本医療大学生涯学習講座
顕彰：なし

氏名　竹之内　優美　　職階　助教
専門分野：老年看護学
教育活動：
責任科目：なし
担当科目：老年看護学実習Ⅰ（３年次、２単位、90時間）、老年看護学実習Ⅱ（４年次、２単位、90時間）、基礎看護学実習Ⅱ（２年次、２単位、90時間）、老年看護学概論（６時間）、老年看護援助論Ⅰ（４時間）、老年看護援助論Ⅱ（18時間）、看護を知る（15時間）、看護ゼミナールⅠ（30時間）、看護ゼミナールⅢ（30時間）、看護研究（４時間）、看護研究演習（60時間）
非常勤講師：定山渓病院（新人看護師教育担当者研修会、1.5時間）
学内委員会・学科内業務等：実習検討会、看護学科１日体験入学、高校訪問
学術活動：
所属学会・研究会等：日本看護倫理学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本心理学会、日本健康心理学会、北海道心理学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　後藤　理香　　職階　助教
専門分野：在宅看護、公衆衛生看護
教育活動：
責任科目：なし
担当科目：在宅看護援助論Ⅰ（18時間）、在宅看護援助論Ⅱ（16時間）、在宅看護学概論（８時間）、在宅看護論実習（540時間）、看護を知る（15時間）、ゼミナールⅠ（16時間）、ゼミナールⅢ（24時間）、ゼミナールⅣ（24時間）、看護研究演習（30時間）

非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：実習検討会、看護学科1日体験入学担当グループ
学術活動：
所属学会・研究会等：日本看護科学学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生看護学会、北海道公衆衛生学会、日本母性衛生学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　鳥塚あゆみ　　職階　助手
専門分野：成人看護学
教育活動：
責任科目：なし
担当科目:看護を知る（１年次、１単位、15時間)、看護ゼミナールⅠ（２年次、１単位、30時間）看護ゼミナールⅢ（３年次、１単位、30時間)、看護ゼミナールⅣ（４年次、１単位、16時間)、看護研究演習（４年次、２単位、60時間)、成人看護援助論Ⅰ（２年次、１単位、14時間)、「成人看護援助論Ⅱ（３年次、１単位、８時間)、成人看護援助論Ⅲ（３年次、１単位、18時間)、成人看護学特論（２年次、１単位、16時間)、成人看護学実習Ⅰ（３年次、４単位、180時間×2)、成人看護学実習Ⅱ（４年次、２単位、90時間×3)「基礎看護学実習Ⅰ（２年次、１単位、45時間)、基礎看護学実習Ⅱ（２年次、２単位、90時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：親睦会役員、１日体験入学WG、庶務係
学術活動：
所属学会・研究会等：日本造血細胞移植学会、日本看護研究学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　山下　亜季　　職階　助手
専門分野：老年看護学
教育活動：
責任科目：なし
担当科目：老年看護学実習Ⅰ（90時間)、老年看護学実習Ⅱ（90時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：なし
学術活動：

所属学会・研究会等：なし
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし

10－1－③　リハビリテーション学科教員

氏名　太田　　誠　　職階　教授

専門分野：理学療法概論・原論、健康政策、神経筋促通治療学
教育活動：
責任科目：理学療法概論（1年次、1単位、30時間）、理学療法概論演習（1年次、1単位、30時間）、健康政策論（4年次、1単位、7.5時間）、リハビリテーション概論（看護3年次、1単位、15時間）
担当科目：理学療法概論（30時間）、理学療法概論演習（30時間）、リハビリテーション概論（看護3年次、15時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：教務委員会、自己点検・評価委員会、入学者選抜委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、ハラスメント防止委員会、国際交流委員会、賞罰委員会
学術活動：
所属学会・研究会等：日本基礎理学療法学会、日本地域理学療法学会、日本理学療法教育学会、北海道リハビリテーション学会（理事・学術委員）、北海道神経リハビリテーション治療フォーラム（世話人）
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：公益社団法人北海道理学療法士会（会長・表彰推薦選考委員会委員）、一般社団法人北海道リハビリテーション専門職協会（会長）、公益社団法人日本理学療法士協会（監事）、特定非営利活動法人HPT（理事長）、札幌市理学療法赤十字奉仕団（委員長）、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構（評価員）、一般社団法人ヘルスケア・ロボット協会（理事）、一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団（理事）、北海道マラソン（大会役員）、札幌国際スキーマラソン（実行委員会役員）、北海道地域医療介護総合確保基金（介護分）検討協議会（委員）、北海道医療技術者団体連絡協議会（理事）
顕彰：なし

氏名　向井　康詞　　職階　准教授

専門分野：解剖学、運動器障害、運動生理学
教育活動：
責任科目：解剖学演習（1年次前期、2単位60時間）、臨床判断学（基礎編）（2年次後期、1単位30時間）、臨床判断学（応用編）（3年次後期、1単位30時間）、運動器障害理学療法学（3

年次前期、１単位30時間）

担当科目：解剖学演習（60時間）、臨床判断学（基礎編）（30時間）、臨床判断学（応用編）（30時間）、運動器障害理学療法学（30時間）、生理学演習（30時間）、運動学演習（30時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）、卒業研究Ⅱ（60時間）

非常勤講師：北海道メディカル・スポーツ専門学校（スポーツ医学Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：学生委員会、FD委員会、募集必達プロジェクト、理学療法学専攻４学年担任、解剖学見学実習担当、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、日本義肢装具学会、運動生理学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：「北海道理学療法学」査読委員

恵庭長寿大学講師（2019年12月18日）

顕彰：なし

氏名 大堀　具視　職階 教授

専門分野：作業療法（身体障害、認知症）

教育活動：

責任科目：作業療法概論（１年次、１単位、30時間）、作業療法セミナーⅠ（１年次、１単位、30時間）、地域リハビリテーション学（２年次、１単位、30時間）、身体障害作業治療（３年次、２単位、60時間）、日常生活適応学（３年次、2単位、60時間）、作業療法セミナーⅢ（３年次、１単位、30時間）、チーム医療論（３年次、１単位、15時間）、リハビリテーション管理学（４年次、１単位、15時間）

非常勤講師：ひまわり会札樽病院臨床指導、IMS札幌内科リハビリテーション病院臨床指導、特別養護老人ホーム芦別慈恵園介護指導、特別養護老人ホーム和寒芳生苑介護指導、特別養護老人ホームとよひらの里現場指導、特別養護老人ホーム新さっぽろの里現場指導

学内委員会・学科内業務等：作業療法学専攻長、キャリア学修支援センター、研究倫理委員会、不正調査委員会、学生委員会、FD委員会、カリキュラム委員会、入学者選抜委員会、入試委員会、研究費審査委員会、国際交流委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：（社）日本作業療法士協会、（公社）北海道作業療法士会、作業療法研究学会、日本生態心理学会、地域リハビリテーション研究会、日本ボバース研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：

北海道作業療法士連盟代表、北海道リハビリテーション専門職協会理事、学術誌「作業療法」編集委員、学術誌「作業療法の実践と科学」査読委員、札幌市介護認定審査会委員

・空知老人福祉施設協議会主催　介護職員等研修講師（2019年９月３日、2019年11月12日：特別養護老人ホーム芦別慈恵園）
・（株）ライフデザイン主催研修講師（2019年９月23：サービス付き高齢者住宅ライフシップ植物園前）
・芦別市みんなで介護考える会　講演会講師（2019年９月８日：芦別市民会館）
・釧根地区介護福祉士会主催研修講師（2019年10月13日：釧路専門学校）
・上川地区老健交流会講師（2019年10月18日：大雪クリスタルホール）
・グループホームひかり職員研修（2019年10月30日：旭川市春光台公民館）
・恵庭市長寿大学講師（2019年11月20日：恵庭市民会館）
・社会福祉法人ふるさと職員研修講師（2019年11月29日：帯広百年記念会館）
・はいせつケア実践報告会　特別講演（2019年12月１日：京都社会福祉会館）
・緑陽会主催研修講師（2019年12月10日：養護老人ホーム苫小牧静和荘）
・第19回認知症を考える会　分科会講師（2020年２月９日：香川県　ユープラザうたづ）
顕彰：なし

氏名　乾　　公美　　職階　特任教授
専門分野：運動療法学、義肢装具学、神経筋促通治療学（PNF）、骨格筋生理学
教育活動：
責任科目：運動療法学（２年次、１単位、30時間）、神経筋促通治療学（３年次、１単位、30時間）、研究法（３年次、１単位、30時間）、卒業研究Ⅰ（３年次、１単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（４年次、４単位、60時間）
担当科目：運動療法学（２年次、１単位、30時間）、神経筋促通治療学（３年次、１単位、30時間）、研究法（３年次、１単位、30時間）、卒業研究Ⅰ（３年次、１単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（４年次、４単位、60時間）
非常勤講師：山形県立保健医療大学（神経筋促通治療学、20時間）
学内委員会・学科内業務等：教授会、自己点検評価委員会（委員長）、チューター
学術活動：
所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本リハビリテーション医学会、日本義肢装具学会、日本生理学会、日本体力医学会、日本PNF学会（理事）、北海道リハビリテーション学会（評議員）、北海道理学療法士会（表彰審査委員会委員長）、全国リハビリテーション学校協会（北海道ブロック理事）
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：恵庭市長寿大学運営委員会委員
顕彰：なし

氏名　髙橋　光彦　　職階　教授

専門分野：　運動療法学、物理療法学、呼吸器系理学療法学、運動学

教育活動：

責任科目：運動学（２年次前期、４単位30時間、30時間）、運動学演習（２年次後期、１単位15時間、15時間）、呼吸・循環器障害理学療法学（２年次後期、１単位15時間、15時間）、物理療法学（３年次前期、１単位15時間、15時間）、物理療法学演習（３年次前期、１単位15時間、15時間）、臨床実習Ⅱ（３年次後期、３単位45時間、３時間）

担当科目：生理学演習（２年次前期、１単位15時間、12時間）、研究法（３年次前期、１単位15時間、１時間）、卒業研究Ⅰ（３年後期、１単位15時間、15時間）

非常勤講師：北海道柔道整復師専門学校（リハビリテーション医学、運動学）、北星学院大学（リハビリテーションⅡ）

学内委員会・学科内業務等：教授会、日本医療大学認知研究所研究員、チューター、学生団体サークル「サッカーサークル」「恵み野バドミントンサークル」

学術活動：

所属学会・研究会等：：日本理学療法士協会、日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本体力医学会、北海道リハビリテーション学会

科学研究費（研究資金）の取得：厚労省科学研究費（難治性疾患等克服研究事業）

社会活動：恵庭市社会福祉審議会・障害者福祉専門部会委員

氏名　佐藤　秀紀　　職階　教授

専門分野：保健福祉学、老年社会科学、リハビリテーション学、

教育活動：

責任科目：リハビリテーション論（１年次、２単位、30時間）、地域理学療法学（３年次、１単位、30時間）、生活環境学（３年次、１単位、30時間）、高齢期障害理学療法学（３年次、１単位、30時間）

担当科目：リハビリテーション論（30時間）、地域理学療法学（８時間）、生活環境学（30時間）、高齢期障害理学療法学（30時間）、臨床実習

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会（委員長）、入学者選抜委員会、自己点検評価委員会、教員選考委員会　　学科：専攻長、１年生学担、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本保健福祉学会（査読委員）、日本社会福祉学会（査読委員）、日本老年社会科学学会（査読委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　八田　達夫　　職階　教授

専門分野：作業療法学

教育活動：

責任科目：発達障害作業治療学（60時間）、就労支援作業療法学（30時間）、作業療法特論（シーティング）（30時間）

担当科目：作業療法概論（２時間）、卒業研究Ⅰ（30時間）

非常勤講師：北海道大学医学部保健学科作業療法学専攻　職業関連作業療法学（６時間）、北星学園大学社会福祉学部　リハビリテーション論Ⅰ（30時間）

学内委員会・学科内業務等：日本医療大学認知症研究所研究員

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、日本リハビリテーション工学カンファレンス、日本職業リハビリテーション学会（ブロック理事）、北海道アクティブバランスシーティング研究会（副代表）、北海道感覚統合研究会（顧問）

科学研究費（研究資金）の取得：認知症高齢者のリハビリテーションモデル、介護モデルの発展に寄与しうる「理想的ないす」の開発（㈱クオリ受託研究）

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　岸上　博俊　　職階　教授

専門分野：高齢期作業療法　地域作業療法

教育活動：

責任科目：高齢期障害作業治療学　３年次（通年）60時間、日常生活適応学（ADL）３年次（前期）60時間、作業療治療学特論（治療理論）３年次（後期）30時間

担当科目：作業療法概論、卒業研究Ⅱ　４年次（通年）60時間、臨床実習Ⅰ　２年次（後期）、臨床実習Ⅱ　３年次（後期）、臨床実習Ⅲ　４年次（前期）

学内委員会・学科内業務等：教授会、教務委員会、図書・学術振興委員会、カリキュラム委員会、リハビリテーション学科カリキュラム委員会、安全衛生委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会（理事）、障害学会、日本作業科学研究会、作業療法を社会学・障害学する研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：札幌市内における訪問作業療法実施

顕彰：なし

氏名　西山　　徹　　職階　准教授

専門分野：義肢装具学、身体運動学

教育活動：

責任科目:義肢装具学（３年次、１単位、15時間)、義肢装具学演習（３年次、１単位、15時間)、理学療法評価学（運動器系）（２年次、１単位、15時間）

担当科目:義肢装具学（３年次、１単位、30時間)、義肢装具学演習（３年次、１単位、30時間)、理学療法評価学（運動器系）（２年次、１単位、30時間)、理学療法評価学演習（運動器系）（２年次、２単位、60時間)、運動学演習（２年次、１単位、30時間)、臨床判断学（基礎編）（２年次、１単位、30時間)、臨床判断学（応用編）（３年次、１単位、30時間)、義肢装具作業療法学（３年次、１単位、４時間)、災害リハビリテーション（３年次、１単位、２時間)、臨床実習Ⅰ（理学療法）（２年次、１単位、６時間)、臨床実習Ⅱ（理学療法）（３年次、３単位、12時間)、臨床実習Ⅲ（理学療法）（４年次、16単位、12時間)、卒業研究Ⅰ（３年次、１単位、30時間)、卒業研究Ⅱ（４年次、２単位、60時間）

非常勤講師：北海道医療大学（義肢装具学Ⅱ)、札幌リハビリテーション専門学校（義肢関連理学療法）

学内委員会･学科内業務等:教授会、カリキュラム委員会、人権擁護委員会、FD委員会、オープンキャンパスワーキンググループ、学生担当教員（３年生)、チューター、恵み野バレーボール部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、日本PNF学会、日本理学療法科学学会、臨床歩行分析研究会

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究Ｃ（一般))「模擬義足を用いた新しい歩行練習に関する基礎的研究」研究代表者（2019年度～2021年度）

社会活動：北海道理学療法士学術大会　査読委員、介護職員初任者研修講師　日本医療大学生涯学習センター

顕彰：なし

氏名　矢口　智恵　　職階　准教授

専門分野：神経生理学、運動生理学、姿勢制御

教育活動：

責任科目：機能解剖学（１年次、１単位、30時間)、運動学Ⅰ（１年次、２単位、30時間)、生理学演習（２年次、１単位、30時間)、運動療法学演習（２年次、１単位、30時間)、発達障害理学療法学（３年次、１単位、30時間）

担当科目:機能解剖学（30時間)、運動学Ⅰ（30時間)、生理学演習（30時間)、運動療法学演習（30時間)、発達障害理学療法学（30時間)、理学療法評価学（神経系）（30時間)、理学療法評価学演習（神経系）（60時間)、臨床判断学（基礎編）（30時間)、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時間)、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間)、臨床実習Ⅲ（理学療法）（24時間)、卒業研究Ⅰ（30時間)、卒業研究Ⅱ（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：研究倫理委員会、図書・学術振興委員会、研究費審査委員会、国際交流委員会、学科カリキュラム検討ワーキンググループ、学生担当教員（理学療法学専攻４年生）、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本健康行動科学会（編集委員、評議員）、日本理学療法士協会、Society for Neuroscience、日本臨床神経生理学会、日本生理人類学会（評議員）

科学研究費（研究資金）の取得：科研費（基盤研究（Ｃ）（一般））「高齢者における体性感覚と視覚への注意分散と姿勢制御の関連」研究代表者（平成29年度～令和３年度）

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　及川　直樹　　職階　准教授

専門分野：身体障害作業療法学、義肢装具学、上肢の運動器疾患・スポーツ障害の予防およびリハビリテーション

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（骨・関節系）（２年次、１単位、30時間）、作業療法セミナーⅡ（２年次、１単位、30時間）、身体障害作業治療学（運動器・内部障害系）（３年次、１単位、30時間）、義肢装具作業療法学（３年次、１単位、30時間）、義肢装具作業療法学演習（３年次、１単位、30時間）

担当科目：体表解剖学（１年次、１単位、30時間）、臨床実習Ⅰ（作業療法）（１年次、２単位）、作業療法治療学特論（ハンドセラピィ）（３年次、１単位、30時間）

非常勤講師：札幌リハビリテーション専門学校（作業療法各論、30時間）、羊ヶ丘病院

学内委員会・学科内業務等：教授会、研究倫理委員会、人権擁護委員会、作業療法学専攻２学年担任、作業療法学専攻臨床実習担当教員、キャリア学修支援センター学科内部門員、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、北海道ハンドセラピィ研究会（監事）

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成金

社会活動：学術誌「作業療法」査読者、北海道作業療法士会　学術部　編集委員会、「作業療法と実践の科学」論文審査委員、第31回日本ハンドセラピィ学会学術集会実行委員、2019年度メディカルスタッフのための運動器解剖セミナー（インストラクター）、NPO法人北海道野球協議会少年野球肘検診、羊ヶ丘病院臨床・研究指導、福住整形外科クリニック　スプリント作成講習会講師

顕彰：なし

氏名　石橋　晃仁　　職階　准教授

専門分野：神経系理学療法学

教育活動：

責任科目:理学療法セミナーⅠ（１年次後期、１単位30時間)、理学療法セミナーⅡ（２年次後期、１単位30時間)、理学療法セミナーⅢ（３年次前期、１単位30時間)、神経障害理学療法学（３年次前期、１単位30時間)、神経障害理学療法学演習（３年次前期、１単位30時間)、日常生活活動基礎学（３年次前期、１単位30時間）

担当科目：理学療法セミナーⅠ（１年次後期、30時間）理学療法セミナーⅡ（２年次後期、30時間)、理学療法セミナーⅢ（３年次前期、30時間)、神経障害理学療法学（３年次前期、30時間)、神経障害理学療法学演習（３年次前期、30時間)、日常生活活動基礎学（３年次前期、30時間)、チーム医療論（３年次前期、２時間)、卒業研究Ⅰ（３年次後期、30時間)、卒業研究Ⅱ（４年次通期、60時間)、リハビリテーション管理学（４年次後期、８時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター運営委員、学生委員会委員、ハラスメント相談員、オープンキャンパスワーキンググループ、理学療法学専攻１年生学生担当教員、理学療法学専攻臨床実習担当教員、チューター、軟式野球部顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、北海道理学療法士会（社会局介護予防・健康増進支援部長)、認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、日本リハビリテーションスポーツ学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動:札幌市理学療法赤十字奉仕団　副委員長、全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック　幹事、公益社団法人日本理学療法士会　代議員、第70回北海道理学療法士学術大会　査読委員、いきいき健康・福祉フェア2019アドバイザー、理学療法士会ブース運営責任者、札幌刑務所高齢･障害受刑者用社会復帰支援プログラム「基本的生活動作訓練」講師、大谷地パークアベニュー団地いきいきサロン体操指導　講師、北海道理学療法士会介護予防推進リーダー導入研修会　講師、札幌宮の沢脳神経外科病院　臨床および勉強会･研究指導　特別講師、STVラジオ「工藤じゅんきの十人十色」ツルハ千年カメは万年健康一口メモゲスト出演

顕彰：なし

氏名　合田　央志　　職階　講師

専門分野：老年期作業療法学、福祉用具学、日常生活活動学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（基礎）（２年前期、１単位、15時間)、基礎作業学演習（基礎作業分析）（１年前期、１単位、15時間)、福祉用具学（３年後期、１単位、30時間)、福祉住環境論（３年後期、１単位、30時間）

担当科目：作業療法評価学演習（基礎）（２年前期、１単位、15時間）、基礎作業学演習（基礎作業分析）（１年前期、１単位、15時間）、生理学演習（２年前期、１単位、30時間）、運動学演習（２年後期、１単位、15時間）、福祉用具学（３年後期、１単位、30時間）、福祉住環境論（３年後期、１単位、30時間）卒業研究Ⅰ（３年後期、１単位、15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：学担（４年生）、チューター、ホームページ担当、バスケットボール部顧問、卓球サークル顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法学会、北海道作業療法士会、北海道作業療法学会（演題査読委員）、日本リハビリテーション工学カンファレンス

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック　幹事、ノテ福祉会　職員講習会（札幌、東京、仙台、計６回）、日本医療大学生涯学習講座

顕彰：なし

氏名　木原由里子　　職階　講師

専門分野：地域理学療法学、高齢者理学療法学、公衆衛生学

教育活動：

責任科目：地域リハビリテーション学演習（２年次、１単位、２時間）、理学療法評価学演習（運動器系）（２年次、２単位、60時間）

担当科目：地域理学療法学（３年次、１単位、12時間）、理学療法評価学（運動器系）（２年次、１単位、30時間）、生理学演習（２年次、１単位、30時間）、運動学演習（２年次、１単位、６時間）、災害リハビリテーション（３年次、１単位、15時間）、卒業研究Ⅰ（３年次、１単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（３年次、１単位、30時間）

非常勤講師：札幌医科大学（地域理学療法学、高齢者理学療法学）

学内委員会・学科内業務等：ハラスメント相談員、チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会、日本国際保健医療学会、応用老年学会

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成金

社会活動：理学療法学（査読委員）、北海道理学療法士会社会局介護予防・健康増進支援部（部員）、日本理学療法士協会新人教育プログラム（講師）、独立行政法人国際協力機構（JICA）国際緊急援助隊（登録者）、北海道リハビリテーション専門職協会（HARP）2019年地域包括ケアシステムにおける介護予防アドバイザー養成研修（講師）、HARP災害リハコーディネーター研修会（活動報告）、札幌市西区普及員活動研修会（講師）、地域リハを学ぶ会（講師）

顕彰：なし

氏名　清本　憲太　　職階　講師

専門分野：疼痛、知覚、整形外科学、作業療法学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学（２年次、１単位、30時間）、作業療法評価学演習（中枢神経系）（２年次、２単位、60時間）、作業療法評価学演習（神経・筋力系）（２年次、２単位、60時間）作業療法治療学特論（ハンドセラピィ）（３年次、１単位、30時間）

担当科目：作業療法評価学演習（骨・関節系）（60時間）、作業療法治療学（内部障害・運動器障害）（30時間）、生理学演習（30時間）

非常勤講師：埼玉県立大学（身体機能作業療法学演習（基礎））、札幌リハビリテーション専門学校（作業療法特論　ハンドセラピィ）

学内委員会・学科内業務等：学科内カリキュラム検討委員会、臨床実習担当（専攻内）、OSCE運営委員、学生担当教員（２年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：日本作業療法士協会、日本ハンドセラピィ学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本作業療法研究学会、日本センソリーリハビリテーション研究会、北海道整形災害外科学会、北海道骨粗鬆症研究会、北海道作業療法士会（教育部員）、北海道ハンドセラピィ研究会（理事）、第31回日本ハンドセラピィ学会学術集会実行委員

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成金（共同研究者）

社会活動：作業療法ジャーナル論文査読委員、日本作業療法士協会学会演題審査委員、北海道作業療法士会学会演題審査委員、北海道作業療法士会教育部員、我汝会えにわ病院リハビリテーション科研修会講師（痛みを強める要因と慢性疼痛のリハビリテーション―作業療法士の視点から―11月28日）

顕彰：なし

氏名　村上　　元　　職階　講師

専門分野：精神障害作業療法

教育活動：

責任科目：精神障害作業治療学（３年時、２単位、30時間）

担当科目：精神障害作業治療学（30時間）、基礎作業学演習（30時間）、生理学演習（30時間）、作業療法評価学（10時間）、作業療法セミナーⅠ（30時間）

非常勤講師：北星学園大学（社会的スキル実習、８時間）、札幌医科大学（精神障害作業療法治療学、２時間）、北海道医療大学（障がい当事者論、２時間）

学内委員会・学科内業務等：

学術活動：

所属学会・研究会等：北海道作業療法士会（論文審査委員）、日本作業療法士協会、SST普及協会（北海道支部副支部長、学術委員）、日本認知療法・認知行動療法学会、日本認知・行動療法学会、

日本パーソナリティ心理学会
社会活動：なし
顕彰：なし

氏名　新開谷　深　　職階　助教
専門分野：運動器理学療法、徒手理学療法
教育活動：
責任科目：情報科学演習、体表解剖学
担当科目：運動学演習
非常勤講師：北翔大学　生涯スポーツ学部　健康福祉学科　健康運動実践論、北星学園大学　スポーツ医学
学内委員会・学科内業務等：臨床実習担当、チューター、サッカー部顧問
学術活動：
所属学会・研究会等：公益（社）日本理学療法協会、公益（社）北海道理学療法士会、日本整形徒手療法協会　日本運動器徒手療法学会、マニュアルセラピー研究会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：北海道理学療法士会学会研修部および総務部、バイオメカニクスセミナー in 北翔大学にかかる講師
顕彰：

氏名　坂口 友康　　職階　助教
専門分野：地域理学療法、高齢者、認知症、理学療法評価、痛み
教育活動：
責任科目：理学療法評価学演習（神経系）（２年次、２単位、60時間）
担当科目：理学療法評価学（神経系）（２年次、１単位、30時間）、理学療法評価学演習（神経系）（２年次、２単位、60時間）、解剖学Ⅰ（１年次、２単位、60時間）※２クラスのため、30×２時間、地域理学療法学（３年次、１単位、２時間）、卒業研究Ⅰ（３年次、１単位、30時間）、卒業研究Ⅱ（３年次、２単位、60時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：学科会議議事録係（学会内業務）、親睦会係（学科内業務）
学術活動：
所属学会・研究会等：日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：生涯学習講座講師（月寒公民館2019.7.27）
顕彰：なし

10－１－④　診療放射線学科教員

氏名　渡邊　良晴　　職階　教授

専門分野：放射線治療技術学

教育活動：

責任科目：放射線治療技術学概論、放射線治療技術学、放射線治療計測学、放射線治療技術学演習、診療画像技術学実験Ⅱ、放射線技術学特別講義

担当科目：卒業研究、総合演習Ⅰ、Ⅱ

学内委員会・学科内業務等：人権擁護委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、日本診療放射線技師会、日本医学物理学会、日本放射線腫瘍学会、日本アイソトープ協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本医療大学　生涯学習講座、一般社団法人日本放射線治療専門技師認定機構　監事

顕彰：なし

氏名　住吉　　孝　　職階　図書館長・教授

専門分野：放射線化学、放射化学、物理化学、光化学

教育活動：

責任科目:化学（１年次、１単位15時間)、放射線物理学（１年次、２単位30時間)、放射化学（２年次、２単位30時間)、放射線物理演習（２年次、１単位30時間)、放射線計測学（３年次、２単位30時間）

担当科目:化学（15時間)、放射線物理学（30時間)、放射化学（30時間)、放射線物理演習（30時間)、放射線計測学（30時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：教授会、図書・学術振興委員会（委員長)、研究倫理委員会、研究費審査委員会、入学試験委員会、学生懲戒委員会

学術活動：

所属学会･研究会等:日本原子力学会（フェロー)、日本放射線化学会、日本アイソトープ協会（特別会員）

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成費

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　樋口　健太　　職階　教授

専門分野：保健物理学、環境放射線、放射線公衆安全学

教育活動：

責任科目:医療コミュニケーション学（１年次後期、１単位15時間、15時間)、放射化学演習（２年次後期、１単位30時間、30時間)、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査)（２年次後期、１単位45時間、45時間)、臨床解剖学演習（３年次前期、１単位30時間、30時間)、画像診断学Ⅱ（胸部・心大血管・消火器他)（４年次前期、２単位30時間、30時間)、画像診断学Ⅲ（演習)（４年次後期、１単位30時間、30時間)、総合演習（臨床領域)（４年次後期、１単位30時間、30時間)、卒業研究（４年次通年、４単位120時間、120時間)

担当科目:医療コミュニケーション学（１年次後期、1単位15時間、15時間)、放射線物理学実験（２年次前期、１単位45時間、45時間)、放射化学演習（２年次後期、１単位30時間、30時間)、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査)（２年次後期、１単位45時間、45時間)、臨床解剖学演習（３年次前期、１単位30時間、30時間)、画像診断学Ⅱ（胸部・心大血管・消火器他)（４年次前期、２単位30時間、30時間)、画像診断学Ⅲ（演習)（４年次後期、１単位30時間、30時間)、総合演習（臨床領域)（４年次後期、１単位30時間、30時間)、卒業研究（４年次通年、４単位120時間、120時間)、チーム医療（看護学科２年次後期、１単位15時間、２時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等:教授会、FD委員会（委員長)、自己点検評価委員会、認証評価検討委員会、IR部会、学生委員会、カリキュラム委員会、ハラスメント相談員、懲罰委員会、日本医療大学後援会（役員)、学年担当教員（４年担当)

学術活動：

所属学会・研究会等：日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、放射線安全取扱部会、日本放射線公衆安全学会、診療放射線学教育学会、北海道放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線技術学会北海道支部会、日本放射線技術学会学術推進員、日本放射線技術学会北海道支部放射線計測防護専門委員

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成費（代表者)

社会活動：「日本医療大学紀要」の査読審査

顕彰：なし

氏名　俵　紀行　　職階　教授

専門分野：磁気共鳴医工学、スポーツ医科学

教育活動：

責任科目：放射線物理学実験（２年次、１単位、45時間)、診療画像技術学Ⅱ（造影検査)（３年次、２単位、30時間)、画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波・造影画像)（３年次、２単位、30時間)、MRI検査学（３年次、２単位、30時間)、画像診断学Ⅰ（頭部・頸部・脊髄)（３年次、２単位、30時間)、医療安全管理学（４年次、１単位、15時間)

担当科目：放射線科学概論（１年次、１単位、15時間)、診療画像技術学実験Ⅰ（X線検査)（２年次、１単位、45時間)、診療画像機器学実験（３年次、１単位、45時間)、診療画像機器学実験（３年次、１単位、45時間)、卒業研究（４年次、４単位、60時間)、総合演習Ⅰ（専門基礎

領域）（４年次、１単位、30時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、入学者選抜委員会、研究費審査委員会、国際交流委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、医用画像情報学会、日本磁気共鳴医学会、日本医学物理学会、日本骨形態計測学会、日本ヒト脳機能マッピング学会、日本放射線技師会、北海道放射線技師会、ESR（European Society of Radiology）、SMRT（Section for Magnetic Resonance Technologists）

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：Saitama MRI Conference 委員、一般社団法人日本磁気共鳴医学会代議員

顕彰：

氏名　河原田　泰尋　　職階　教授

専門分野：放射線管理・計測学、医療放射線物理学

教育活動：

責任科目：放射線安全管理学（３年次、２単位、30時間）、医療機器安全管理学（３年次、１単位、15時間）、放射線計測学演習（４年次、１単位、30時間）、放射線カウンセリング学（４年次、１単位、15時間）

担当科目：医用工学実験（２年次、１単位、45時間）、総合演習Ⅰ（４年次、１単位、30時間）、総合演習Ⅱ（４年次、１単位、30時間）、卒業研究（４年次、４単位、60時間）、臨床実習Ⅰ（３年次、４単位、180時間）、臨床実習Ⅱ（４年次、６単位、270時間）

学内委員会：教授会、FD委員会、図書・学術振興委員会、カリキュラム委員会

学術活動：

所属学会：日本医療物理学会、日本放射線技術学会、日本放射線技術学会計測部会、日本放射線技師会、医療放射線防護連絡協議会

科学的研究費（研究資金）の取得：日本医療大学教育向上研究費助成金

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　杉本　芳則　　職階　講師

専門分野：放射線技術学、胃Ｘ線読影技術、予防医学、情報学

教育活動：

責任科目：情報科学（１年次、１単位、15時間）、情報科学演習（１年次、１単位、30時間）、診療画像技術学概論（２年次、１単位、15時間）、診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）（２年次、２単位、30時間）、画像解剖学Ⅰ（Ｘ線画像）（２年次、２単位、30時間）、超音波検査学（２年次、２単位、30時間）

担当科目：情報科学（15時間）、情報科学演習（30時間）、診療画像技術学概論（15時間）、診療画像技術学Ⅰ（一般撮影）（30時間）、画像解剖学Ⅰ（X線画像）（30時間）、放射線物理学実験（45時間）、診療画像技術学実験Ⅰ（45時間）、総合演習Ⅰ（2時間）、総合演習Ⅱ（６時間）、卒業研究指導（120時間）、情報科学補講（30時間）、国家試験対策補講（28時間）、国家試験対策グループ学習（18時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：教務委員会、学生委員会、キャリア学習支援センター運営委員、学担（１年生）、臨床実習巡回

学術活動：

所属学会・研究会等：日本放射線技術学会、日本CT検診学会、日本消化器がん検診学会（北海道支部放射線研修委員）、日本放射線技師会、日本消化器画像診断情報研究会（常任世話人）、日本医用画像管理学会、札幌ニューテクノロジー研究会（相談役）、日本消化器がん検診精度管理評価機構、大阪消化管撮影技術研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：クラウド型クリッカーの提供・運用（令和元（2019）年９月14日．日本消化器がん検診精度管理評価機構　胃X線精度管理研究委員会　第32回学術集会）

顕彰：なし

氏名　小山　和也　　職階　講師

専門分野：核医学，Positron emission tomography

教育活動：

責任科目：核医学検査技術学概論、核医学検査技術学、核医学検査技術学演習

担当科目：診療放射線学概論、診療画像技術学実験Ⅱ、診療画像機器学実験

非常勤講師：首都大学東京客員研究員

学内委員会・学科内業務等：図書委員会、研究倫理委員会、学生委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本核医学技術学会、日本放射線技術学会、日本診療放射線学教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：

顕彰：

氏名　木村　　徹　　職階　講師

専門分野：医療画像情報学、医療画像工学、医療画像処理学

教育活動：

責任科目：医療画像処理学、医療画像工学、医療画像情報学、医療画像情報学演習

担当科目：医療画像処理学（２年次後期、１単位15時間、15時間）、医用工学実験（２年次前期、

１単位45時間、45時間)、診療画像技術学実験Ⅰ（２年次後期、１単位45時間、45時間)、医療画像工学（３年次前期、２単位30時間、30時間)、医療画像情報学（３年次後期、２単位30時間、30時間)、医療画像情報学演習（４年次後期、１単位30時間、30時間)、総合演習Ⅰ（４年次後期、１単位30時間、４時間)、総合演習Ⅱ（４年次後期、１単位30時間、４時間）

補講：国家試験対策（第１種放射線取扱主任者試験対策講義)（２、３年生対象前期）

学内委員会・学科内業務等：キャリア学修支援センター運営委員会、入学者選抜委員会、２学年担任

学術活動：

所属学会・研究会等：日本アイソトープ協会、日本放射線技術学会、日本教育工学会、診療放射線学教育学会、日本放射線技師教育学会、生体医工学会、精密工学会、日本保健科学学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　白石　祐太　　職階　助教

専門分野：医学物理学

教育活動：

責任科目：Ｘ線ＣＴ検査学（３年次前期、２単位、30時間)、医療情報管理学（４年次前期、１単位、15時間)、画像解剖学Ⅲ（３年次後期、１単位、30時間）

担当科目：Ｘ線ＣＴ検査学（30時間)、医療情報管理学（15時間)、画像解剖学Ⅲ（30時間)、総合演習Ⅰ（30時間)、総合演習Ⅱ（30時間)、診療画像技術学実験Ⅱ（45時間)、医用工学実験（45時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：自己点検・評価委員会、研究倫理委員会、FD委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：日本医学物理学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

氏名　小笠原　凌介　　職階　助手

専門分野：放射線管理学

教育活動：

責任科目：

担当科目：第１種放射線取扱主任者補講、診療放射線技師国家試験対策補講（診療画像機器学、医用工学)

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

学術活動：

所属学会・研究会等：日本診療放射線学教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学教育向上研究費

社会活動：

顕彰：

10－2．　教員の学術業績

10－2－①　総長・学長・参事

島本　和明

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原　著：

Furuhashi M, Matsumoto M, Murase T, Nakamura T, Higashiura Y, Koyama M,Tanaka M, Moniwa N, Ohnishi H, Saitoh S, Shimamoto K, Miura T（2019）. Independent links between plasma xanthine oxidoreductase activity and levels of adipokines.J Diabetes Investig,10（4）：1059-1067.

Furuhashi M, Koyama M, Matsumoto M, Murase T, Nakamura T, Higashiura Y,Tanaka M, Moniwa N, Ohnishi H, Saitoh S, Shimamoto K, Miura T（2019）. Annual change in plasma xanthine oxidoreductase activity is associated with changes in liver enzymes and body weight. Endocr J, 66（9）：777-786.

Kitagawa K, Yamamoto Y, Arima H, Maeda T, Sunami N, Kanzawa T, Eguchi K,Kamiyama K, Minematsu K, Ueda S, Rakugi H, Ohya Y, Kohro T, Yonemoto K, Okada Y, Higaki J, Tanahashi N, Kimura G, Umemura S, Matsumoto M, Shimamoto K, Ito S, Saruta T, Shimada K; Recurrent Stroke Prevention Clinical Outcome（RESPECT）Study Group（2019）.Effect of Standard vs Intensive Blood Pressure Control on the Risk of Recurrent Stroke: A Randomized Clinical Trial and Meta-analysis. JAMA Neurol,Epub ahead of print.

Furuhashi M, Koyama M, Higashiura Y, Murase T, Nakamura T, Matsumoto M, Sakai A, Ohnishi H, Tanaka M, Saitoh S, Moniwa N, Shimamoto K, Miura T（2020）. Differential regulation of hypoxanthine and xanthine by obesity in a general population.J Diabetes Investig,Epub ahead of print.

銭本隆行（2019）．高齢者主体の活動への高齢者，専門職，行政の関わりについての研究―福岡県

大牟田市白川校区のNPO活動を通して―．北海道地域福祉研究，22，13-27.

その他：

銭本隆行（2019）．デンマーク・スヴェンボー市における『認知症の街』の取り組みについて．日本福祉大学紀要，5，71-78.

銭本隆行（2019）．日本とデンマークの高齢者ケアシステムの国際比較―デンマークの特異性に着目して―．福祉社会開発研究，15，111-119.

銭本隆行（2020）．地域で暮らし続ける～日本とデンマークの福祉から～．毎日新聞WEB「医療プレミア」連載．2020年１月から毎月.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

なし

シンポジウム：

なし

一般口演：

島本和明：東村幸村，古橋眞人，小山雅之，田中希尚，茂庭仁人，松本めぐみ，酒井晶子，村瀬貴代，中村敬志，大西浩文，齋藤重幸，島本和明，三浦哲嗣．一般住民におけるキサンチン酸化還元酵素（XOR）活性と高血圧との関連．第42回日本高血圧学会総会．2019年10月27日．東京都新宿区.

銭本隆行：地域における高齢者主体の活動についての考察～デンマークの高齢者の活動をとおして～．北海道社会福祉学会2019年度総会・研究大会．2019年５月．札幌.

銭本隆行：高齢者自身による地域共生社会の可能性についての考察：デンマークの高齢者の活動をとおして．第33回日本地域福祉学会．2019年６月．倉敷.

銭本隆行：日本とデンマークの高齢者ケアシステムの国際比較―構成要素の普遍性と特異性に着目して―．日本社会福祉学会第67回秋季大会．2019年９月．大分.

示説：

銭本隆行：デンマーク・スベンボー市における「認知症の街」の取り組み―ヨーロッパにおける認知症ケアの新たな流れ―．第20回日本認知症ケア学会．2019年５月．京都.

銭本隆行：Clinicaleffectsofasparagusstemextract（ETAS®50）onpatientswithmilddementiaアスパラガス茎抽出物（ETAS®50）の軽度認知症患者に対する臨床効果に関する研究．統合医療機能性食品国際学会第25回年会．2019年７月．札幌.

その他：
なし

備考欄：研修会等
島本和明．循環器疾患のリスク管理について：高血圧を中心に．生活習慣病予防のための人材育成研修会．2019年６月28日．札幌市．
島本和明．「ここまで進んだ心臓・血管病の新しい治療法―脳梗塞の再生医療とは？」．令和元年度士別市健康づくり後援会．2019年10月10日．士別市．
島本和明．「高血圧ガイドライン2019」について．2019年度（公社）北海道栄養士会秋期職域別専門研修会．2019年10月18日．札幌市．
島本和明．高血圧を予防して．脳・心臓・腎臓を守ろう!～血圧の最新情報～．生活習慣病予防講演会兼健康増進講演会．2019年12月12日．北広島市．

10－２－②　看護学科教員
吉野淳一
論文（著書，総説，原著，その他）：
著書：
松本真由美（2019）．精神に障害のある人々の政策への参画当事者委員が実践するアドボカシー．明石書店
山田敦士（2020）．パラウク・ワ語（シリーズ記述文法２）．くろしお出版．
髙橋美和　医学書院「2020年度准看護師国家試験問題集」解答・解説
進藤ゆかり，上田泉，青木亜砂子，青柳道子，岡田尚美，菊池ひろみ，後藤里香，佐々木雅彦，他（2019）．在宅看護過程演習改訂版クオリティケア
後藤里香共著：在宅看護過程演習改訂版―アセスメント・統合・看護計画からの実施・評価へ―，編集・執筆；上田泉，執筆；青木亜砂子，青柳道子，岡田尚美，菊地ひろみ，後藤理香，佐々木雅彦，進藤ゆかり，竹生礼子，照井レナ，松木由理，水口和香子．クオリティケア．

総説：
竹之内優美（2020）．「実習」場面で学生が遭遇する困難とレジリエンスの関係―看護基礎教育を中心に―．北海学院大学大学院経営学研究科研究論集，18，1－23．

原著：
吉野淳一　Kazuki Yokoyama, Takafumi Morimoto, Satoe Ichihara-Takeda, Junichi Yoshino, Kiyoji Matsuyama, Nozomu Ikeda: Relationship between self-disclosure to first acquaintances and subjective well-being in people with schizophrenia spectrum disorders living in the community.,

Plos One, https://doi.org/10.1371/journal.pone.0223819, October 16, 2019

門間正子，城丸瑞恵，春名純平，牧野夏子，内田裕美，皆川ゆり子，神田直樹，田口裕紀子，津田久仁江，門間正子．北海道の地方都市の救急看護師が抱える困難の現状．札幌保健科学雑誌，第８号，pp.6－12，2019

神田直樹，田口裕紀子，門間正子，牧野夏子，春名純平，皆川ゆり子，城丸瑞恵．北海道地方都市の救急看護師が抱える困難に対するアクションリサーチを用いた介入の効果と影響．北日本看護学会誌，第22巻第１号，pp.9－20, 2019

林美枝子　Mieko Hayashi, Shizuko Nagata.（2020）Factors Related to Family Caregivers End-of-Life Home Care and at-Home Death Experiences―From a Survey of the Members of the Hokkaido Women's Group Liaison Council. *Bulletin of Japan Health Care College*, 6. 未査読あり

林美枝子，対馬輝美，高橋光彦，銭本隆行，田村素子，小林孝広，荒木めぐみ，浅井さおり，八田達夫，東海林哲郎（2020）「小規模多機能居宅介護事業所における家族介護者支援のための面談機能向上に関する調査報告」『地域ケアリング』Vol22No，1：72－77．査読なし

永田志津子，林美枝子（2020）「高齢者を対象とする在宅看取りの課題～開始期の看取り家族の語りに見る困難性」札幌大谷大学社会学部論集　第８号：57－84　査読なし

浅井さおり，林美枝子，高橋光彦，銭本隆行，田村素子，小林孝広，荒木めぐみ，八田達夫，東海林哲郎，対馬輝美（2020）「認知症の人の家族介護者への介護と仕事の両立支援:ケアマネジャーによる介護負担アセスメント・シートを用いた面談の有用性の検討」日本医療大学紀要第６巻，ページ未定　査読あり

松本真由美，村上元，林美枝子，森口眞衣，山田敦士（2020）．「障害のある学生支援に向けたPDCAサイクルの確立と支援体制構築に向けた試案の検討」．日本医療大学紀要第６巻，ページ未定　査読あり

佐々木由紀子，合田恵理香，高儀郁美（2019）．サービス付き高齢者向け住宅に勤務する介護責任者およびケアマネジャーの看取りに向けた準備性．日本医療大学紀要．5．3－14.

松本真由美（2019）．地方精神保健福祉審議会への精神障害当事者委員の参画に関する検討：当事者委員への聞き取り調査から．日本医療大学紀要，第５巻，15－28.

林美枝子，対馬輝美，高橋光彦，銭本隆行，田村素子，小林孝広，荒木めぐみ，浅井さおり，八田達夫，東海林哲郎（2020）：福祉の現場から小規模多機能型居宅介護事業所における家族介護者支援のための面談機能向上に関する調査報告．地域ケアリング22（1），72－77.

松本真由美，村上元，林美枝子，森口眞衣，山田敦士（2020）．大学における聴覚障害のある学生への合理的配慮と支援体制構築に向けた試み．日本医療大学紀要．6．27－38.

北岡佳子，佐々木沙耶，守屋有利，難波亨，山田千津子，進藤ゆかり（2019）．臨床研究コーディネーター（CRC）が介入している臨床研究入院患者に対する病棟看護師の看護支援の現状と課題第１報．看護総合科学研究会誌19（2），3－10.

守屋有利，難波亨，北岡佳子，佐々木沙耶，山田千津子，進藤ゆかり（2019）．臨床研究コーディネーター（CRC）が介入している臨床研究入院患者に対する病棟看護師の看護支援の現状と課題第

２報．看護総合科学研究会誌19（2），31－19.

Shindo Yukari, Iwasaki Soushi, Yamakage Michiaki,（2019）Efficacy and Practicality of Opioid Therapy in Japanese Chronic Noncancer Pain Patients. PAIN MANAGEMENT NURSING 20（3）：222-231, IF：1.5

Shindo Yukari, Aoyanagi Michiko, Iwasaki Soushi, Yamakage Michiaki,（2019），Patients living with chronic non-cancer pain receiving opioid therapy in Japan: a grounded theory study. 札幌医学雑誌88（1－6），53－64

佐々木由紀子，合田恵理香，高儀郁美（2019）．サービス付き高齢者向け住宅に勤務する介護責任者およびケアマネージャーの看取りに向けた準備性．日本医療大学紀要，5，3－14

齋藤道子（2018）．多剤耐性菌が検出されたために個室隔離となった患者への対応と看護師の感染対策に関する知識．日本感染看護学会誌，14（1），12－22.

後藤理香，河原田まり子（2020）．地方公務員の抑うつと職場のソーシャル・キャピタルとの関連．北海道公衆衛生学会誌，33（2），37－44.

その他：

松本真由美（2019）．オーストラリアニューサウスウェールズ州の権利擁護．大阪精神医療人権センター，人権センターニュース151，8－9.

大村郁子，後藤理香、藤長すが子，岡田尚美，（2020）．Ａ大学看護学生が領域別実習前に抱える不安の実態．日本医療大学紀要（投稿中）

本田光，河原田まり子，田仲里江，進藤ゆかり．（2019）地域保健活動の推進に活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度（SC－20）使用ガイド．北海道公衆衛生学雑誌33：107－111.

山本澄子，高儀郁美，水野正延，野上睦美（2020，３月）．看護大学生の自尊感情調査結果による対応の一考察．愛知県看護教育研究学会23．36－40.

福島眞里，菅原美保，後藤理香，向井康詞，新開谷深，岡田尚美，島本和明（2019）．解剖見学実習の事前学習における人体標本見学実習の教育効果．日本医療大学紀要．5．に投稿中

菅原美保，福島眞里，後藤理香，向井康詞，新開谷深，岡田尚美，島本和明（2019）．解剖実習改善に向けた新たな取り組み．日本医療大学紀要．5．に投稿中

後藤理香，福島眞里，菅原美保，向井康詞，新開谷深，岡田尚美，島本和明（2019）．解剖実習の事前学習における病理解剖ビデオ視聴の教育効果．日本医療大学紀要．5．に投稿中

研究資料：美濃陽介，吉田香（2019）：日本の学校教員における働きがいの所存―構造方程式モデリングを用いた分析から―Job Satisfaction of Japanese School Teachers: A Structural Equation Modeling Analysis　青森中央短期大学研究紀要，33，53－57.

菅原美保「小児看護学実習で学生が教員に望むこと」について研究を継続しています。成果については、本学紀要で発表予定

「解剖実習改善に向けた新たな取り組み」について、紀要に載せる予定

大村郁子，後藤理香，藤長すが子，岡田尚美（2020）．Ａ大学３年次看護学生が領域別実習前に抱

える不安の実態，日本医療大学紀要掲載予定.

後藤理香，福島眞里，菅原美保，向井康詞，新開谷深，岡田尚美，島本和明（2020）．解剖実習の事前学習における病理解剖ビデオ視聴の教育効果，日本医療大学紀要掲載予定.

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

吉野淳一：自死を扱う時に若いセラピストに知っておいて欲しいこと．一般社団法人日本家族療法学会第36回札幌大会．2019年６月29日．札幌.

山田敦士（2019）．牛皮に記された文字のゆくえ：中国雲南地域の書承文化．2019年度第５回地域・産業研究会．11月29日．釧路公立大学．釧路.

シンポジウム：

齋藤道子．NP制度との関連．第35回日本環境感染学会総会・学術集会　シンポジウム19「次世代の感染管理担当者：その発掘・養成・教育」2020年２月15日．横浜.

一般口演：

林美枝子，永田志津子「在宅看取り環境設定における困難性に関する家族介護者の語り分析」第27回日本介護福祉学会大会．静岡県立大学．2019年９月１日.

松本真由美：オーストラリアニューサウスウェールズ州の政策決定過程への精神疾患経験のある当事者委員の参画―政策提言としてのアドボカシー―．日本地域福祉学会第33回岡山大会．2019年６月９日．岡山.

松本真由美：精神に障害のある人々の人権―精神科病院入院患者の権利擁護：オーストラリアとの比較から―．北海道地域福祉学会全道研究大会．2019年10月５日．札幌.

松本真由美：オーストラリアNSW州の精神保健福祉―精神疾患経験者による政策提言としてのアドボカシー―．日本精神障害者リハビリテーション学会第27回大阪大会．2019年11月24日．大阪

森口眞衣．医学・医療における「倫理」について：成立・方向性・範囲の変化．医倫プロジェクト第１回全体会．2019年８月２日．東京.

森口眞衣．日本における「東洋医学」の多様化をめぐって．九州医学哲学・倫理学会第10回学術大会．2019年９月７日．北九州.

森口眞衣．森田療法の成立背景と「催眠（術）」の関係について．日本精神医学史学会第23回学術大会．2019年10月27日．岡山.

森口眞衣．日本における「東洋医学」のあり方をめぐって：多様化と共生．2019上廣倫理財団助成研究発表会．2019年12月14日．東京.

Atsushi, Y.（2019）．Texts and writing cultures in the Wa Community: researches and collaborative activities on an illiterate society. East Asian Anthropological Association 2019．９月28－29日．Chonbuk National University．Jeonju.

示説：

Yuka Harada, Izumi Sawada, Junichi Yoshino: A study of model patterns for coping with depression via the family system. The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, February, 2020, Japan, p176

林美枝子, 永田志津子「死を整える　看取りの家族介護者の語りから」第43回日本死の臨床研究会. 神戸国際展示場. 2019年11月１日.

Taeko TERASIMA, Juniti, TANEMOTO, Michiko, KOYAMA, Mieko, MIYAKE, Kyouko, TUJI.

23. Effect of BriefExperiential rainingIn lectures Using Modified SimulatedBlood Wesseis comparison of nursing students` opinion thisYear and last yesr, internationl, Education Society, 16－17. July, 3. 2019. Honolulu,

小山満子，三宅美恵子．性暴力被害を受けた女性の見解．第５回日本フォレンジック学術集会. 2019．東京.

合田恵理香，高儀郁美，佐々木由紀子．看護大学生の日常生活行動時間の実態調査―大学講義時と成人看護学急性期実習（３年次）の比較―．第39回日本看護科学学会学術集会．2019年11月30日．金沢.

藤長すが子，岡田尚美，後藤理香，大村郁子：看護実習における困難・不安・ストレスの量的研究の動向．第50回日本看護学会―看護教育―学術集会．2019年８月９日．和歌山.

浅井さおり，小西敏子，林幸子.「医療・福祉職者の看取り」の概念分析．第43回日本死の臨床研究会年次大会．2019年11月３日．神戸.

浅井さおり，竹之内優美．老年看護学実習における高齢者への倫理的実践に関する学生の学び．日本看護倫理学会第12回年次大会．2019年６月９日．大阪.

Fuka Kaizawa, Ayaka Mochizuki, Yukari Shindo*, Rika Yano,（2020）. Awareness and Prevention of Toxoplasmosis: A Survey of Japanese University Students, 第６回International nursing research conference of world academy of nursing science. 大阪，２月28日.

合田恵理香，高儀郁美，佐々木由紀子：看護大学生の日常生活行動時間の実態調査―大学講義時と成人看護学急性期実習（３年次）の比較―．第39回日本看護科学学会学術集会．2019年11月30日．金沢.

藤長すが子，岡田尚美，後藤理香，大村郁子．看護実習における困難・不安・ストレスの量的研究の動向．第50回日本看護学会－看護教育－学術集会．2019年８月９日．和歌山市.

合田恵理香，高儀郁美，佐々木由紀子．看護大学生の日常生活行動時間の実態調査―大学講義時と成人看護学急性期実習（３年次）の比較―．第39回日本看護科学学会学術集会．2019年11月30日～12月１日．金沢.

Erika, G.：Nursing Students' Experiences Related to Singing during Clinical Training. 23rd EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS. 2020年1月10～11日．Thailand

齋藤道子（2019）．個室隔離されている多剤耐性菌患者への心理敵的ケアを重視した看護師教育プログラムの開発．日本看護研究学会学術集会．2019年８月21日．大阪.

浅井さおり，竹之内優美（2019）．老年看護学実習における高齢者への倫理的実践に関する学生の学び．日本看護倫理学会第12回年次大会．2019年６月９日．大坂.

藤長すが子，岡田尚美，大村郁子，後藤理香．看護実習における困難・不安・ストレスの量的研究の動向．第50回平成31年度日本看護学会学術集会看護教育．2019年８月９日．和歌山市.

その他：

源本尚美，城丸瑞恵，門間正子，神田直樹，牧野夏子，春名純平，内田裕美，田口裕紀子．患者・家族、医療者が求める病院前救急活動への期待．第43回北海道救急医学会学種々集会―看護交流集会．2019年10月26日．札幌.

指定交流集会「身体拘束の解除ではなく、身体拘束を予防する看護実践を考えよう！」．日本看護倫理学会第12回年次大会．2019年６月９日．大阪.

第３回看護管理者応援研修「臨床で身体拘束をしないための看護管理者の役割」. 2019年４月14日．大阪.

第４回看護管理者応援研修「臨床で身体拘束をしないための看護管理者の役割」. 2019年８月３日．札幌.

吉田香「日本医療大学　講演会」テーマ；環境と健康．2019年６月29日．月寒公民館.

10－２－③　リハビリテーション学科教員

太田　誠

論文（著書，総説，原著，その他）：

北海道和種馬の乗馬が健康高齢者の身体に及ぼす影響、新開谷深，高橋光彦，太田誠，石橋晃仁，向井康詞，西山徹，白井興一，日本医療大学紀要．5.

著書：

大堀具視（2019）．DVD版「動き出しは本人から」の介護実践：利用者の思いに気づく、力を活かす．中央法規出版．ISBN978-4-8058-5857-8

矢口智恵（2019）．第７章「体幹」．運動機能解剖学（藤原勝夫編著），北國新聞社，金沢，pp. 84－109.

国田賢治, 矢口智恵（2019）．第８章「頭頸部」．運動機能解剖学（藤原勝夫編著）, 北國新聞社, 金沢, pp. 110－132.

古名丈人, 木原由里子(2020). 老年症候群. 池添冬芽編. 高齢者理学療法学テキスト. pp. 8－14. 東京：メジカルビュー社.

清本憲太（2019）．新　知覚をみる･いかす．中田眞由美、清本憲太、岩崎テル子．協同医書出版社．113－149，365－377.

総説：

村上元，清本憲太，西山薫，森元隆文，池田望（2020）．老年期（高齢者）と不安症―認知行動療法的アプローチの視点から．作業療法ジャーナル．54（4），327－331.

原著：

渋谷保紀，大堀具視，加藤良和（2019）．患者に対する個別の作業活動に着目した作業療法の経験．作業療法の実践と科学，1（3），40－43.

宝田光，大堀具視（2019）．長期入院中の若年性認知症者の自宅外泊に向けた取り組み：動作支援方法の共有に焦点を当てて．認知症ケア事例ジャーナル，12（3），175－182,

岸上博俊，戸田真弘，土屋語，椎名彩佳，池田保，清本憲太:夕張市における訪問リハビリテーションの実践報告―期間を定め卒業を前提とした介入．作業療法の実践と科学（2434－5806）1巻3号Page 44－48（2019.08）

西山徹（2019）．大腿切断者のQOL評価．日本義肢装具学会誌，35（4），255－258.

渋川佳彦，西山徹，木原由里子，石橋晃仁（2019）．高齢者における咄嗟の方向転換時のステップ戦略について．理学療法科学，35（2），295－300.

及川直樹，坪田禎子，青木光広，二宮英美歌，内山英一（2019）．ハンドスパンの違いによるピアノ演奏時の前腕および手部の筋活動．運動器リハビリテーション．30（1）．47－54.

渋川佳彦，西山徹，木原由里子，石橋晃仁（2020）．高齢者における咄嗟の方向転換時のステップ戦略について．理学療法科学35（2），295－300.

木原由里子，樋室伸顕，尚和里子，北澤一利，古名丈人，森満．Barriers to participation in a physical activity program for the elderly in one area of Hokkaido, Japan. 日本医療大学紀要．5：53－59，2019.

Kotaro SHIMIZU, Yuriko KIHARA, Kazunari ITOU, Keita TAI, Taketo FURUNA. How perception of personal space influence obstacle avoidance during walking: differences between young and older adults. Physical Therapy Research. In press

渋川佳彦，西山徹，木原由里子，石橋晃仁．高齢者における咄嗟の方向転換時のステップ戦略について．理学療法科学．35（2）：295－300，2020.

Ibe K., Iba K., Hanaka M., Kiyomoto K., Hayakawa H., Teramoto A., Emori M., Yamashita T. Hypersensitivity to cold stimulation associated with regional osteoporotic changes in tail-suspended mice.J Bone Miner Metab. 2020. 04 February.

その他：

向井康詞，新開谷深，木原由里子，西山徹（2019）．上腕における屈曲位・伸展位の周径差と肘屈曲筋筋力の関係．日本医療大学紀要，5，79－82.

北海道和種馬の乗馬が健康高齢者の身体に及ぼす影響　新開谷深，高橋光彦，太田誠，石橋晃仁，向井康詞，西山徹，白井興一，日本医療大学紀要　掲載予定

阿南浩司，藤原勝夫，国田賢治，矢口智恵（2019）．野球の投球動作の概観―身体各部位の協調運動と障害予防をふまえて―．Health Behavior Sci，18（2），75－80.

向井康詞，新開谷深，木原由里子，西山徹．上肢における屈曲位・伸展位の周径差と肘屈筋筋力の関係．日本医療大学紀要．5：79－82．2019.

石橋晃仁，伊藤良祐，渡邉佳織，奥寺雄毅，坂口友康，木原由里子．脳卒中片麻痺患者のMulti-Target Stepping Test施行における重症度による差異．日本医療大学紀要．5：83－86．2019.

岸上博俊：第15回大会シンポジウム：障害学とリハビリテーション学との対話―予防・ヘルスプロモーションをキーワードにして予防・ヘルスプロモーションを通して．障害学研究15巻Page142－149（2019.12）

岸上博俊，戸田真弘，土屋語，池田保，清本憲太，夕張市における訪問リハビリテーションの実践報告．作業療法の実践と科学．1．19－20.

村上元（2019）．被害妄想的観念の構造に影響する要因の検討．博士号学位論文．札幌医科大学保健医療学研究科

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：協会組織と生涯学習システム．北海道理学療法士会新人教育プログラム必須初期研修会.2019年９月22日．帯広，協会指定管理者の概要・施設管理者ネットワーク構築の必要性．北海道理学療法士会施設管理者研修会（初級）．2019年９月30日．札幌，地域包括ケアシステムにおけるPT・OT・STの役割．北海道リハビリテーション専門職協会研修会．2019年11月３日．旭川，協会指定管理者の概要・施設管理者ネットワーク構築の必要性.北海道理学療法士会施設管理者研修会（初級）．2019年11月９日．函館，地域包括ケアシステムにおけるPT・OT・STの役割.北海道リハビリテーション専門職協会研修会．2019年12月15日．小樽.

特別講演：なし

シンポジウム：

及川直樹：術後肩関節可動域獲得のために，どう考え，どうアプローチするか？　第46回日本肩関節学会・第16回肩の運動機能研究会．2019年10月．長野.

一般口演：

宝田光，大堀具視．長期入院の統合失調症患者に対するROCFの有用性及び生活技能との関連，日本作業療法学会．2019年９月．福岡.

新岡美樹，大堀具視，清本憲太，池田保，八田達夫．スヌーズレンを用いた作業療法により重度認知症高齢者の行動心理症状の軽減を認め作業参加が改善した一事例，日本作業療法学会．2019年９月．福岡.

有澤沙織，清本憲太，大堀具視，小川尚平．疼痛と心理社会的要因における性差の影響―地域在住高齢者の疼痛と性別の関係，日本作業療法学会．2019年９月．福岡.

小川尚平，清本憲太，小椋伸一，大堀具視，坪田貞子．地域在住高齢者の疼痛と生活障害に及ぼす心理社会要因の影響，日本作業療法学会．2019年９月．福岡．

スモン患者の居宅移動に伴う行動変容について：高橋光彦．第90回日本衛生学会学術総会，2020－３／26～３／28，岩手．

スモン患者におけるリハビリ対応について：高橋光彦，新野正明．スモンに関する調査研究班研究報告会，2020－１／31，東京．

令和元年度の北海道地区スモン検診結果：新野正明，矢部一郎，浜田晋輔，津坂和文，松本昭久，高橋光彦，築島恵理，橋本修二．スモンに関する調査研究班研究報告会，2020－１／31，東京．

新岡美樹，大堀具視，清本憲太，池田保，八田達夫．スヌーズレンを用いた作業療法により重度認知症高齢者の行動心理症状の軽減を認め作業参加が改善した一事例．第53回日本作業療法学会（2019.9福岡）

・小名忍，川村元,岸上博俊：拒否していた環境調整が可能となった一事例　趣味活動を通じて．第53回日本作業療法学会．2019.9.

・合田央志，八田達夫，岸上博俊，池田保：シーティングを希望した在宅で生活している重度高齢障害事例に対する介入効果．第48回北海道作業療法学会．2017．６．11

・作田逸啓，佐々木卓也，岸上博俊：長期療養生活の中で作業を通して役割を獲得し，生活が変化した認知症患者．第50回北海道作業療法学会．2019．６

矢口智恵，藤原勝夫，清田直恵．視覚情報の有無が一過性後方床移動時の体性感覚情報と姿勢制御に及ぼす影響．日本健康行動科学会第18回学術大会．2020年９月14日．札幌．

清田岳臣，藤原勝夫，中島有惟，国田賢治，阿南浩司，矢口智恵，清田直恵．上肢屈曲運動時の姿勢変換型の発達的変化．日本健康行動科学会第18回学術大会．2020年９月14日．札幌．

国田賢治，藤原勝夫，矢口智恵，清田岳臣，阿南浩司，佐藤文亮，花岡樹．視覚誘導性サッケード反応時間に対するギャップ呈示および頚部前屈保持による影響．日本健康行動科学会第18回学術大会．2020年９月14日．札幌．

阿南浩司，藤原勝夫，国田賢治，矢口智恵，佐藤文亮，長内達朗．野球の投球動作の概観―技術向上と障害予防をふまえて―．日本健康行動科学会第18回学術大会．2020年９月14日．札幌．

佐藤文亮，藤原勝夫，清田直恵，矢口智恵，国田賢治，阿南浩司．大腿前面皮膚へ圧力を変えて伸張したときの姿勢応答．日本健康行動科学会第18回学術大会．2020年９月14日．札幌．

新納拓也，明本聡，及川直樹，岡村健司：高校野球選手における投球時痛とトランクローテションの関連について．第70回北海道理学療法士学術大会．2019年７月．札幌．

及川直樹，清本憲太，大堀具視，成田和真、佐藤史子，明本聡，榊善成，新納拓也，岡村健司：社会人選手における投球時痛とトランクローテションの関係．第46回日本肩関節学会・第16回肩の運動機能研究会．2019年10月．長野．

鈴森雄貴，榊善成，佐藤史子，及川直樹，岡村健司：上方関節包再建術の術後自動可動域に影響を及ぼす因子の検討．第46回日本肩関節学会・第16回肩の運動機能研究会．2019年10月．長野．

合田央志，八田達夫，島本和明．骨盤サポート付き車いすが高齢者の嚥下に与える効果～舌骨上筋を標的筋とした筋電図の分析～．第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会．2019年９月６日．

新潟.

有澤沙織，清本憲太，大堀具視，小川尚平．疼痛と心理社会的要因における性差の影響―地域在住高齢者の疼痛と性別の関係―．第53回日本作業療法学会．2019年６月．福岡.

新岡美樹，大堀具視，清本憲太，池田保，八田達夫．スヌーズレンを用いた作業療法により重度認知症高齢者の行動心理症状の軽減を認め作業参加が改善した一事例．第53回日本作業療法学会．2019年６月．福岡.

早川光，射場浩介，花香恵，井部光滋，清本憲太，山下敏彦．皮膚創傷モデルマウスを用いた四肢疼痛行動増強に対する骨吸収抑制剤の効果の検討．第34回日本整形外科学会基礎学術集会．2019年10月．横浜.

清本憲太，射場浩介，花香恵，井部光滋，早川光，山下敏彦．骨粗鬆症の病態が変形性関節症の疼痛発症に及ぼすメカニズム　膝OAモデルマウスを用いた検討．第34回日本整形外科学会基礎学術集会．2019年10月．横浜.

及川直樹，清本憲太，大堀具視，成田和真，佐藤史子，明本聡，榊善成，新納拓也，岡村健司．社会人野球選手における投球時痛とトランクローテーションの関係．第46回日本肩関節学会．2019年10月．長野.

清本憲太，射場浩介，花香恵，早川光，山下敏彦骨粗鬆症の病態が変形性関節症の疼痛発症に及ぼすメカニズム　膝OAモデルマウスを用いた検討．第37回日本骨代謝学会．2019年10月．神戸.

早川光，射場浩介，花香恵，清本憲太，山下敏彦皮膚創傷モデルマウスを用いた四肢疼痛行動増強に対する骨吸収抑制剤の効果の検討．第37回日本骨代謝学会．2019年10月．神戸.

清本憲太，射場浩介，花香恵，井部光滋，早川光，山下敏彦．骨折後キャスト固定モデルマウスにおける疼痛行動および浮腫の検討．第138回北海道整形災害外科学会．2020年２月．札幌.

井部光滋，射場浩介，花香恵，清本憲太，早川光，山下敏彦．不動が寒冷過敏に与える影響について―不動モデルマウスを用いた検討―．第138回北海道整形災害外科学会．2020年２月．札幌.

清本憲太，射場浩介，花香恵，井部光滋，早川光，山下敏彦．骨粗鬆症の病態が変形性関節症の疼痛発症に及ぼす影響―OAモデルマウスを用いた検討―．第32回北海道骨粗鬆症研究会．2020年２月．札幌.

井部光滋，射場浩介，花香恵，清本憲太，早川光，山下敏彦．寒冷過敏と骨代謝異常の関連について―尾部懸垂マウスを用いた検討―．第32回北海道骨粗鬆症研究会．2020年２月．札幌.

高橋那奈，村上元：関係の築き方を工夫することにより，集団での対人行動に変化が生じた事例．第50回北海道作業療法学会．2019年６月８日．札幌.

村上元：統合失調症スペクトラム患者の被害妄想的観念の影響要因の検討．第７回全国作業療法学系大学院ゼミナール．2019年８月24日．札幌.

示説：なし

村上元，井上貴雄，安喰智美，高見展江，森元隆文，西山薫，池田望，北川信樹．ASD傾向を有するデイケア利用者に対するSCITの有用性の検討．第19回日本認知療法・認知行動療法学会.

2019年８月30日．東京.

村上元，西山薫，森元隆文，池田望：対人関係上の課題に対し認知行動療法を実施し不眠が改善した一例．第50回北海道作業療法学会．2019年６月８日．札幌.

その他：なし

10－２－④　診療放射線学科教員

渡邊　良晴

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

渡邊　良晴　一部執筆「放射線治療技術標準テキスト」

俵　　紀之（分担執筆）図解診療放射線技術実践ガイド第４版．2020年01月29日（１刷），分光堂，東京（Japan）.

小山　和也　スリムベーシック核医学　改訂２版　メディカルビュー社　共著

総説：なし

原著：

住吉孝（2020）．ヒドロキシシクロヘキサジエニルラジカルの光化学：４．ベンゾニトリル類．日本医療大学紀要第６巻

Kenta HIGUCHI.（2019）. Volcanic eruptions of Mt. Sakurajima and effects on outdoor radon concentrations. Bulletin of Japan Health Care College,6.（in press）

小笠原凌介，高津優大，小山和也，白石祐太，木村徹（2020）大学教育におけるモンテカルロシミュレーションの導入．日本医療大学紀要

その他：なし

口演（特別講演，シンポジウム，一般口演，示説，その他）：

特別講演：

小山　和也　2019医学物理士セミナー『放射線治療と磁気共鳴画像・核医学画像』講演

シンポジウム：なし

一般口演：

樋口健太，細田正洋，床次眞司，秋葉澄伯．桜島の火山活動とラドンおよび子孫核種濃度の解析，2019年度放射性物質環境動態・環境および生物への影響に関する学際共同研究（キックオフシン

ポジウム）．2019年７月８日．筑波.

（1）Kido, A., Shimohara, S., Nitanda, Y., Tang, M., Tawara, N.,Samukawa, M., Yamamoto, T.: Evaluation of muscle activities difference between dominant and non-dominant arms using MRI. 第117回日本医学物理学会大会報文集，pp.203－204"（O－137），横浜，（2019.04.13）

（2）Kido, A., Shimohara, S., Nitanda Y., Tang, M., Tawara, N., Mina Samukawa（寒川美奈），Toru Yamamoto（山本徹）: Leterality difference of forearm muscle activity evaluated by T2 mapping．日本磁気共鳴医学会雑誌, Vol. 39. SUPPLEMENT pp.202（O2－006）, 熊本, (2019.09.21)

（3）Kido, A., Shimohara, S., Nitanda, Y., Tang, M., Tawara, N., Samukawa, M., Yamamoto, T.: Muscle usage difference due to laterality -Evaluation by dynamic T2 mapping-. In: Proceedings of 36th Annual Scientific Meeting of European Society for Magnetic Resonance in Medicine & Biology, 36（Suppl 1）: S252（S18.05）, Rotterdam, Netherlands, 2019.（2019.10.05）

小笠原凌介，小山和也，木村徹．大学教育におけるモンテカルロシュミレーションの導入．第13回日本診療放射線学教育学会．2019年８月24日．東京.

小笠原凌介，小山和也，木村徹，白石祐太，西山篤．大学教育におけるモンテカルロシミュレーションの導入．第13回日本診療放射線学教育学会．2019年８月24日．東京.

示説：なし

その他：

樋口健太，細田正洋，床次眞司，秋葉澄伯.桜島の火山活動とラドンおよび子孫核種濃度の解析，2018年度放射性物質環境動態・環境および生物への影響に関する学際共同研究（最終報告会）．2019年３月11日．Web会議

編集後記

『日本医療大学年報』第５号をお届けいたします。資料をお寄せいただいた皆様ありがとうございました。あらためて感謝申し上げます。

この年報の該当年度は、平成から令和へ元号が変わる大きな変更が見られた１年でした。日本医療大学にとっては、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科のすべての学科で完成年度を迎えた大きな１年でありました。

本年報は、全学的な自己点検活動の基礎資料になります。この年報をベースにPDCAサイクルを活用しながら内部保障を高めていければと考えております。

（文責：岸上博俊）

自己点検評価委員会
委員長：岸　上　博　俊

委　員

吉　野　淳　一	向　井　康　詞
渡　邊　良　晴	門　間　正　子
樋　口　健　太	佐々木　由紀子
山　田　敦　士	西　山　　徹
福　山　篤　司	白　石　祐　太
青手木　良　光	澤　口　敏　明

編集事務担当
学生・教員サポートグループ：千葉なな子

日本医療大学年報　第５号
2019年

発行者　日本医療大学
〒004-0839　札幌市清田区真栄434-1
Tel（011）885-7711

印刷所　（社福）北海道リハビリー
〒061-1195　北広島市西の里507番地1
Tel（011）375-2116